

科目名/Subject : 情報リテラシー

曜日・講時/Day/Period : 前期 水曜日 1 講時後半

担当教員/Instructor : 2019 大河 雄一. 佐藤 克美. 爲川 雄二. 中島 平. 渡部 信一. 熊井 正之. 小嶋 秀樹. 尹 得霞

単位数/Credit(s) : 1

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

教育実践や教育学研究に必須となる「情報を扱う能力」の修得

Information processing literacy for the research and practice in education

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

ICT (Information and Communication Technology) 社会においては ICT 利用の操作の知識、技術のみならず、関連するトラブルや法律等を知り、自分を守る術を知らなければならない (知識)。そして、その知識をもとにうまく ICT を活用していく必要がある (実践)。さらに教育者は、学習者にその知識を伝え、ICT を活用させること (教授) が求められる。本講義では ICT を活用した教育を実施するうえで必要となる、コンピュータとそのネットワークについて、知識、実践、教授の 3 側面から学習する。より具体的には、コンピュータとそのネットワークシステムでおこる種々の問題について、それがなぜ起こるのか、防止するためには何が必要なのかを、心理的、技術的、法律的な側面から解説し、授業中の課題などで学修する。

In our society that relies on ICT (Information and Communication Technology), one must possess not only the knowledge and skills for using ICT but also the law and protection skill with regard to the use of ICT. Also, one has to utilize ICT effectively, and also has to have skills for teaching such knowledge and skills to the learners. In this course of lectures, students learn to utilize computers and networks for educational purposes, from three viewpoints of knowledge, practice, and teaching.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・情報通信技術 (ネットワーク、情報の収集・管理、セキュリティなど) の基礎を理解することができる。
- ・情報倫理とモラル (関連法規の基礎も含む) について検討し、説明・表現することができる。
- ・教育における情報通信技術活用のあり方 (実践例・今後の展望を含む) について考察し、その後の学修・研究に向けた動機づけや、実践的な教育方法・教材等の開発に向けた見通しを持つことができる。

To be able to understand the basic concepts regarding ICT (network, security, and handling information).

To be able to explain the ethical, moral, and legal aspects of using ICT in education.

To be able to envision how ICT can be utilized for education and be motivated for further study and research on the field.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第 1 回 : イントロダクション : 教育学研究・実践のための情報リテラシー (佐藤・小嶋・爲川)

第 2 回 : 教育における情報活用 : 情報教育編 (爲川)

第 3 回 : 教育における情報活用 : モラル・倫理・法規編 (爲川)

第 4 回 : 教育における情報活用 : グローバル化・多様性への対応編 (尹)

第 5 回 : 情報活用の実践 : 教育現場編・障害者支援編 (佐藤・熊井)

第 6 回 : 教育学を志す人のための情報通信技術 : コンピュータ技術編 (小嶋・大河)

第 7 回 : 教育学を志す人のための情報通信技術 : ネットワークおよびセキュリティ編 (小嶋・大河)

第 8 回 : まとめ : AI 時代における教育 (渡部)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

ミニットペーパーとレポート課題、及びディスカッションでの発言内容・態度等を総合的に判断して評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特になし (授業内で資料を適宜配布する)

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/13 13:52:24

科目名/Subject : エデュフェア・マインド

曜日・講時/Day/Period : 前期 水曜日 1 講時前半

担当教員/Instructor : 2019 川崎 聡大, 野口 和人, 後藤 武俊, 安保 英勇, 甲斐 健人, 青木 栄一, 李 仁子, 柴山 直, 高橋 満, 池尾 恭一

単位数/Credit(s) : 1

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

エデュフェア・マインド

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業の目的は次の3点である。①博士前期2年の課程で研究を進めるために必要な研究倫理を理解する。②「公正で包摂的な社会」の必要性やその構築に向けた諸分野の取組について学び、今後の研究・教育活動のなかに視点として採り入れていけるようにする。③コースや専門領域の異なる人と話をする際に必要なコミュニケーション能力を獲得する。

第1回、2回は、研究倫理に関する現状と諸課題について、その基礎となる人間と倫理の関係を踏まえつつ講ずる。東北大学「研究倫理に関するキャリア・ステージ別学習参照基準」をふまえた内容とする。第3回から8回は、各コース1名の教員が1回ずつ担当する。指定された文献に基づき、受講生はワークショップを行う。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ①博士（前期2年の）課程で研究を進めるために必要な研究倫理を理解する。
- ②「公正で包摂的な社会」の必要性やその構築に向けた諸分野の取組について学び、考察する能力を身につける。
- ③コースや専門領域の異なる人と話をする際に必要なコミュニケーション能力を獲得する。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回：人間と倫理（池尾 恭一 准教授）
 - 第2回：研究と倫理（野口 和人 教授）
 - 第3回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ（李 仁子 准教授）
 - 第4回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ（青木 栄一 准教授）
 - 第5回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ（高橋 満 教授）
 - 第6回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ（川崎 聡大 准教授）
 - 第7回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ（安保 英勇 准教授）
 - 第8回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ（柴山 直 教授）
- ただし、3回から8回は順不同

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席と各回ごとに提出するレポートによる。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

中野民夫、三田地真実（2017）『ファシリテーションで大学が変わる』ナカニシヤ出版 他

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

指定された文献および関連文献をあらかじめ読んで出席することが求められる。

8. その他/In addition :

業務の都合等で指定された曜限に出席できない場合は相談の上、ISTUによる参加を認める場合がある。あらかじめ甲斐まで申し出ること（tkai@sed.tohoku.ac.jp）。

9. 更新日付/Last Update :

2019/04/09 09:20:12

科目名/Subject : 生涯教育科学基礎論

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2019 石井山 竜平

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

生涯学習と地域社会教育

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

成人教育とそれを支える公的条件をめぐる基本理念と、それをめぐる今日的課題についての理解を深める。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

現代では、学校教育に限定されない教育への世間的な認知は一定程度広がっている。しかし、そうした領域を指す、たとえば、「生涯学習」「社会教育」などの概念が普及したのは 20 世紀、とりわけその後半からのことであり、人類史からすれば、ごく最近のことであるという。このことが持つ意味とは何なのだろうか。そして今、地域における学習にはいかなる展開がみられるのだろうか。

この講義では、今日の地域学習の諸相を手がかりに、私たちが生きている現代社会の課題をとらえ返しつつ、これからの時代における地域生涯学習の在り方について考察する。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- ・成熟社会における生活課題と、その解決を目指す学習実践の実際
- ・社会教育・生涯学習を支える理念と法制、国際的動向
- ・社会教育・生涯学習の制度と地方分権改革
- ・社会教育・生涯学習の提供主体の多元化
- ・変革の時代をきりひらく学びと自治の創造
- ・東日本大震災と社会教育、など。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

小レポート (約 3 回)、および学期末レポートによる総合評価

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第 9 版』(エイデル研究所、2017) など。その他、授業中に指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/12 12:04:01

科目名/Subject : 教育政策科学基礎論

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2019 福田 亘孝

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

教育政策科学の社会科学的基础

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本講義では、(1) 教育社会学の学問的性格、(2) その理論と方法の特質、について講述するとともに、(3) 教育社会学の各研究領域に即して概括的な説明をする。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

教育社会学という学問の特徴と研究の現状を理解し、社会学の視点から教育に関わる研究課題をみずから設定できる力量を身に付ける。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1 はじめに：社会学から教育を分析する
- 2 メリット・クラシーの諸問題
- 3 学歴と資格社会
- 4 選抜機関としての学校
- 5 教育におけるラベリング理論
- 6 階級・言語・社会化
- 7 人的資本と社会関係資本
- 8 文化資本と教育達成
- 9 日本の学校の社会学
- 10 グローバル化と教育
- 11 多文化主義と教育
- 12 高等教育の拡大と変容
- 13 教育社会学のパラダイム (1) : 1970 年代の展開
- 14 教育社会学のパラダイム (2) : 1990 年代の展開
- 15 教育社会学のパラダイム (3) : 2000 年代の展開

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加度 (20%)、発表・課題 (30%)、定期試験 (50%)。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

カラベル&ハルゼー (1980)『教育と社会変動』 東京大学出版会
 ハルゼー (2005)『教育社会学：第三のソリューション』 九州大学出版会
 ヒュー・ローダー (2012)『グローバル化・社会変動と教育』 東京大学出版会

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- ★教科書、参考書、配布資料を理解し、授業の予習・復習をする
- ★必要に応じて Reading Assignment と Writing Assignment を課す

8. その他/In addition :

★A high level of proficiency in English is required for this class.

- ★予習・復習は必ずやり遂げてから授業に出席すること
- ★授業はマナーを守って受講すること。授業にとって迷惑になる場合は、退室を命じる
- ★授業計画は予定であり、実際の授業では予定が変更になる場合があります
- ★成績評価方法は目安であり、変更になる場合があります

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/28 16:57:06

科目名/Subject : グローバル共生教育論基礎論

曜日・講時/Day/Period : 前期 水曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2019 高橋 満

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

グローバル共生教育の基礎

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

グローバル共生教育の基礎的な理論と実践の方法を学ぶことを目的とする。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

グローバル共生教育の基礎的な理解をえて、論文を書くことのできる基礎的力を養う。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

各回、参加者が自分の問題関心にもとづき自らの論文、他の研究者の論文を取り上げ検討する。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

参加および報告内容を基本とする。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/12 13:15:39

科目名/Subject : 教育情報アセスメント基礎論

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 有本 昌弘

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

教育アセスメントにおける社会文化と学びのテクノロジーリッチイノベーション Social
Socio-cultural learning theory and technology-rich innovation in educational assessment

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

アセスメントとその教授学習への関係、形成的アセスメントと社会文化的文脈、テクノロジーを活用したアセスメントへの新しいアプローチを学ぶ。アセスメントとエヴァリュエーションというフレームを根底に置きながら、切り口として、STEAM (Science, Technology, Engineering, Arts and Math) コンテンツとシステム思考によってコンピテンシーを明示し、「学習する組織」を前提に進めるなかで、標記に迫る。文科省による委託事業「高等学校における多様な成果の評価手法の開発」の継承と発展として、短期的フィードバックをとまなうエビデンスが得られる仕組みと仕掛け（スマホやタブレット利用含む）を、高等学校の協力を得ながら進めていく。システムダイナミクスのソフトウェアを用いて、学問を横断するような形で「見える化」し、アセスメントツールを開発する。また、学習する組織については、実際にフィールドにて、教室プロセス、学校プロセス、社会の教育プロセスを、ソフトウェアを用いつつ、Causal Loop Diagram (CLD)を活用し、重層的にエビデンスとして捉えつつ、ナラティブ探究など質的にも吟味できる方法論を模索する。

To learn a new approach to assessment and its relationship to teaching and learning, formative assessment and socio-cultural context, technology-rich assessment. While underlying the frame of assessment and evaluation, by expressing the competency by STEAM (Science, Technology, Engineering, Arts and Math) contents and system thinking, and proceeding on the premise of "learning organization" As the succession and development of "Development of assessment/ evaluation method of various outcomes at high school" project designated by MEXT, construct mechanisms (including smartphone and tablet) that provide evidence with short-term feedback, with the cooperation/ collaboration to high schools. Using system dynamics software, "visualize" in a way that crosses academia and develop assessment tools. Also, with regard to the organizations to be learned, in actual field, using the Causal Loop Diagram (CLD) while using the software, classroom process, school process, social education process, while grasping as a multi-layered evidence as the narrative. Exploring a methodology that can also examine qualitatively, such as exploration.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

国際的存在感を高める応用科学としての教育学構築の方法論の一つと前に踏み出す心構えを身につけるとともに、グローバルコンピテンシーアセスメントについて糸口を見つけることができる。

As one of the methodologies for building pedagogy/ education as an applied science that enhances international presence/ visibility, we can acquire the mental attitude to step forwards so that we can find clues about global competency assessment

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回 脳科学と組織科学から「学習」と「教育情報アセスメント」の基礎を考える
- 第2回 子ども（学習者）の実態から目標（ねがいを含む）とのギャップを考える
- 第3回 近年の探究ベースの学習であるオープン学習環境（OLE）への日本の政策の特徴
- 第4回 21世紀コンピテンシー（ユネスコから、DeSeCo、ATC21S、4つの側面によるものまで）
- 第5回 OECD 2030 に向けた カリキュラムのリデザイン
- 第6回 Human Well-being に向けた SDGs (Sustainable Development Goals) (持続可能な開発目標)
- 第7回 東北スクールから日本イノベーションスクールプロジェクト2. 0
- 第8回 学問を横断する学問としてのシステム思考
- 第9回 教科系コンテンツとデザイン思考（米国の例から）
- 第10回 数学、理科、工学、アートからのからの STEAM
- 第11回 システム思考ツールとシステムダイナミクス Computer Model/ Computer Simulation
- 第12回 深い学びの、教育（心理社会的側面含む）事象、社会経済事象への応用
- 第13回 各自のアセスメントタスクによるプレゼン
- 第14回 "
- 第15回 ルーブリックによるアセスメントとイプサティブアセスメントによるまとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

基本的にはレポート(40%),出席点(40%)で総合的に判断する。用意したいいくつかの問いを含むアサインメントに対する何ら

かのアセスメントによる加点方式をとる(20%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

資料をポータルサイトから提供する。
OECD (2008) Innovating to learn, Learning to Innovate. (翻訳 学びのイノベーション- 21世紀型学習の創発モデル)

OECD (2010) The Nature of Learning: Using Research to Inspire Practice (翻訳 学習の本質 研究の活用から実践へ)

平成28年度 教育改革の総合的推進に関する調査研究 ～国際的な視点から見た日本の教育に関する調査研究～調査報告書
Deeper Learning Booklet Teachers Learning Together for Student Success with Systems Thinking: A Thoughtful Approach to the Common Core

前野隆司他(2014) 『システム×デザイン思考で世界を変える 慶應SDM「イノベーションのつくり方」』 日経BP社

Diana M.Fisher (2008) 『システムダイナミクスモデリング入門—教師用ガイド』 カットシステム他、「脳科学と組織科学の境界」など、

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

Arimoto, M., & Clark, I. (in print) Equitable Assessment Interactions in the 'Open Learning Environment' (OLE) European Journal of Education. 53(2) を核に進めるが、各自の問題意識により、現地点の確認と、出発点、終着点を決めて、下記を参考に、進めること。適宜、デジタルツールの活用や実習室を利用の予定。

Pike, Roberta E. (2007) Japanese education : selective bibliography of psychosocial aspects.

有本(2017)日本の教育アセスメント概念化に向けて(その1) -ERIC データベースからのオリジナル版「20の扉」の活用
東北大学大学院教育学研究科研究年報 65(2) : 125 - 151.

有本(2017)日本の教育アセスメント概念化に向けて(その2) -ERIC データベースからのオリジナル版「20の扉」の活用
東北大学大学院教育学研究科研究年報. 66(1) : 199-208.

8. その他/In addition :

OECDのILE (Innovative Learning Environments) 関連論文を用意しつつも、受講者の各自の問題関心から進めていく予定であるが、下記論文から共通テーマを設ける。

Arimoto, M. (2017). The prospect of educational assessment as a secret ingredient of effective pedagogy in the context of Japanese kizuki (withit-ness) based on “evidence-informed principles for effective teaching and learning”. Annual Bulletin, Graduate School of Education, Tohoku University, 3, 12-36.

Arimoto, M., & Clark, I. (2018). Interactive assessment: Cultural perspectives and practices in the nexus of 'Heart and Mind'. In J. Smith & A. Lipnevich (Eds.), Cambridge Handbook of Instructional Feedback. New York: Cambridge University Press.

https://www.tohoku.ac.jp/en/press/preparing_japanese_students.html

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/09 16:06:54

科目名/Subject : 教育心理学基礎論

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 2講時

担当教員/Instructor : 2019 工藤 与志文

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

学習心理学と教授ストラテジー

Psychology of Learning and Teaching Strategy

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

ストラテジー(strategy)とは目的遂行のための長期的な総合戦術のことである。教育においても、個別の教授活動をどうするかという問題を越えた、長期的かつ総合的な教授ストラテジー(teaching strategy)が必要となる。この講義では、教授ストラテジーとその理論的ベースを提供する学習心理学理論について概説する。

This course deals with theories of psychology of learning and its relation to teaching strategies.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

①学習心理学の基本概念を知る。

②学習心理学理論と教授ストラテジーの関連について理解を深める。

The goals of this course are to

(1) Obtain basic knowledge about psychology of learning.

(2) Understand the relationship between theories of learning and teaching strategies.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

1. ガイダンス

2. 教授ストラテジーはなぜ必要か

3. 行動主義的学習理論

4. 行動主義的学習理論と教授ストラテジー

5~6. 積み重ね型ストラテジーの特徴

7. 認知主義的学習理論

8. 認知主義的学習理論と教授ストラテジー

9~10. 組みかえ型ストラテジーの特徴—対決型ストラテジー

11~12. 組みかえ型ストラテジーの特徴—懐柔型ストラテジー

13. 状況主義的学習理論

14. 状況主義的学習理論と教授ストラテジー

15. まとめ

1. Introduction

2. Why teaching strategy is needed.

3. Behaviorist view of learning theory

4. Behaviorism and teaching strategy

5~6. Cumulative-type strategy

7. Cognitivist view of learning theory

8. Cognitivism and teaching strategy

9~10. Teaching strategy for conceptual change; Confrontation-type strategy

11~12. Teaching strategy for conceptual change; Conciliation-type strategy

13. Situationist view of learning theory and teaching strategy

14. Situationism and teaching strategy

15. Review

5. 成績評価方法/Evaluation method :

期末テスト100%である。

Final Exam 100%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業内で指示する。

Will be introduced in the class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

前回の講義内容を復習するとともに、与えられた課題について準備する。

The students are expected to 1)review the last lecture; 2) work on the given subject for the next lecture.

8. その他/In addition :

連絡先 : kudou@sed.tohoku.ac.jp

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/18 13:24:05

科目名/Subject : 臨床心理学基礎論

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2019 若島 孔文

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

臨床心理学概論 / Clinical Psychology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

臨床心理学における代表的諸理論（精神分析、来談者中心療法、認知・行動療法、家族療法など）について改札する。また、それら代表的諸理論の日本への導入における東北大学の役割と貢献について補足する。 / In this subject, we will explain the major theories of clinical psychology (psychoanalysis, client-centered therapy, cognitive behavioral therapy, family therapy, etc.). In addition, we supplement the Tohoku University's role and contribution in introducing these major theories into Japan.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

①臨床心理学が人間を理解し、援助することを志向した実践の学問であることを知り、人間のこころの固有性と可変性に対する柔軟な視点について理解を深めること。

②東北大学の歴史の一端を知り、臨床心理学の大きな流れに向けて興味が喚起されること。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. ～ 2. 「野に医者」と臨床心理学の流れ
3. ～ 5. 精神分析・分析心理学
6. 来談者中心療法
7. ～ 8. 認知・行動療法
9. ～ 10. システム理論とコミュニケーション理論
11. 家族療法のモデル
12. 解決志向短期療法
13. ナラティブセラピー
14. ～ 15. 事例の検討 /

1. ～ 2. History of clinical psychology
3. ～ 5. Psychoanalysis
6. Client-centered therapy
7. ～ 8. Cognitive behavioral therapy
9. ～ 10. System theory and Communication theory
11. Family therapy
12. Solution focused brief therapy
13. Narrative therapy
14. ～ 15. Case study

5. 成績評価方法/Evaluation method :

期間中、活動と複数のレポートによる。 / Evaluate by submitting activities and reports

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

野島一彦・岡村達也 2018 第3巻『臨床心理学概論』（遠見書房）

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

予習・復習については、授業の際、資料を配布する。

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/13 12:39:07

科目名/Subject : Practical English for Educatio

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 5講時

担当教員/Instructor : 2019LEIS ADRIAN PAUL

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

Practical English for Educational Sciences

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

In this course, we will look at skills required for speaking in public as well as participating in discussions.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

At the end of the course, you will be able to confidently lead and participate in lectures, poster sessions, and workshops.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1 Understanding the Course & the Textbook
- 2 Presenting in Today's World / What is a "Poster Session?"
- 3 Presentation I
- 4 Creativity, Limitations, and constraints
- 5 Planning Analogue
- 6 Crafting the Story
- 7 Presentation II
- 8 Podcast: Could you kill a robot?"
- 9 Simplicity: Why it matters
- 10 Presentation Design: Principles and Techniques
- 11 Sample Visuals: Images and Text
- 12 The art of being completely present
- 13 The need for engagement
- 14 Presentation III
- 15 Final Presentation and Review Test

5. 成績評価方法/Evaluation method :

Class tests 30%
Review Test 20%
Discussion participation 10%
Presentations 40%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

Presentation Zen ISBN: 978-0321811981

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

Read through the chapters prior to class and make sure of the content. Be ready for discussions before class. Presentations must be conducted using PowerPoint or Keynote (or some other presentation software). Make sure you prepare for these properly.

8. その他/In addition :

A maximum of three absences will be allowed. If you are going to be late or absent, always contact the teacher as soon as possible.

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/20 14:31:57

科目名/Subject : 人間形成学概論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2019 八畝 友広

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

人間形成の歴史

History of human formation

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

人間が成長して社会に参画していく過程は、個体としての人間形成と、社会的な存在としての人間形成とが同時に展開する全体的な過程にほかならない。現代においては、以上のような人間形成の過程に、近代学校による教育の過程が組み合わされて構造化されている。本講義では、日本の歴史に即して、このような教育と人間形成の在り方について考察し、現代教育の歴史的成り立ちについての理解を育成する。

The purpose of this lecture is to consider the relationship between modern school education and human formation according to the history of Japan.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

・日本における教育と人間形成の歴史的な展開過程について、の概略を把握し、マクロな視点から考察する態度を持つことができる。

The students can grasp the outline of the historical development process of education and human formation in Japan and have an attitude to consider from a macro viewpoint.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回 マクロな視点から教育・人間形成を考えるとということ

第2回 前近代日本における家・地域社会と子ども

第3回 前近代日本における子どもの生育儀礼

第4回 前近代日本における子どもの教育の展開

第5回 近代学校制度に関する理論

第6回 近代学校制度と人間形成の変容

第7回 日本における近代学校制度の導入と人間形成

第8回 日本における近代学校制度の展開と人間形成

第9回 近代国家における規律訓練化と人間形成

第10回 学校化する社会

第11回 新自由主義の下における教育と人間形成

第12回 後期近代社会における教育と人間形成

第13回 教育と人間形成に関する事例検討

第14回 現代教育の課題

Thinking about education and human formation from a macro perspective

Home and community in pre-modern Japan and children

Child's growth ritual in pre-modern Japan

Development of education for children in pre-modern Japan

Theory on Modern School System

Modern school system and transformation of human formation

Introduction of Modern School System in Japan and Human Formation

Development of modern school system in Japan and human formation

Discipline training and human formation in modern states

School society

Education and human formation under neo-liberalism

Education and human formation in the late modern society

Case study on education and human formation

Issues of modern education

5. 成績評価方法/Evaluation method :

レポート課題 (50%)、カンファレンス発表 (50%)

Report:50%

Presentation on conference:50%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書は指定しない。

参考書については、授業時間中に適宜指示する。

No text book

Reference books will be introduced in the lecture

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

レポートの作成およびカンファレンスの発表のための学習を要する。

Students need to prepare for report and presentation on conference

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/06 09:48:18

科目名/Subject : スポーツ文化論概論

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2019 甲斐 健人

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

スポーツ社会学研究法

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

毎回取り上げるスポーツ社会学領域の文献について、そこで用いられている方法を確認する目的で講義する。

This advanced lecture outlines sociological method in sociology of sport.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

スポーツ社会学の文献で用いられている方法について理解する。

After taking this advanced lecture, you should be able to : describe various method in the field of sociology of sport.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回 : ガイダンス

第2回 : 機能主義

第3回 : コンフリクト理論

第4回 : 批判理論

第5回 : 相互作用論

第6回 : エリアス&ダニング『スポーツと文明化』

第7回 : グットマン『スポーツと帝国』

第8回 : ハーグリーブス『スポーツ・権力・文化』

第9回 : ホイジンガ『ホモ・ルーデンス』

第10回 : ブルデュー「スポーツ社会学の計画表」

第11回 : リーヴァー『サッカー狂の社会学』

第12回 : 多木浩二『スポーツを考える』

第13回 : 井上俊『武道の誕生』

第14回 : 亀山佳明『生成する身体の社会学』

第15回 : スポーツ社会学における生活論

5. 成績評価方法/Evaluation method :

レポート (60%)、小レポート (40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

コークリー&ドネリー (前田他共編訳 2011)『現代スポーツの社会学』南窓社

各回で取り扱う文献以外は適宜指示する

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

適宜指示する

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/15 15:33:59

科目名/Subject : 教育政策科学概論

曜日・講時/Day/Period : 前期 水曜日 2講時

担当教員/Instructor : 2019 島 一則. 青木 栄一. 井本 佳宏. 後藤 武俊. 福田 亘孝

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

教育政策科学研究の基礎

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業は、教育政策科学を構成する教育社会学、教育行政学、比較教育学の学問分野において、共通かつ必須の研究法の基礎をトレーニングするための演習科目である。研究全体の計画から、研究の方法論、量的な研究設計、質的な研究設計に至るまでの基礎事項を学ぶ。

また同時に、研究のための英語力を培うことも、この授業のねらいである。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

学術水準の高い論文を執筆するための基礎能力の涵養

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1回 : 授業概要説明、2～5回 : 研究計画・方法論、6～10回 : 量的データと取り扱い・分析手法と研究設計、11～15回 : 質的データと取り扱い・分析手法と研究設計

5. 成績評価方法/Evaluation method :

貢献度による平常点。5名の担当教員の評価を総合化する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書 : Punch, K. F. and Oancea., A, Introduction to Research Methods in Education (2nd edition), Sage, 2014

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各回ごとに指示する英文文献について予習と学習内容の整理を行うこと。

8. その他/In addition :

教育政策科学研究コースに属する博士前期課程1年生は、必ず履修すること。他にも、教育政策科学の研究法が十分に習得できていない大学院生は、この授業を履修することが望まれる。

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/27 13:10:36

科目名/Subject : 多文化教育論概論

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 2講時

担当教員/Instructor : 2019 渡部 由紀, 末松 和子, 高橋 美能

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

多文化教育論概論

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

グローバル化の急速な進展とともに、国際社会で指導的人材として活躍する、いわゆる高度専門グローバル人材育成を目指した教育改革が世界規模で進みつつある。本授業では、高等教育の国際化をめぐる世界的動向に着目し、国際社会およびグローバル化・多様化する社会で求められる人材像と教育の在り方をジェネリックスキル、キー・コンピテンシー、地球市民等に関する議論を通して考察する。また、日本国内における留学生を含むグローバル人材育成の現状と課題に学び、研究の起点となるアカデミックマインドを醸成する。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

・国内外の高等教育政策における国際化施策に関する知識を得て、国際社会およびグローバル化・多様化する社会に必要な教育課題を発見する。

・21世紀型スキル、キーコンピテンシー、雇用され得る能力(employability)等のジェネリックスキルと教育改革につき学ぶ。

・人権を柱に据えた地球市民のあり方と教育に対する理解を深める。

・日本における高等教育のグローバル人材育成を理解し、課題の発見を研究に発展させるための準備を行う。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

第1～3回 授業の概要説明及び導入

第4～13回 以下のテーマについて、担当教員が講義・課題図書を提供し、それをもとに受講者と問題について議論をしながら、考察を深める。

1) 高等教育の国際化論

2) グローバル人材論

3) 地球市民論

第14回 ファイナル・プレゼンテーション

第15回 授業の振り返りと最終成果報告

5. 成績評価方法/Evaluation method :

1. 授業の参加・貢献度 30%

2. 課題レポート 3本 30% (10%×3)

3. ファイナルプロジェクト 40% (プレゼンテーション 20%・ペーパー 20%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書は特に定めないが、授業に沿った参考図書を教材とする。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業でのディスカッションに貢献できるよう参考図書等を精読し準備すること

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/14 22:06:20

科目名/Subject : 教育アセスメント概論

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2019 有本 昌弘

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

レッスンスタディとグローバルコンピテンシーに向けてのアセスメント Lesson Studies and Assessment for Global Competency

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

アセスメントとその教授学習への関係、形成的アセスメントと社会文化的文脈、テクノロジーを活用したアセスメントへの新しいアプローチを学ぶ。生徒の進路選択と関わり、近年の各国のカリキュラム改革の中で、21世紀型のコンピテンシー、そのアセスメントをどのようにデザインするか、教員の役割や研修（特に、ペダゴジカルリーダーシップ）について、OECDのDavid Instanceをはじめとするスタッフに逆提案する。その動向、背景についてレビューするとともに、手法の、成果やプロセス、文脈に応じた国内での応用を図る。Asia societyなどで提案されている次世代のグローバルコンピテンシーに、地元から迫るアプローチを追求する。単に、雇用可能性に偏することのないよう、東北の地からの発信を、システム思考から考える。

Learn a new approach to assessment and its relationship to teaching learning, formative assessment and socio-cultural context, technology-rich assessment. In relation to student's career selection and involvement in recent years in each country's curriculum reform, the 21st century type of competency, how to design the assessment, about the role and training of teachers (especially pedagogical leadership), propose reverse to the OECD staff including David Instance. By reviewing the trends and background, to try to apply to adapt the method according to outcome, process and context. We pursue approaches approaching from the local to the next generation global competency proposed by Asian society and so on. Just think, from system thinking, outgoing from the home land of Tohoku so that it will not be biased toward employability.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

近年の assessment for learning の動向を日本の社会文化で検討しつつ、地元で検証し、これからのグローバルコンピテンシーに結びつける

While reviewing recent trends of assessment for learning in Japanese society and culture, we verify locally and link it to future global competency

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回 講義のアウトライン、21世紀型学習環境の説明とクライテリアの共有
- 第2回 イノベティブな学習環境の模索
- 第3回 //
- 第4回 学習を最適化するということ：学習科学研究の意味
- 第5回 //
- 第6回 研究に基づくイノベーションに向けて
- 第7回 オルターナティブ教育の貢献
- 第8回 状況に埋め込まれた教授法、カリキュラムの公正さ、民主主義の教授
- 第9回 学習環境の構築：メキシコ予備的フェーズからの授業
- 第10回 どうすればイノベーションが現場でうまく機能するか
- 第11回 イノベーションのダイナミクス：なぜイノベーションが生き残り、何が機能させるのか
- 第12回 オープン型の学習：システムを推進力とした教育イノベーションのモデル
- 第13回 日本文化からのコンピテンシーの吟味・検討
- 第14回 //
- 第15回 ルーブリック（評価指標）によるパフォーマンス課題の成果の共有

5. 成績評価方法/Evaluation method :

フィールドワーク含むパフォーマンス課題を複数回に分けたミニタスクによるレポート提出に関するレポート（50%）、授業中の発表及び議論の質（25%）、ポートフォリオの選択とルーブリック（採点指標）によるセルフ・ピアアセスメント（25%）とするが、これについては、意味のあるクライテリア（尺度や物差し）を受講生と探し、共有することに努める。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

OECD (2008) Innovating to learn, Learning to Innovate. (翻訳 学びのイノベーション〜21世紀型学習の創発モデル)

Charles Fadel et al. (2015) Four-Dimensional Education: The Competencies Learners Need to Succeed, Center for

『システムの気付きとアセスメントが時代を変える』（予稿）

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

OECDのILE (Innovative Learning Environemnts) 関連論文を用意しつつも、受講者の各自の問題関心から進めていく予定であるが、下記論文から共通テーマを設ける。
Arimoto, M. (2017). The prospect of educational assessment as a secret ingredient of effective pedagogy in the context of Japanese kizuki (withit-ness) based on “evidence-informed principles for effective teaching and learning”. Annual Bulletin, Graduate School of Education, Tohoku University, 3, 12-36.

Arimoto, M., & Clark, I. (2018). Interactive assessment: Cultural perspectives and practices in the nexus of 'Heart and Mind'. In J. Smith & A. Lipnevich (Eds.), Cambridge Handbook of Instructional Feedback. New York: Cambridge University Press.

https://www.tohoku.ac.jp/en/press/preparing_japanese_students.html

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/09 16:06:07

科目名/Subject : 教育測定学概論

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2019 柴山 直

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

教育測定技術・技法の体系的理解

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育におけるエビデンスベースなさまざまなアセスメントを実施する上で、その基盤となる教育測定の基礎理論を体系的に学ぶ。初等統計レベルの知識を前提とするが、必要な統計的数学的準備はその都度行う。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ① 大規模アセスメントによって収集されるデータに関して実証的な観点からの品質保証ができること
- ② そのデータからさまざまな情報を読み取れ適切な客観的判断ができること
- ③ エビデンスにもとづく教育施策立案 (EBPM) 等に生かすためのバックグラウンドとなる力を修得すること

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

授業は配付資料ならびにそれに基づく対話型方式ですすめる。

- 第1回 オリエンテーション(教育測定論入門)
- 第2回 必要な数学的基礎
- 第3回 教育における測定と評価
- 第4回 日本のテスト文化について
- 第5回 項目分析
- 第6回 心理測定モデル：古典的テスト理論
- 第7回 因子分析モデル(1)
- 第8回 因子分析モデル(2)
- 第9回 確率分布
- 第10回 心理測定モデル：項目反応理論
- 第11回 OECD/PISAに見る国際水準の学力調査技術
- 第12回 テスティング技術の最前線尺度の標準化・等化・対応づけ
- 第13回 テストの実際(1) 教師作成テストの作成・客観的テストの作成
- 第14回 テストの実際(2) 解釈課題・論述・パフォーマンス課題の作成
- 第15回 テストの実際(3) テスト実施・採点・評価・報告

5. 成績評価方法/Evaluation method :

ほぼ毎回課するショート・レポート(100%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

指定しない・レジュメを配布する

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/12 17:17:54

科目名/Subject : 教育情報学基礎論概論

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2019 佐藤 克美. 熊井 正之. 渡部 信一

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

教育情報学基礎

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育情報学とは超高度情報化社会、知的基盤社会における教育について、基礎及び応用そして実践と言う領域を内包した、融合的・学際的・先端的な学問領域である。基礎論概論では、教育情報学について、教育、心理学、認知科学、コミュニケーション論、情報科学、テクノロジーなどの視点から概観することで教育情報学という学問の融合性・学際性・先端性を理解するとともに、教育情報学の基礎的な知識を学習する。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・教育情報学の融合性・学際性・先端性について理解する
- ・教育情報学の基礎となっている心理学、認知科学、コミュニケーション論、情報科学、テクノロジーについて基本的な知識を学習する。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回：オリエンテーション

第2回：教育情報学と心理学（担当：渡部信一）

第3回：教育情報学と文化人類学（担当：渡部信一）

第4回：教育情報学とロボット工学（担当：渡部信一）

第5回：教育情報学と認知科学（担当：渡部信一）

第6回：教育情報学とコミュニケーション（1）コミュニケーションについて（担当：熊井正之）

第7回：教育情報学とコミュニケーション（2）コミュニケーションの障害（担当：熊井正之）

第8回：教育情報学と遠隔教育（1）e-ラーニング（担当：熊井正之）

第9回：教育情報学と遠隔教育（2）Mooc（担当：熊井正之）

第10回：教育情報学と学校教育（担当：佐藤克美）

第11回：教育情報学と情報科学（担当：佐藤克美）

第12回：教育情報学を支えるテクノロジー（1）インターネット（担当：佐藤克美）

第13回：教育情報学を支えるテクノロジー（2）ICT機器と表現（担当：佐藤克美）

第14回：教育情報学基礎概論まとめ（1）ディスカッション（担当：全員）

第15回：教育情報学基礎概論まとめ（2）ディスカッション（担当：全員）

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業毎に行うミニットペーパー、授業内の発言と数回のレポート課題、及びディスカッションでの発言内容・態度等を総合的に判断して評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

参考書

佐伯胖監修・渡部信一編 『「学び」の認知科学辞典』 大修館書店

坂元 昂・岡本敏雄・永野和男編著 『教育工学とはどんな学問か』 ミネルヴァ書房

渡部信一監修 『高度情報化時代の「学び」と教育』 東北大学出版会

渡部信一 『超デジタル時代の「学び」 よいかげんな知の復権をめざして』 新曜社

その他、必要に応じて配布

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

レポートの他、講義で課題を出します。

8. その他/In addition :

特に無し

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/11 12:01:38

科目名/Subject : 教育情報学実践論概論

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 1 講時

担当教員/Instructor : 2019 小嶋 秀樹. 中島 平

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

教育情報学に基づく教育／学習方法の実践例研究と新手法の創出

Case studies and original creation of new methods for teaching/learning based on educational informatics

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育情報学の実践に関して、様々な実践例を通して学ぶ。具体的には例えば研究中の最先端の ICT 機器を現場で活用した事例を視聴したあとで議論し、実際に教室内で体験した後で、新たな実践方法を考え出すという活動を行う。それらの活動を通して教育情報学の実践に対する興味を引き出し、その基礎的な内容を理解するとともに、自分自身で簡単な教育／学習方法を提案・実践できるようになることを目的とする。

Students learn the practical cases of educational informatics. For example, you will be studying the cases of utilizing advanced ICTs in educational fields and discussing with your co-learners about the cases in order to create a new method. Through these activities, students will deepen their interest and understanding of educational informatics, and will be able to design their own method for teaching/learning.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

・教育情報学の融合性・学際性・先端性について理解する

・教育情報学の様々な実践例を学ぶことを通して、自分自身で情報通信技術を用いた簡単な教育／学習方法を提案し、実践できる。

To be able to understand the integrity, interdisciplinarity, and advancement of educational informatics.

To be able to design, propose, and practice your own teaching/learning method using ICTs.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回：オリエンテーション（担当：全員）

第2回：教育のための ICT(1)：人工知能（担当：小嶋秀樹）

第3回：教育のための ICT(2)：情報とデザイン（担当：小嶋秀樹）

第4回：教育のための ICT(3)：続・情報とデザイン（担当：小嶋秀樹）

第5回：教育における ICT 活用(1)：ICT による支援（担当：小嶋秀樹）

第6回：教育における ICT 活用(2)：ICT による拡張（担当：小嶋秀樹）

第7回：教育における ICT 活用(3)：ICT によるケア（担当：小嶋秀樹）

第8回：講義型授業における ICT(1)：実践事例（担当：中島平）

第9回：講義型授業における ICT(2)：背後にある技術と教授法（担当：中島平）

第10回：講義型授業における ICT(3)：試作と実践（担当：中島平）

第11回：実習型授業における ICT(1)：実践事例（担当：中島平）

第12回：実習型授業における ICT(2)：背後にある技術と教授法（担当：中島平）

第13回：実習型授業における ICT(3)：試作と実践（担当：中島平）

第14回：教育情報学実践論概論まとめ(1)：実践に関するディスカッション（担当：全員）

第15回：教育情報学実践論概論まとめ(2)：全体のふり返り（担当：全員）

5. 成績評価方法/Evaluation method :

ミニットペーパーとレポート課題、及びディスカッションでの発言内容・態度等を総合的に判断して評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特になし。必要に応じて配布する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

第2回目以降では、事前に前回の講義について自主レビューしておくこと。

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/13 12:36:28

科目名/Subject : 教育情報学応用論概論

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2019 倉元 直樹. 宮本 友弘

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

Intermediate Lecture on Application Theories of Educational Informatics

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

青年期にあたる高校生の心身の発達状況を所与の前提として、「高大接続」という概念を中心に大学進学の実像について「学ぶ側」と「教える側」の双方の視点から迫る。前半では現在の我が国の大学入試の実情について、学際的な学術研究や各種の教育関連データを基に国際的な軸と歴史的な軸から俯瞰的に把握する視点を学ぶ。後半では高校の進路指導や大学入試の実施について、社会的、制度的な観点でアプローチするとともに、事例から具体的に学ぶ。最後に受講者自身の経験を交換し、受験生、学生にとって望ましい大学入試制度の条件を考える。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・自らが経験してきた大学入試について教員・大学の側から見る視点の転換を行う。
- ・教育の一環として、選抜制度をどのように位置づけるか、多層的に考える視座を獲得する。
- ・高校と大学の接続関係を題材にして歴史的・国際的視点からの広い視野を養う。
- ・将来、教員や保護者の立場で入学者選抜に関わる際に重要な考え方について学ぶ。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回：オリエンテーション——高大接続：大学入試に対する受験者以外の視点——
- 第2回：大学入試の現場1：実施側から見た共通試験、個別試験の実情（担当：宮本友弘）
- 第3回：大学入試の現場2：高校における進路指導の考え方（担当：宮本友弘）
- 第4回：大学入試の現場3：受験勉強に対する批判と受験指導の教育的意義（担当：宮本友弘）
- 第5回：世界の大学入試1：世界の大学と学校教育、入学者選抜制度（担当：倉元直樹）
- 第6回：世界の大学入試2：北米の大学入学者選抜（担当：倉元直樹）
- 第7回：世界の大学入試3：ヨーロッパの大学入学者選抜（担当：倉元直樹）
- 第8回：世界の大学入試4：東アジアの大学入学者選抜他（担当：倉元直樹）
- 第9回：大学入試の歴史1：戦前の旧制高校入試制度（担当：倉元直樹）
- 第10回：大学入試の歴史2：戦後の大学入試制度（担当：倉元直樹）
- 第11回：大学入試の歴史3：現在の教育改革と大学入試（担当：倉元直樹）
- 第12回：大学入試の諸相1：進路指導と進学動向の地域における多様性（担当：宮本友弘）
- 第13回：大学入試の諸相2：進路指導と進学動向の設置者、学校種による多様性（担当：宮本友弘）
- 第14回：大学入試の諸相3：大学の学生獲得戦略と教育産業（担当：宮本友弘）
- 第15回：まとめ（討論）：望ましい大学入試制度——体験の共有と相対化——（担当：全員）

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席状況（ミニットペーパーと授業内の発言）とレポート課題、及びディスカッションでの発言内容・態度等を総合的に判断して評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

- 東北大学高等教育開発推進センター編（2011）『高大接続関係のパラダイム転換と再構築』東北大学出版会
- 東北大学高等教育開発推進センター編（2012）『高等学校学習指導要領 VS 大学入試』同上
- 東北大学高等教育開発推進センター編（2013）『大学入試と高校現場——進学指導の教育的意義——』同上
- 東北大学高等教育開発推進センター編（2014）『「書く力」を伸ばす——高大接続における取組みと課題——』同上
- 東北大学高度教養教育・学生支援機構編（2016）『高大接続改革にどう向き合うか』同上
- その他、必要に応じて配付

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

毎回の講義内容の予習・復習、課題提出

8. その他/In addition :

ゲスト講師を招く予定あり。初回の講義で授業運営方針について説明する。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/13 13:02:12

科目名/Subject : 教育心理学概論

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2019 深谷 優子, 工藤 与志文

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

教育心理学研究の諸問題

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育心理学研究の諸問題およびわが国におけるそれらの研究動向について学ぶ。本授業では、わが国における教育心理学研究の各部門の研究動向について、主に日本語で公開された展望論文（査読付）を用いながら検討する。

The aim of this course is to help students acquire current educational psychology research trends in Japan.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・教育心理学研究の諸問題について学ぶ。
- ・展望論文のスタイルについて学ぶ。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回～第3回：記憶・知識・概念

第4回～第6回：思考・問題解決

第7回～第9回：言語

第10回～第12回：動機づけ

第13回～第15回：協働

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表および授業への参加・貢献（60%）、期末レポート（40%）により評価する。

Grading will be based on your presentation and a fraction of in-class contribution(60%) and term paper(40%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

児童心理学の進歩, 教育心理学研究, 心理学研究, 発達心理学研究他

その他授業中に適宜参考書を紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- ・査読付の展望論文を読む。
- ・簡潔に発表できるよう、レジюме作成と発表準備を行う。

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/20 14:14:55

科目名/Subject : 発達障害学概論

曜日・講時/Day/Period : 前期 水曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2019 川崎 聡大・野口 和人

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

発達障害学概論

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本講義の目的は発達障害の現状を様々な角度から理解することです。

発達障害に関する教育および保育・医療・療育に関する実態について観察・見学・参加を通じて理解を深めます。

This course introduces the actual situation in education and the childcare of the developmental disability to students taking this course.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

発達障害や発達障害を引き起こす疾患、気になる子どもの実態について理解を深めます

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

本講義は発達障害を支援する現場や実際の事例指導への観察参加を中心に構成されます。初回オリエンテーション時に詳細を決定します。観察参加と事後レポート、ディスカッションから構成されます。そのため、講義は見学先等の都合により所定の時間外に行われることがあります（*希望者は事前にご相談ください）。

【全体の流れとして】

1. 初回オリエンテーション時に講義概要の説明と今後の予定をお話します。

2. 観察参加については「①個別支援コース」と「②集団支援コース」の二つに分かれて行います（初回オリエンテーション時に履修者の希望を踏まえて分かります）。

3. 14 回目・15 回目は全体での成果発表となります。

*評価にはコースごとのレポート、最終発表が含まれます。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業（観察含む）への参加（70%）、レポート（30%）

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Class attendance and attitude in class: 70%

- Short reports: 30%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特にありません

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

観察参加時（先方との調整のため）は当該時間と異なります。

8. その他/In addition :

発達障害や「気になる子ども」、障害や医療に関する研究テーマに興味関心の高い人が望ましい

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/12 16:52:23

科目名/Subject : 臨床心理学概論

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2019 中島 正雄

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

臨床心理学に基づく多様な支援の実際

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

臨床心理学は、心の傷や躓きの体験をもつ人を支援する実践的な学問である。本授業では、臨床心理学の支援の基本的な考え方や多様な支援方法に関する実践的な知識について、テーマごとに事例論文を読み込み、ディスカッションを通して学ぶ。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

臨床心理学に基づく支援の考え方、テーマに応じた支援方法と支援内容について理解を深める。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1 オリエンテーション、臨床心理学に基づく支援の活動領域と職業倫理
(2回目以降:各テーマにおける支援方法と支援内容についての発表と討議)
- 2、3 : いじめ・ハラスメント
- 4、5 : 自閉症スペクトラム障害
- 6、7 : 不登校・ひきこもり
- 8、9 : 神経症性障害
- 10、11 : 気分障害
- 12、13 : 統合失調症
- 14 自殺、他職種との連携・協働
- 15 まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

ディスカッションへの参加度 (20%)、発表 (30%)、期末レポート (50%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業内で適宜紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

それぞれのテーマに関する事例論文について、1人1回以上は発表を行う。発表の後は全員で事例検討を行うが、その事例検討の内容も含めて発表者はレポートを書いて提出することを課題とする。

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/14 17:27:42

科目名/Subject : 人間形成論特論 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2019 笹田 博通

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

場所的人間形成論

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

人間形成の始源（アルケー）および目的（テロス）がそこから発現してくる場所（トポス）について、教師—生徒関係の問題をも視野に入れつつ教育哲学的に考察するとともに、その原—構造を場所的思考の系譜に属する思索（老子・荘子、禅仏教（道元）、西田幾多郎、高橋里美、ハイデガー、ロムバッハ……）のうちに探究することで、人間形成としての教育の意味を全体的かつ根源的に把握・理解していく。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

教育および人間形成を根源的に理解することができる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回：オリエンテーション

第2回：ニヒリズムの克服～問題の所在と探究の視座～

第3回：人間形成論の地平（1）～ゲーテ自然学からの出発～

第4回：人間形成論の地平（2）～自然／歴史／形成の論理～

第5回：人間形成論の地平（3）～自然／歴史／場所の構図～

第6回：トポスと人間形成（1）～ハイデガーと「存在教育学」～

第7回：トポスと人間形成（2）～ロムバッハの「構造教育学」～

第8回：トポスと人間形成（3）～西田哲学と「場所」の教育学～

第9回：トポスと人間形成（4）～高橋哲学と「包越」の教育学～

第10回：トポスと人間形成（5）～場所に開かれた人間形成～

第11回：場所的人間形成観（1）～老子・荘子の「タオ（道）」の思想～

第12回：場所的人間形成観（2）～仏教的人間形成観の展望～

第13回：場所的人間形成観（3）～禅仏教における「行」の思想～

第14回：場所的人間形成観（4）～伝統的な「修練」「修養」の思想～

第15回：総括

5. 成績評価方法/Evaluation method :

全授業終了後に課すレポートの内容によって評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書：特になし

参考書：細谷恒夫『教育の哲学——人間形成の基礎理論——』創文社、1962 唐木順三『新版 現代史への試み』筑摩書房、1963 宮坂哲文『禅における人間形成——教育史的研究——』評論社、1970 西谷啓治『増補版 ニヒリズム』創文社、1972 上田閑照・柳田聖山『十牛図——自己の現象学——』筑摩書房、1982 上田閑照『場所——二重世界内存在——』弘文堂、1992 上田閑照『経験と場所（哲学コレクションⅡ）』岩波現代文庫、2007 源了圓『文化と人間形成』（教育学大全集1）第一法規、1982 源了圓『型』（叢書・身体の思想2）創文社、1989 源了圓編『型と日本文化』創文社、1992 井筒俊彦『意識と本質——精神的東洋を求めて』岩波書店、1983 井筒俊彦『コスモスとアンチコスモス——東洋哲学のために』岩波書店、1989 原研二・佐藤研一・松山雄三・笹田博通編『多元的文化の論理——新たな文化学の創生へ向けて——』東北大学出版会、2005 笹田博通編著『教育的思考の歩み』ナカニシヤ出版、2015 日本仏教教育学会編『仏教的世界の教育論理——仏教と教育の接点——』法蔵館、2016 笹田博通・山口匡・相澤伸幸編著『考える道徳教育——「道徳科」の授業づくり』福村出版、2018

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業で指示した文献を読み復習すること。

8. その他/In addition :

使用言語：日本語

メールアドレス：hiromichi.sasada.d2@tohoku.ac.jp

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/24 10:31:14

科目名/Subject : 人間形成史特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2019 池尾 恭一

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

カント教育学研究/Reading Kant's Texts

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

18世紀ドイツの哲学者カントによれば、人間理性の関心は(1)私は何を知りうるか、(2)私は何をなすべきか、(3)私は何を望んでよいかという問いに向かい、これら三つの問いが(4)人間とは何であるかという問いに集約される。カントの『人間学』および『教育学』の読解を通して、カントの人間形成観を明らかにしていく。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

カントのテキストを読み解き、そこにみられる思想を追思考することを通して、自律的に思考することができる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. カント倫理学 概観 2. カントの実用的人間学 概観 3. カントの教育学 概観 4~5. 『実用的見地における人間学』第二部「人間学的な性格論」E 人類の性格 読解 6~7. 『教育学』序論 読解 8~9. 『教育学』自然的教育論 physical education 読解 10~14. 『教育学』人間形成論 cultivation of the mind, moral culture 読解 15. カントの人間形成観 総括

5. 成績評価方法/Evaluation method :

テキストの講読(英語訳を使用)とその内容に関するディスカッションへの積極的な参加・取り組みを総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

Kant, Anthropologie in pragmatischer Hinsicht, 1798.

(Anthropology from a Pragmatic Point of View)

Immanuel Kant über Pädagogik, herausgegeben von Friedrich Theodor Rink, 1803.

(Kant on Education)

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. その他/In addition :

一部前年度からの継続の授業であるが、新規の受講者には十分な配慮を行う。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/07 14:54:48

科目名/Subject : 社会教育学特論

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 3講時

担当教員/Instructor : 2019 石井山 竜平

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

自治体改革と社会教育行政

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

行政の政策技術としての社会教育施設の「委託」は、行政出資財団の活用から始まり、その後は地方分権改革以降は指定管理者制度の創設などをうけ、今日では都市部に限らず広がり、委託先は地縁組織などに広げられてきている。そうしたなか、いわば第一段階の委託形態はいかなる歩みをたどってきたのか。このたびは、財団委託形態から20年を経た広島市のデータをもとに考察をおこない、仙台市、奈良市等、同様の運営形態の蓄積をもつ自治体の考察への足がかりとする。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・地域・自治体レベルの社会教育・生涯学習行政の再編をめぐるこれまでの動向と最新動向を理解する。
- ・広島市（可能ならば加えて仙台市）を分析し、関連学会や全国規模の学習会で報告できる水準の整理を目指す。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1 イントロダクション
- 2 社会教育・生涯学習政策の動向
- 3 社会教育法改正をめぐる近年の動向
- 4 地方分権・規制緩和・行政改革
- 5 市町村合併と社会教育
- 6 社会教育・生涯学習行政と首長部局移管
- 7 社会教育財政の基礎
- 8 広島市社会教育行政の分析①
- 9 広島市社会教育行政の分析②
- 10 広島市社会教育行政の分析③
- 11 仙台市社会教育行政の分析①
- 12 仙台市社会教育行政の分析②
- 13 仙台市社会教育行政の分析③

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業および調査活動への参加、最終レポートにより評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業中に指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

5月28日（火）、8月28日（水）開催の宮城県社会教育職員研修への参画を予定している。また、7月20～21日に広島で開催される日本公民館学会7月集会、および、8月26～28日に奈良で開催される社会教育研究全国集会における課題別学習会・分科会「自治体改革と住民の学び」への参加も求める。

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/12 12:29:03

科目名/Subject : スポーツ文化論特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 5講時

担当教員/Instructor : 2019 市毛 哲夫

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

オリンピックを考える

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

オリンピックは近年非常に巨大化したスポーツ・イベントだったが、その基となった古代ギリシアにおけるオリンピックはどのようなものであったのかを理解するとともに、近代オリンピックの理念とその変遷について考えていく。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

オリンピックという事象を通して人間とスポーツの関わり方の変化を理解する。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

1. ～5. 古代ギリシアのオリンピック

6. ～10. 近代オリンピック

11. 13. 日本人とオリンピック

14. ～15. 経済活動あるいは産業としてのオリンピック

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席 50%、レポートとその発表内容 50%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書は特に用いない。

参考書：片木篤著「オリンピックキ・シティ東京 1949/1964」など

授業中に適宜示す。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

レポートの作成、発表の準備等ある程度の時間外の学習等が必要となる。

8. その他/In addition :

特になし

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/18 16:52:17

科目名/Subject : 教育社会学特論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2019 福田 亘孝

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

社会理論の基礎と応用

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

現代社会学の理論を理解し、実証分析に応用できるようになる

3. 学習の到達目標/Goal of study :

(1) 社会学研究で用いられる社会理論の基礎を理解する

(2) 社会理論の知識を用いて、社会現象の分析が可能になる

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1 Introduction
- 2 The Origins of Social Theory
- 3 Evolutionism and Functionalism
- 4 Radical Anti-capitalism
- 5 Social Action and Social Complexity
- 6 Political Social Theories
- 7 Economic Social Theories
- 8 Social Theory and Gender
- 9 Society, Self, and Mind
- 10 Systems, Structuration, and Modernity
- 11 Critical Theory
- 12 World System Theories
- 13 Symbolic Interactionism
- 14 Rational Choice and Exchange
- 15 Knowledge, Truth, and Power

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加度 (20%), 発表・レポート (40%), 課題 (40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

Turner, R. (2008). The New Blackwell Companion to Social Theory. Wiley-Blackwell.

Ritzer, G. & Stepnisky, J. (2014). Sociological Theory. McGraw-Hill Education.

Calhoun, C. et al. (2012). Contemporary Sociological Theory. Wiley-Blackwell.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

★教科書、参考書、配布資料を理解し、授業の予習・復習をする

★必要に応じて Reading Assignment と Writing Assignment を課す

8. その他/In addition :

★This is NOT an introductory class.

★A high level of proficiency in English is required for this class.

★Assignment は必ずやり遂げてから授業に出席すること

★授業はマナーを守って受講すること。授業にとって迷惑になる場合は、退室を命じる

★授業計画は予定であり、実際の授業では予定が変更になる場合があります

★成績評価方法は目安であり、変更になる場合があります

★本授業科目は東北大学国際高等研究教育院および文学研究科グローバルCOEの指定科目も兼ねる。

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/28 16:54:17

科目名/Subject : 教育社会学特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 島 一則

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

教育経済学の潮流

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本特論では、①教育経済学の学問的性格、②その理論と方法の特質、③教育経済学の各研究領域における研究の展開と現状に理解し、実際のデータ・方法論を踏まえたうえで、教育がどのような経済的効果を有しているのか、教育の意義について考究する（以下のレビュー論文を前提としつつ、領域のキーとなる近年の論文に合わせて取り組む）。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

受講学生は、専門的知識・技能という観点からは、教育経済学という学問の特徴と研究の現状を英文文献の読解に基づき理解し、経済学の視点から教育に関わる研究課題を設定、データ・方法論の選択などを行える力量を身に付ける。また、汎用的技能、態度志向性という観点からは、コミュニケーションスキル・数量的スキル・論理的思考力・自己管理力・批判的思考力、生涯学習力を向上させる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1・2回 : Theoretical Concepts in the Economics of Education

3・4回 : Empirical Research Methods in the Economics of Education

5・6回 : Data in the Economics of Education

7・8回 : Human Capital

9・10回 : Signaling in the Labor Market

11・12回 : Returns to Education in Developed Countries

13・14回 : School Quality and Earnings

15回 : Education and Economic Growth

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業内容についての理解とコミットメント (50%)・最終レポート (50%) による。ただし、出席状況によっては受験資格を喪失する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書 : D. J. Brewer and P. J. McEwan (eds.), Economics of Education Elsevier, 2010.

参考書 : 島一則編 (2011) 『大学とマネー 経済と財政』(リーディングス日本の高等教育 第8巻) 玉川大学出版。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

予習・復習については授業内容や関連文献に基づいて具体的内容を指示する。

8. その他/In addition :

授業中の発言など積極的な関与を求める。

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/27 13:30:38

科目名/Subject : 教育行政学特論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2019 青木 栄一

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

社会科学としての教育行政学

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

日本の教育行政学は「ガラパゴス化」しており社会科学として未成熟である。本授業の目的は文献講読をつうじて、社会科学としての教育行政学の再構築の必要性を認識できるようになることである。たとえば「教育は誰が統治しているのか?」「教育の政府間関係が分権化されるとどのような帰結がもたらされるのか?」といった論点を扱うことでその目的の達成に近づいていく。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・教育行政学が領域学問であることを文献講読を通じて理解できるようになる
- ・英語文献から社会科学としての教育行政学に寄与する情報を析出できるようになる。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

1. ガイダンス・イントロダクション 2~14. 文献講読 (ミニットペーパー提出、要約作成、論点提示) 15. まとめ
のディスカッション

5. 成績評価方法/Evaluation method :

- ・欠席 3 回に達した時点で評価の対象から外れる。
- ・ミニットペーパー (毎回、60%)、授業への貢献 (40%)。
- ・いずれかを欠いた場合、評価の対象から外れる。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書 : 下記の必要箇所を用いる (予定)。

Henig, J. 2013, *The End of Exceptionalism in American Education: The Changing Politics of School Reform*, Harvard Education Press.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

文献講読、文献収集、ミニットペーパー作成。

8. その他/In addition :

- ・受講要件 : 「教育行政学講義 I・II」と「教育政策科学演習IV」の履修・修得者。これに該当しない受講希望者は事前に担当教員と相談し、第 1 回授業までに最大で 16,000 字の教育行政学に関するレポートを提出し、受講可否に関する判断を仰ぐこと。
- ・教育政策科学コース博士課程前期及び他コース学生の「自由聴講」は認めない。
- ・担当教員ホームページ : <https://researchmap.jp/read0124718/>

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/11 23:16:37

科目名/Subject : 教育行政学特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 後藤 武俊

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

教育政策研究の基盤的知識としての政治哲学/Political Philosophy as the Basic Knowledge for Education Policy Studies

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

政治哲学の基礎的諸概念（社会正義、自由、平等、民主主義等）を理解し、当該知識を用いて、教育制度・政策に関する規範的判断の論拠を適切に分析できるようになることを目標とする。/The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts of political philosophy (social justice, freedom, equality, democracy and so on). It also enhances the development of students' skill in analyzing normative justification behind education policies by using those concepts.

NOTICE: This course will be taught in Japanese.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・政治哲学の基礎的諸概念を理解できるようになる。
- ・政治哲学の基礎的諸概念を用いた論文を正確に読みこなせるようになる。
- ・政治哲学の基礎的諸概念を用いて適切な論証を行えるようになる。

/--The goals of this course are to

- 1) understand the basic concepts of political philosophy.
- 2) obtain the skill to read correctly the articles using the concepts of political philosophy.
- 3) obtain the skill to discuss thoughts by using the concepts of political philosophy.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

テキスト・参考書に挙げた図書を輪読するかたちで進めていく。論点・疑問点をまとめた資料（ワークシート）を毎回作成して持参することが求められる。/We will discuss the contents of the textbooks. Participants are required to write their impressions, thoughts and questions for the textbooks on the worksheet every week.

1. オリエンテーション / Orientation
2. ラディカル・リベラリズムの枠組み / A Radical Liberal Framework
3. ジェンダー / Gender
4. 多文化主義 / Multiculturalism
5. セグレーション / Segregation
7. 学校選択 / School Choice
- 8～9. リベラルな平等 / Liberal Equality
- 10～11. リバタリアニズム / Libertarianism
- 12～13. コミュニタリアニズム / Communitarianism
14. シティズンシップ理論 / Citizenship Theory
15. まとめ / Final Discussion

5. 成績評価方法/Evaluation method :

ワークシートへの評価 (60%)、最終レポート (40%)

/Your overall grade in this class will be decided based on the following:

- Quality of comments written in worksheet: 60%
- Final report: 40%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

- ・ハウ, K. (大桃敏行・中村雅子・後藤武俊訳)『教育の平等と正義』東信堂。
- ・キムリック, W. (千葉眞・岡崎晴輝他訳)『新版 現代政治理論』日本経済評論社

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

テキストの熟読およびワークシートの作成。/ Reading textbooks and writing comments on worksheet.

8. その他/In addition :

E-mail: taketoshi.goto.a8@tohoku.ac.jp

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/11 15:24:47

科目名/Subject : 比較教育学特論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 水曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 石井 光夫

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

現代中国の教育改革

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

1980 年代世界的な潮流として起こった教育改革は、欧米、日本、韓国だけでなく、中国においても国家政策の最重要課題の一つであった。本特論では、30 年来の中国教育改革全体を視野に入れ、我が国を含む主要国との比較を交えながら、教育段階・分野ごとに問題状況や改革措置について理解し、その意味を考える。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

中国の教育改革の流れや個別問題を理解するだけでなく、これを我が国や欧米諸国、韓国、台湾などの東アジア地域の教育制度、改革事例と比較することで、我が国の教育問題や教育改革を考える新たな視点を得る。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

授業の内容は次の通りである。全体的な改革の流れと主な内容を理解した上で、個別の改革事項を教育段階／分野ごとにとりあげる。テーマごとに主要国および我が国との比較を交えて考察する。

1. 1980 年代以降の教育改革の展開 (4 回)
2. 教育行財政制度の構築 (3 回)
3. 初等中等教育の普及と質の向上 (3 回)
4. 教員の資質向上 (1 回)
5. 大学入試改革 (1 回)
6. 高等教育の再編・市場経済への対応 (3 回)

授業では、教員が用意した資料にしたがって各テーマを解説し、これをもとに受講者と議論をしながら、問題の理解、考察を深めていく。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

期末レポート (70%)。授業における議論への参加、受講態度による平常点 (30%)。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

[教科書]

特に指定しない。授業の中で適宜文献・資料を紹介する。

[参考書]

本間政雄・高橋誠編著『諸外国の教育改革』ぎょうせい、2000 年 文部科学省『諸外国の教育改革の動向』ぎょうせい、2009 年 文部科学省『諸外国の教育動向』明石書店、2007 年以降各年版

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

事前に渡す文献・資料に目を通し、理解して授業に臨むよう求める。

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/21 10:20:03

科目名/Subject : 比較教育学特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2019 井本 佳宏

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

現代ドイツにおける教育の論点 / Current Issues of Education in Germany

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

ドイツの教育制度は日本の教育制度と比較して、分岐型の中等学校制度や充実した職業教育制度など、対照的な特徴を示している。本授業では、ドイツの教育雑誌 Pädagogik の Stand Punkt および Kontrovers の両コーナー掲載の諸論稿をもとに、現代ドイツにおいて教育上の論点となっている事項について日独比較の視点から考察を加えることで、日本の教育を広い視野から考察する力の育成を目指す。 / This course deals with the current issues of education in Germany. It also enhances the development of students' skill in looking at education from a comparative perspective.

Notice: This course will be taught in Japanese. But we shall read texts written in German.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 現代ドイツにおける教育上の諸論点について把握する。
2. ドイツにおける教育事情を日独比較の視点から考察することを通じて、海外の教育情報を普遍的な教育理解のための資源として活用するスキルを身につける。
3. 授業への参加を通じて独文読解力、討議能力および論証力を獲得する。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Kompetenzorientierung im Mathematikunterricht?
- 第3回 Lerncamps in den Ferien?
- 第4回 Inklusion: Ja -auch an Gymnasien!
- 第5回 Auch Lehrkräfte Haben ein Recht auf digitale Nichterreichbarkeit!
- 第6回 Sonderpädagogik behindert Inklusion?
- 第7回 第2回から第6回までのまとめと討議
- 第8回 Seiteneinstieg in den Lehrerberuf?
- 第9回 Digitales Klassenbuch?
- 第10回 Gymnasiallehrer in der Grundschule?
- 第11回 Neuropädagogik? -Aber bitte ohne Neuromythen!
- 第12回 Orthographie ade? Zur nicht ausrottbaren Mär von der angeblichen »Rächtschraipkaterstrofe«
- 第13回 Schüler anhören bei der Genehmigung von Klassenarbeit?
- 第14回 第8回から第13回までのまとめと討議
- 第15回 全体のまとめと補足

5. 成績評価方法/Evaluation method :

1. 授業内での報告および議論への貢献 (50%)。
2. 期末レポート (50%)。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

以下の雑誌に所収の論稿の中から検討対象とするものを適宜指示する。

- ・Pädagogik, Beltz Verlag.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- ・検討対象の文献については授業までに必ず読んでおくこと。
- ・各回の報告担当者は事前に配付用のレジュメを作成すること。

8. その他/In addition :

- ・オフィスアワー 火曜日 13:00~15:00
- ・毎回、雑誌見開き 2 ページ程度のドイツ語の記事を読むため、受講前に初歩的な独文読解力を身につけておくことが望ましい。ただし、このことはドイツ語初學者の受講を排除するものではない。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/08 20:55:40

科目名/Subject : 教育政策科学特論

曜日・講時/Day/Period : 前期集中 その他 連講

担当教員/Instructor : 2019 その他教員

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

現代の教育経営改革の理解

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育経営について、とくに現代の新自由主義下の学校改革について、日本とイギリスを題材に「新公共管理(NPM)」「官僚制」「経営管理主義」に着目して、教育という業務の変化の特質を政治的な次元で検討する。その際、学校経営の基礎的な概念についても認識を深められるように講義を進める予定である。授業においては関係事項の解説に留まらず、活発な討議を行う予定である。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

現代の教育経営について、学校の組織特性に注目しながら、現代の学校のあり方、学校経営環境、学校経営政策などに関して基礎的な理解を図る。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

・授業内容・方法

文献の批判的検討と討論

・進度予定

1 授業の進め方／学校とは？

2 政治改革と教育経営

3 日英の教育改革の特徴と課題

4 学校組織の特性／教育という営みの特殊性

5 学校観の変容と経営管理主義

6 学校組織と企業組織の違い

7 学校組織の特質：教える一学ぶの関係

8 保護者・地域住民との関係のあり方

9 学校経営改革の展開と課題

10 分権改革と教育経営

11 学校経営環境の国際比較

12 現代における子どもの能力・育成課題

13 教育を業務とコミュニケーションとして考える

14 学校におけるリーダーシップ

15 振り返り

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業レポート : 60%

授業課題への取り組み : 20%

議論への参加度並びに積極性 : 20%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

(検討文献) 適宜、指定・配布予定。

(参考文献)

末松裕基編著『現代の学校を読み解く—学校の現在地と教育の未来』春風社、2016年。

末松裕基編著『教育経営論』学文社、2017年。

Gunter, H. (2015), Educational Leadership and Hannah Arendt, Routledge.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

・報告者としてのレジメ作成

・指定文献の批判的検討

8. その他/In addition :

特になし。

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/28 08:28:02

科目名/Subject : 多文化教育論特論

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2019 渡部 由紀, 末松 和子, 高橋 美能

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

多文化教育研究方法論

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

グローバル共生を教育的に捉えた諸分野において、複数の研究アプローチを理解し、研究課題に応じた検証方法の選定や多層的でクリティカルな視点に基づいた分析方法を学ぶ。高等教育の国際化、地球市民教育、留学生教育等の諸分野の研究を題材に、研究課題の設定、先行研究、リサーチクエスションの設定、研究方法の選択までのプロセスを修得し、研究に必要な知的基盤を形成する。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・教育分野における代表的な研究メソドロジーを学ぶ。
- ・文献を読みこなし、先行研究を活用するスキルを身に着ける。
- ・リサーチクエスションの設定や適切な研究方法の選択など、研究をデザインする上で必要な知識を修得する。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

授業内容・方法と進捗予定は以下の通り :

- 第1回 授業概要の説明
- 第2回 文献レビュー担当決めと1学期間の計画
- 第3～12回 文献レビュー分析と発表 ①～⑤
- 第13～15回 研究計画書

5. 成績評価方法/Evaluation method :

- 1) 授業の参加・貢献度 20%
- 2) 文献レビュー（レポートと発表） 50%（文献1本10%×5）
- 3) 研究計画書 30%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書は特に定めませんが、授業に沿った参考図書を適宜紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/14 22:07:21

科目名/Subject : 国際教育論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期集中 その他 連講

担当教員/Instructor : 2019

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

Nonformal and Adult Education

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

The course examines the study of adult and community education concept and strategies as well as literature and resources. Learning about non formal education as learning about the way to overcome powerlessness and vulnerability is through learning; whereas the latter concept has to do with the extension of education and learning throughout life. Non formal and informal educations were introduced with particular reference to the problems of developing country, but it is also applicable to a developed country though in such as a case are more likely to be labeled as community education. In terms of an education process that held in non formal education adult learner become important part to be knowledge. The courses also examines the concept of adult education as a learner and how to teach and learning with adult.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. Student will develop understanding of nonformal education concept and the implementation in community
2. Student will develop an understanding in managing adult people and resources and will learn about practice based research

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

The subject of Nonformal and Adult Education is an international study course that provides insight into concepts and theories about lifelong education, non-formal education, informal education, public education and adult education.

The scope of the study are

1. Introduction to Nonformal and Adult Education, (A survey course which examines the fields of nonformal education and community education philosophically and historically and in terms of current programs and processes.)
2. Nonformal Education, (This section student learn that nonformal education initiatives generated by individuals and groups in community outside of formal educational structures, frequently for the purpose of achieving social change. Following are some of the concepts investigated in this course: social, cultural, and economic reasons for the origins of community-based education, support structures generated to sustain and enhance community-based education, types of learning that results, both individually and communally, and the outcomes of community-based education that affect individuals, groups, and communities)
3. The Adult Learner (The course focuses on the adult as learner, concerning their physiological and sociological characteristics and their effect on learning. Student also will examines teaching and learning theories as they relate to adults: the teaching-learning process in a variety of educational settings; instructional methods, techniques, and devices that are effective with adults; and instructional designs and evaluation methods that are effective in the teaching-learning process)
4. Program Planning in Nonformal and Adult Education. (Delivering knowledge and skill-building course designed for managing education program for adult and community education practitioners. The course examines concepts and practices relevant to the development of educational programs in community settings)
5. Practical Research in Nonformal and Adult Education. (Student will explores current issues, trends, and topics adult and community education research area. Student learn type of approach, method, data analysis based on research problem and design)

Lecturing activities are held in a variety of ways by combining lecture, discussion, case presentation, and / or assignment methods.

5. 成績評価方法/Evaluation method :

Learning experience assessment is based on: participation in classroom learning activities, writing report about studies on non-formal education and adult education.

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

Coombs, P. (1968). The World Educational Crisis. New York: Oxford University Press

Malcom, Tight. (1996). Key Concept in Adult Education and Training 2nd Edition. New York: Routledge Falmer

Malcom S, Knowles. (1973). The Adult Learner. Elsevier

Pandya, R. (2014). Non-Formal Education: An Indian Context. India: University of Baroda, Vadodara

Simkins, T. (1976). Non formal education and Development. University of Manchester: Department of Adult & Higher Education

UNESCO (1972) Learning to Be (prepared by Faure, E. et al), Paris: UNESCO.

Singh, Madhu. (2015). Global Perspectives on Recognising Non-formal and Informal Learning. Germany: UNESCO Institute for Lifelong Learning Hamburg.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

Student can explore more about nonformal education in Indonesia as a case study to discuss in the class

8. その他/In addition :

Language Used in Course: English

9. 更新日付/Last Update :

2019/07/17 12:59

科目名/Subject : 国際教育論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期集中 その他 連講

担当教員/Instructor : 2019

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :
2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :
※ 集中講義の日程が決まり次第、シラバスも併せて周知する。
3. 学習の到達目標/Goal of study :
4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

5. 成績評価方法/Evaluation method :
6. 教科書および参考書/Textbook and references :
7. 授業時間外学習/Preparation and Review :
8. その他/In addition :
9. 更新日付/Last Update :
2019/03/27 17:28:52

科目名/Subject : 教育アセスメント特論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2019 有本 昌弘

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

「イノベティブな学習環境」を文脈から読み直す
Read "Innovative learning environment" from the context

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

激変する世界と人口減少の地方の諸課題の中で、学校全体でシステム思考を取り上げてきた米国の学校も取り上げつつ、震災後の国内パイロット校ともコラボを進める。「各人は所詮お互い分かり合えず、学習者は伝えられる以上のことを知って」おり、アセスメントを積み重ねることが、生徒や学生が未来の概念に格闘できるカリキュラムを創造できるという前提からスタートする。学校教育のみならず、良き市民、近年の職場学習における「学び」を、アセスメントとエヴァリュエーションの枠組みの下、豊かな概念から、21世紀型のコンピテンシーとその測り方について、学習者・教師・コンテンツ・リソース・構成要素の組織を通じて吟味・検討する。様々な学問分野（太陽光、機械、生物や生体、水資源・生態、社会経済）でみられるシステム思考の方法論を教育学に導入し、教科を重視し、教科を超える知識を新たな知育の可能性を探る。とともに、日本の社会文化の中での独自の社会組織の中での学びを、文化的なコードワードによって、解明していく。これを過去のデータを再分析する中で行う。

To collaborate with domestic pilot schools after the earthquake while taking up US schools that have taken up system thinking throughout the school, among the various problems of the rapidly changing world and the rural population declining. "Each person cannot understand each other after all, learners know more than they can be told", and starts from the premise that students can create a curriculum that can fight the future-oriented concepts by accumulating assessment. Not only school education, good citizens, "learning" in recent workplace learning, from the rich concept under the framework of assessment and evolution, about the 21st century competency and how to measure and examine through the learners-teachers, organization of contents, resources and components. Introduction of system thinking methodology as seen in various academic disciplines (sunlight, machinery, living organisms, living organisms, water resources / ecology, socioeconomic) into pedagogy, emphasizing subjects, focusing on subjects, Explore the possibilities. Together with cultural code words we will clarify learning in our own social organization in Japanese social culture. This is done while reanalyzing the past data.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

その際、ルーブリックなどアセスメントツールの開発、アセスメントの成果・プロセス・文脈についての枠組みをアングロサクソンはじめ他の国々から学び、教育アセスメントとリーダーシップに関して比較研究を行う力を身につけ、東北地方の教育実践に置き換え読み解いていく。

Developing the assessment tools such as rubrics, acquiring the ability to conduct comparative research on educational assessment and leadership, learning about the outcome, process and context of the assessment from the Anglo-Saxon and other countries, replacing it and reading it.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回 講義のアウトライン、21世紀型コンピテンシーの説明とクライテリアの共有
- 第2回 ミニパフォーマンス課題と文脈・プロセスの共有（第1回）
- 第3回 ILE 関連文献の購読
- 第4回 学習者・教師・コンテンツ・リソース・構成要素の組織の日本型への読み替え
- 第5回 //
- 第6回 //
- 第7回 //
- 第8回 過去の学習理論と（行動主義、認知主義、社会構成主義、社会文化理論）と学校の「授業研究」実践
- 第9回 //
- 第10回 //
- 第11回 //
- 第12回 //
- 第13回 //
- 第14回 ミニパフォーマンス課題と文脈・プロセスの共有（第2回）
- 第15回 レポート提出とまとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

無断欠席は2回までとする。パフォーマンス課題を複数回に分けたミニタスクによるレポート提出(40%)、ルーブリック(採点指標)によるセルフ・ピアアセスメント(40%)、ポートフォリオの選択(20%)とするが、これについては、意味のあるクライテリア(尺度や物差し)を受講生と探し、共有することに努める。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

CCR (2015) 『21世紀の学習者と教育の4つの次元: 知識, スキル, 人間性, そしてメタ学習』(翻訳 2016)

OECD (2013) Synergies for Better Learning: An International Perspective On Evaluation And Assessment, Reviews of Evaluation and Assessment in Education, OECD.

OECD (2008) 『学びのイノベーション—21世紀型学習の創発モデル』(有本監訳 2016) 明石書店

OECD-CERI (2013) Leadership for 21st Century Learning, OECD

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

データの再分析の時間を、講義のコマ数にカウントする。

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/09 15:55:46

科目名/Subject : 教育アセスメント特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 3講時

担当教員/Instructor : 2019 松林 優一郎

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

自然言語処理学入門

Introduction to natural language processing

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

人間によって生み出されるテキストは、その知的活動の表出と見ることができる。テキストをデータ解析することによる教育アセスメントの試みは、小論文問題等、試験問題の自動採点を代表として近年盛んに研究されている。本特論では、テキストデータ解析に必要な自然言語処理の基礎知識を学ぶ。

Texts produced by humans can be viewed as the manifestation of their intellectual activity. Attempts at educational assessment by analyzing text data have been actively studied in recent years, as represented by automatic scoring of exam including essay scoring. In this course, students learn basic knowledge of natural language processing necessary for text data analysis.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

形態素解析、構文解析、意味解析、言語知識獲得など、自然言語処理の様々な基盤技術を幅広く理解する

The goal of this course is to understand fundamental technologies in natural language processing including part-of-speech tagging, syntactic parsing, semantic parsing, and lexical knowledge acquisition.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回 自然言語処理概説

第2回 分類問題の学習

第3回 品詞解析

第4回 構文解析 (1)

第5回 構文解析 (2)

第6回 意味解析 (1)

第7回 意味解析 (2)

第8回 ニューラルネットワークによる解析

第9回 単語埋め込み

第10回 トピックモデル

第11回 機械翻訳

第12回 文書要約

第13回 質問応答

第14回 プログラミング演習

第15回 プログラミング演習

5. 成績評価方法/Evaluation method :

適宜行う小レポート (50%) + 最終レポート (50%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業毎に適宜資料を配布する。

[参考書] (購入は必須ではありません)

Christopher D. Manning and Hinrich Schütze. Foundations of Statistical Natural Language Processing. The MIT Press, Cambridge, Massachusetts, 1999.

Christopher D. Manning, Hinrich Schütze 著. 加藤 恒昭, 菊井 玄一郎, 林 良彦, 森 辰則 訳. 統計的自然言語処理の基礎, 共立出版, 2017.

Daniel Jurafsky & James H. Martin. Speech and Language Processing, Second Edition. Pearson, 2009.

黒橋, 柴田『自然言語処理概論』, サイエンス社, 2016.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/15 08:51:58

科目名/Subject : 教育アセスメント特論Ⅲ

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 熊谷 龍一. 有本 昌弘. 佐藤 智子. 柴山 直. 松林 優一郎

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

教育評価・測定論研究の実際 (1)

Research of Educational Assessment and Measurement I

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育評価論や教育測定論に関する論文や実践を共同で検討するとともに、各自の関心に基づいた研究を遂行し、進捗状況に応じた指導を受けることを目的とする。

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed for research activity. Students collaboratively discuss about academic articles and practical studies in the field of educational assessment and measurement and tackle some research topics based on individual interests. Staffs in charge support you and give you professional advice and guidance depending on the state of the progress.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 各自の関心を教育的・社会的意義のある研究テーマとして構築できる。
2. 各自の研究テーマに関する先行研究を的確に把握し、批判できる。
3. 各自の研究テーマに沿った研究を遂行できる。

After taking this course, you will be able to:

1. construct meaningful research project proposals based on your interests,
2. exhaustively survey related work on your target research topic, and understand or criticize them,
3. perform high-quality research on the selected topic.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. 各自の関心の発表と研究テーマ化に向けた指導 (3 回)
2. 各自の研究テーマに関する先行研究のレビューと共同討議 (10 回)
3. 各自の研究テーマに沿った研究計画の作成・指導 (2 回)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表・レビュー (70%), 討議への参加 (30%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

講義中に適宜指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

先行研究の探索・整理, レビューの執筆, 発表資料の作成

8. その他/In addition :

教育情報アセスメントコースの教育評価測定論領域に所属する院生は、すでに受講済みの学生であっても、各自の研究を相対化し知見を広げる機会となるので、原則参加すること。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/06 14:35:20

科目名/Subject : 教育測定学特論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2019 柴山 直

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

教育におけるデータ・サイエンス基礎

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育への適用を常に念頭に置きながら、ベイズ統計の基礎を理解し、ベイズ主義機械学習(ベイズ学習)の基本原理から、モデルの構築から推論の導出にいたるデータ解析アルゴリズムの構築方法を修得することを目的とする。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・教育におけるデータから推定・予測を行う方法論としてのベイズ統計の原理が理解できる
- ・教育におけるさまざまな目標や状況に合わせた機械学習のアルゴリズムの作成方法の原理が理解できる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

授業内容・方法 : 輪講対話方式

進行予定 :

- | | |
|-----------|---------------|
| 第1回～第3回 | 機械学習とベイズ学習 |
| 第4回～第6回 | 基本的な確率分布 |
| 第7回～第9回 | ベイズ推論による学習と予測 |
| 第10回～第12回 | 混合モデルと近似推論 |
| 第13回～第15回 | 応用モデルの構築と推論 |

5. 成績評価方法/Evaluation method :

毎回課す報告に対する評価の合計点

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書

須山 敦志 (著), 杉山 将 (監修)
「ベイズ推論による機械学習入門 (KS 情報科学専門書)」
講談社

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. その他/In addition :

前提とする知識レベル :

理系学部1年～2年次程度の 微分積分・線形代数・確率・初等統計・多変量統計・プログラミング (R, Python 等) の知識やスキル

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/12 17:17:54

科目名/Subject : 教育測定学特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2019 熊谷 龍一

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

テスト理論の基礎と分析手法

Basic concept and analysis methods of test theory

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育測定・評価の中で必須となる、テスト理論について基礎理論から、統計ソフトを利用した実際のテストデータの分析までを学ぶ。テスト理論では、例えば Σ 計算などの数学的知識が必要となるが、これについても学習を行なう。

This course deals with the basic concept of test theory, methods of test data analysis using computer program and basic knowledge about mathematics.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. テスト理論の基礎を習得し、それをテストデータの分析に用いることができる。
2. テストデータの分析およびその解釈を適切に行うことができる。
3. データ分析から得られた指標を正しく読み取り、教育評価に生かすことができる。

The goals of this course are to

1. be able to recognize and apply the basic concept of test theory to test data analysis,
2. be able to evaluate and judge the result of test data analysis appropriately,
3. be able to read the result of analysis, apply it to educational assessment.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回：オリエンテーション（授業全体の概要把握）

第2回：テスト法について

第3回：テスト理論に必要な数学的知識（1）：平均，分散，標準偏差

第4回：テスト理論に必要な数学的知識（2）：共分散，相関係数

第5回：項目分析

第6回：相関係数

第7回：古典的テスト理論：基本モデルと測定精度

第8回：古典的テスト理論：信頼性係数（1）推定方法について

第9回：古典的テスト理論：信頼性係数（2）実際のテストにおける信頼性係数

第10回：古典的テスト理論：信頼性係数（3）クロンバックの α 係数の導出

第11回：古典的テスト理論：妥当性

第12回：テスト得点の標準化

第13回：テスト得点の等化

第14回：項目反応理論の基礎

第15回：項目反応理論の応用

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加度（発言，質問等，50%），適宜行う小レポート＋最終レポート（50%）

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

熊谷龍一・荘島宏二郎（2015）教育心理学のための統計学．誠信書房．

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/14 16:08:08

科目名/Subject : 教育情報学基礎論特論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2019 渡部 信一

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

「人工知能」の学習と人間の「学び」

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

「人工知能」の学習と人間の「学び」との違いを自分なりに考え、その点について他の人と議論する。
これからの「人口知能社会」における教育や学校のあり方を検討する。

教科書を読みまとめ、みんなと議論し、それを元に自分の考えをまとめ直すという作業を行う。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

人間の「学び」についての専門的な知識を習得し、人工知能の学習とは異なることを理解する。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

1 オリエンテーション

2 シンクロする「教育現場」と「人工知能」開発：なぜ「人工知能」に着目するのか？ (第1回目)

3 シンクロする「教育現場」と「人工知能」開発：なぜ「人工知能」に着目するのか？ (第2回目)

4 人工知能の「ディープラーニング」：「学習」はどのように生まれるか？ (第1回目)

5 人工知能の「ディープラーニング」：「学習」はどのように生まれるか？ (第2回目)

6 「教師あり学習」を支えるビッグデータ：「教師の役割」とは何か？ (第1回目)

7 「教師あり学習」を支えるビッグデータ：「教師の役割」とは何か？ (第2回目)

8 自律的に学習する最新の人工知能：「学習者が教師を超える」という発想 (第1回目)

9 自律的に学習する最新の人工知能：「学習者が教師を超える」という発想 (第2回目)

10 人工知能に負けない「教育」：「学習者のフレーム」という視点 (第1回目)

11 人工知能に負けない「教育」：「学習者のフレーム」という視点 (第2回目)

12 人工知能と「教育」の未来 (第1回目)

13 ケーススタディ① コンピュータによる「カウンセリング」への挑戦

14 ケーススタディ② 最新のテクノロジーで伝統芸能の本質を捉えることは可能か？

15 まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

教科書を読みまとめる能力、みんなと議論する能力、そして自分の考えをまとめ直す能力を評価対象とする。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書： 渡部信一著 『AIに負けない「教育」』(大修館書店 2018)

(教科書は図書館等で借りるか、購入することが望ましい。)

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

教科書を読みまとめる作業は、授業時間外の学習で行う。

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/11 11:02:14

科目名/Subject : 教育情報学基礎論特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 3講時

担当教員/Instructor : 2019 熊井 正之

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

コミュニケーション研究法

Research Methods in Communication Studies

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業では、コミュニケーションのモデルと理論を概観するとともに、コミュニケーション研究法を解説する。

This course provides an overview of the models and theories of communication, and explanations of research methods in communication studies.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

この授業の目標は、(1)コミュニケーションの要素、目的、特性を理解し、自分なりに説明できるようになること、(2)コミュニケーション研究法を理解し、応用できるようになることである。

The goals of this course are to

(1) be able to understand and explain the elements, purposes, and characteristics of communication in their own words,

(2) be able to understand and apply research methods in communication studies.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. コミュニケーションとは

2. 意味とは

3-4. コミュニケーションの要素

5. コミュニケーションの類型

6. コミュニケーションの目的

7. コミュニケーションの特性

8-10. コミュニケーションの滞り

11-15. コミュニケーション研究法

1. Definition of communication

2. Meaning of meaning

3-4. Elements of communication

5. Types of communication

6. Purposes of communication

7. Characteristics of communication

8-10. Communication problems

11-15. Research methods in communication studies

5. 成績評価方法/Evaluation method :

複数のショートレポート (約 55%)、学期末レポート (約 30%)、授業への取り組み (約 15%)

Short reports (about 55%), final report (about 30%), class participation (about 15%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

各回に配付する資料を教科書・参考書として用いる。

No textbooks will be used. References are handed out at every class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

課題に取り組むことを中心に、各回の配付資料を用いて復習すること。

Students are required to make a thorough review each class using handouts, mainly by completing assignments.

8. その他/In addition :

1) 欠席する場合には事前に申し出てください。

2) オフィスアワーは月曜 13時から 16時 10分です。事前に eメール等でアポイントメントをとってください。

1) If you have to absent from class, you must notify the lecturer in advance.

2) Office hours are from 13:00 to 16:10 on Mondays. Make an appointment in advance via e-mail or other means.

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/12 18:50:47

科目名/Subject : 教育情報学基礎論特論Ⅲ

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 佐藤 克美

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

ICT を活用した教育

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

ICT を効果的に教育に活用するためには、技術の特性、またそれを利用した教材の特性を理解し用いることが求められる。そこで本講義では、現在 ICT 教材において、その中心をなしている映像教材を取り上げる。ICT 登場以前の視聴覚教材から最新の 3DCG 映像、バーチャルリアリティ等を活用した教育について具体例を取り上げながら学習し、それを通して映像教材の特性を理解するとともに実際に ICT 教材を作製する際に必要な基礎知識を学ぶ。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・視聴覚教材、ICT を活用した教育手法とその効果を理解する
- ・映像教材の特性を理解し、教材作製に必要な基礎知識を理解する
- ・基礎的な映像教材を作製できるようになる

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第 1 回 オリエンテーション 授業の概要と評価について
- 第 2 回 視聴覚機器を活用した教育 (1) 視聴覚機器とは
- 第 3 回 視聴覚機器を活用した教育 (2) 画像・映像・音声
- 第 4 回 コンピュータを活用した教育 (1) CAI
- 第 5 回 コンピュータを活用した教育 (2) マルチメディア
- 第 6 回 最近の ICT と教育 (1) 携帯端末の利用
- 第 7 回 最近の ICT と教育 (2) コンピュータグラフィックス (CG)
- 第 8 回 最近の ICT と教育 (3) バーチャルリアリティ
- 第 9 回 プログラミング的思考・プログラミング教育 (1)
- 第 10 回 プログラミング的思考・プログラミング教育 (2)
- 第 11 回 ICT を活用した教材のデザイン
- 第 12 回 映像を中心とした e-ラーニング教材に必要な要素
- 第 13 回 映像・画像の加工の技術 (1) 撮影
- 第 14 回 映像・画像の加工の技術 (2) 編集
- 第 15 回 講義のまとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

ミニットペーパーと授業内の発言と数回課すレポート課題により総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

講義中に指示する

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

レポートの他に、課題を出すのでその課題に積極的に取り組む必要があります。

8. その他/In addition :

※受講生の興味関心に合わせ若干進捗・内容を変更する可能性もある。

※ISTU での受講を希望する学生は担当に問い合わせてください。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/11 12:00:23

科目名/Subject : 教育情報学応用論特論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 1 講時

担当教員/Instructor : 2019 倉元 直樹

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

Advanced Lecture on Application Theories of Educational Informatics I

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

データを収集し、計量的方法を用いて分析するテクニックは、テーマによらず実証的研究の方法論的基礎である。言うまでもなく、教育現場において児童・生徒の学習成果の評価を行う際にも必須である。一方、教育評価に関わる技術を理論的に整然と学ぶ機会は多くはない。受講者の中には具体的なデータ解析手法や教育評価論の既習者もいるだろうが、単なるハウツーや抽象的観念の集積では教育現場において適切な応用はできない。さらに、データ解析法を全く経験せずに進学してきた者にとっては、e-ラーニング、対面授業を問わず、本講義は将来の教育実践の大切な基礎となる方法論を学ぶ機会である。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

教育評価の基礎となる統計的方法の基礎的な概念を身につける。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. 教育評価と教育測定：目的と位置づけ
2. ヒストグラム・累積度数折線による教育評価の図的表現
3. 教育評価の数値的表現 1：数値による分布の要約（モーメント系）
4. 教育評価の数値的表現 2：数値による分布の要約（分位数系）
5. 複数の教育評価結果の関係性
6. 教育評価の構造と予測
7. 教育測定の基礎理論と古典的テストモデル 1 妥当性の定義と検証
8. 教育測定の基礎理論と古典的テストモデル 2 信頼性の定義と検証
9. 初等統計学の数学的基礎 1：確率
10. 初等統計学の数学的基礎 2：二項分布・正規分布
11. 評価結果の一般化 1：統計的仮説検定
12. 評価結果の一般化 2：期待値
13. 評価結果の一般化 3：標本平均の分布
14. 教育評価のための統計手法各論 1：2 群の母集団平均値の差に関する検定
15. 教育評価のための統計手法各論 2：さまざまな検定

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席点（40%程度）、課題提出状況（課題成績）（30%程度）、期末テスト（30%程度）

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

[教科書]

なし（自作の授業ノート）

[参考書]

中村知靖, 松井仁, 前田忠彦共著, 2006 年, 心理統計法への招待, サイエンス社

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8 回のレポートを課す予定。

8. その他/In addition :

初回の講義で授業運営方針について説明する。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/13 11:49:30

科目名/Subject : 教育情報学応用論特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 3講時

担当教員/Instructor : 2019 宮本 友弘

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

教育評価のための基礎統計学 Basic statistics for educational evaluation

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教室による教育評価の基盤となる統計的方法の基礎的な概念及び教育調査によって得られる量的データを分析するために必要な基礎理論を学ぶ。統計的方法の考え方について、基本から理解し、把握する機会とする。前半を記述統計学、後半は推測統計学に当てる。統計的な分野に初めて触れる受講者、受講経験があっても理解が不十分と感じる受講者を主な対象とする。教育情報学応用論特論Ⅰと補完的な内容になるので、双方を受講することが望ましい。

Learn the basic concepts of the statistical method as the foundation of the educational evaluation in the classroom and the fundamental theory necessary for analyzing the quantitative data obtained by the educational survey. This lesson will be an opportunity to understand and grasp the concept of statistical methods from the basics. Content of the lesson consists of descriptive statistics in the first half and inference statistics in the second half. The main subjects of the class are those who first touched the statistics or those who feel that they are not well understood even if they have experience in taking statistics. Since it becomes complementary to “教育情報学応用論特論Ⅰ”, it is desirable to take both classes.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

・教育評価の基礎となる統計的方法の基礎的な概念を身につける。

Students acquire the basic concepts of statistical methods that form the basis of educational evaluation.

・教育関係の各種データを読み解く技能を身に着ける。

Students acquire the skills to read and understand various data on education.

・教育者として、生徒を適切に評価する能力を身に着ける。

Students acquire the ability to appropriately evaluate students as educators.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回：教育評価と教育測定：目的と位置づけ

Educational evaluation and educational measurement: purpose and position

第2回：ヒストグラム・累積度数折線による教育評価の図的表現

Graphical representation of educational evaluation by histogram and cumulative frequency distribution curve

第3回：教育評価の数値的表現1：数値による分布の要約（モーメント系）

Numerical expression of educational evaluation 1: Summary of numerical distribution (moment system)

第4回：教育評価の数値的表現2：数値による分布の要約（分位数系）

Numerical expression of educational evaluation 2: Summary of numerical distribution (quantiles system)

第5回：複数の教育評価結果の関係性

Relationship between multiple educational evaluation results

第6回：教育評価の構造と予測

Structure and prediction of educational evaluation

第7回：初等統計学の数学的基礎1：確率

Mathematical Foundation of Elementary Statistics 1: Probability

第8回：初等統計学の数学的基礎2：二項分布・正規分布

Mathematical Foundation of Elementary Statistics 2: Binomial Distribution and Normal Distribution

第9回：評価結果の一般化1：統計的仮説検定

Generalization of evaluation results 1: Statistical hypothesis test

第10回：評価結果の一般化2：期待値

Generalization of evaluation results 2: expected value

第11回：評価結果の一般化3：標本平均の分布

Generalization of evaluation results 3: distribution of sample mean

第12回：教育評価のための統計手法各論1：2群の母集団平均値の差に関する検定

Statistical Methodology for Educational Evaluation 1: Testing for the Difference Between the Mean Values of Two Groups

第13回：教育評価のための統計手法各論2：信頼区間と効果量

Statistical Methodology for Educational Evaluation 2: Confidence interval and effect size

第14回：教育評価のための統計手法各論3：さまざまな検定

Statistical Methodology for Educational Evaluation 3: Various tests

第15回：教育評価のための統計手法各論4：分散分析と線形計画法の基礎

Statistical Methodology for Educational Evaluation 4: Fundamentals of analysis of variance and linear programming

定期試験

The final examination

5. 成績評価方法/Evaluation method :

講義の態度・発言 (40%程度), 課題提出状況 (課題成績) (30%程度), 定期試験 (30%程度)

Presentation and class participation (about 40%), submitted assignments (including the grade) (about 30%), the final examination (about 30%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書は指定しない。毎回の授業で自作資料を配布。

No textbook is specified. Hand-made materials are distributed at each class.

参考書は授業中に示す。

Reference books will be shown during class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

毎回の講義内容の予習・復習

Preparation / review of each class

8. その他/In addition :

統計ソフトによるデータ分析の演習を行う。

Practice data analysis with statistical software.

9. 更新日付/Last Update :

2019/09/27 14:48

科目名/Subject : 教育情報学応用論特論Ⅲ

曜日・講時/Day/Period : 前期 水曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 佐藤 智子

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

社会構成主義の学習理論

Learning Concepts of Socio-Constructivism

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育や学習の効果・成果をどう評価するかは、社会や文化の特質によって多様である。その多様性の前提としては、教育や学習とはどのようなものか、その過程や結果をいかに理解し、どう概念化するかについての理論的な変遷や蓄積がある。現代の教育カリキュラムの重点が知識習得から能力形成へと移行する中で、「何を学ぶか」のみならず「どのように学ぶか」が焦点化されるようになってきている。教育実践の中でも、個人学習より協働学習がより重視される状況になってきており、間主観的な協働学習の過程をどう概念化し、それをどのように具体的に評価していくのかが、喫緊の学術的・実践的課題となっている。

そこでこの授業では、昨今のカリキュラム・デザインや教育政策の基盤を成す学習理論となっている構成主義、特に社会構成主義の考え方・理論を基礎から理解することを目指す。

How to evaluate the effects and results of education and learning depends on the nature of society and culture. As a premise of its diversity, there are theoretical accumulation and transition on what learning is and how its process and results are, and how to conceptualize it.

Not only "what to learn" but also "how to learn" is being focused, as the emphasis of modern education curriculum shifts from knowledge acquisition to skill formation. In educational practice, collaborative learning is becoming more focused than individual learning,

In this class, we aim to deeply understand some learning concepts of socio-constitutionism, which forms the foundation of today's curriculum design and educational policy.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- 1) 社会構成主義の学習理論を概観し、それぞれの論者の考え方を理解する。
- 2) 社会構成主義の考え方の本質を熟考し、様々な形態や方法による多様な学習をどう理解し概念化すべきかについて、自らの考えを深化させる。
- 3) 授業への積極的な参加を通して、学習に関する多様な考えや価値観を理解・受容し、討議や対話に参画するために必要な能力を醸成・向上させる。

1) Outline learning concepts of socio-constructivism and understand each viewpoint of thinkers.

2) Ponder the essence of the idea of socio-constructivism and deepen your thought on how to conceptualize diverse learning.

3) Understand and accept diverse ideas and values of learning through active participation in classes, then to foster and improve generic abilities to facilitate discussion and dialogue.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

この授業では、社会構成主義の考え方を理解する上での必読書を取り上げ、輪読形式により各論者の基本理論を理解する。授業は、一方向的な講義ではなく、共創と対話を基本とするワークショップ形式とし、受講者には積極的な参加（発言と傾聴）を期待する。毎回の課題として、授業の記録を作成し、ふり返り（リフレクティブ・ジャーナルの作成など）を行うことを基本とする。

取り上げる文献は、以下のものを予定している（但し、受講生と相談の上、変更の可能性あり）。

1. デューイ 『経験と学習』・『公衆とその諸問題』・『民主主義と教育』
2. ヴィゴツキー 『思考と言語』・『「発達」の最近接領域』の理論』
3. ブルーナー 『教育の過程』・『可能世界の心理』・『意味の復権』
4. エンゲストローム 『拡張による学習』『ネットワークする活動理論』

など

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への積極的参加 (20%)、担当回の報告 (30%)

毎回の小レポート (授業記録とリフレクティブ・ジャーナル) (50%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

必要に応じて、適宜紹介する。また各自で関連文献を探索して予習・復習することを期待する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

指定文献を事前に熟読し、各自が論点をまとめてくる。

毎回の授業について、授業記録（授業内容の要約）とふり返り（リフレクティブ・ジャーナル）の提出を課す。

8. その他/In addition :

問い合わせ・相談がある場合には、下記まで連絡してください。

メールアドレス : sato-t@tohoku.ac.jp

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/07 18:40:41

科目名/Subject : 教育情報学実践論特論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2019 小嶋 秀樹

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

人間と情報テクノロジーの融和による新しい「学び」の探索

Exploring innovative "learning" based on the interaction of humans and information technologies

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

新しい「学び」の形を開拓するには、人間の「学び」に関する諸特性と、それに接続し「学び」を拡張するテクノロジーとの新しい関係を構築しなければならない。本授業では、認知科学・脳科学的な観点から人間の「学び」を系統的に捉えなおし、視線・身体動作・言語といった情報チャネルごとに、人間の振る舞いをデータとして捉え、人間に働きかけるための情報通信技術とその応用について、事例を交えて学んでいく。これらの取組を通して、その後の学修・研究や教育実践における理論的・技術的な見通しを得ることを目指す。

To explore the frontiers of "learning", you need to build a new relationship between the human cognitive characteristics on "learning" and the technologies that expand the "learning". In this course of lectures, students have a chance to overview the state of the art in cognitive science, brain science in order to gain a systematic view of human "learning". Students learn the technologies available for capturing human gaze, bodily motion, and language. Through these activities, students will be able to envision their future research and practice in theoretical and technological perspectives.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・「学び」に関する人の認知特性と、「学び」を計測・支援・拡張するテクノロジーの基本について理解できる。
- ・新しい「学び」の形をデザインし、技術的な実現可能性やその教育的効果について検討し、説明・表現することができる。
- ・人間理解とテクノロジーをつなげ、その後の学修・研究に向けた動機づけや、実践的な教育方法・教材等の開発に向けた見通しを持つことができる。

To be able to understand the human cognitive characteristics and the technologies available for measuring human behavior.

To be able to explain and present the original design of new "learning" and its technological feasibility and educational effects.

To be able to envision future research and practice by combining the understanding of human nature and information technologies.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回：イントロダクション：新しい「学び」をデザインするとは
- 第2回：「学び」の認知科学(1)：生態心理学からみた「学び」
- 第3回：「学び」の認知科学(2)：脳科学からみた「学び」
- 第4回：「学び」の認知科学(3)：続・脳科学からみた「学び」
- 第5回：「学び」を捉える理論と技術(1)：視線計測技術とその応用
- 第6回：「学び」を捉える理論と技術(2)：視線から心理を捉える
- 第7回：「学び」を捉える理論と技術(3)：模倣の心理学・人類学
- 第8回：「学び」を捉える理論と技術(4)：身体動作計測技術とその応用
- 第9回：「学び」を捉える理論と技術(5)：音声とテキストの処理
- 第10回：「学び」を拡張する理論と技術(1)：情報提示の方法
- 第11回：「学び」を拡張する理論と技術(2)：ウェブ技術とその応用
- 第12回：「学び」を拡張する理論と技術(3)：仮想現実・拡張現実とその応用
- 第13回：「学び」を拡張する理論と技術(4)：情報構造と可視化
- 第14回：「学び」を拡張する理論と技術(5)：データサイエンスとの接続
- 第15回：新しい「学び」の実践（教育方法・教育環境・教材の開発）に向けて
定期試験

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業時間内で随時行う小テスト（計50%）と最終レポート「新しい学びの構想」（50%）を総合して評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

- エドワード・リード「アフォーダンスの心理学」新曜社
- 河野哲也「環境に拓がる心」勁草書房
- 高橋宏知「メカ屋のための脳科学入門」日刊工業新聞社
- 遠藤利彦編「読む目・読まれる目」東京大学出版会

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

第2回目以降では、事前に前回の講義について自主レビューしておくこと。

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/13 12:40:32

科目名/Subject : 教育情報学実践論特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期前半 木曜日 1 講時. 後期前半 木曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2019 中島 平

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

教育情報学実践論特論Ⅱ

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教えること、学ぶことの双方において、自他の認知スタイルの違いを理解して実践に活かすことは、モチベーション及び学習成果を高めるために大変重要である。この授業ではパーソナリティタイプの観点から、より深い自己理解・他者理解を身につけ、実際の教え・学ぶ場面における活用を通して、応用できるようにする。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・パーソナリティタイプとは何かを説明できる
- ・自分自身のパーソナリティタイプを事例を挙げながら説明できる
- ・教え・学ぶ状況において、認知スタイルの違いがもたらす視点の歪みの例を挙げられる
- ・自らの認知スタイルを活かした学習方法を1つ提案し、実践の結果を述べられる

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション/自己紹介
2. パーソナリティタイプの理論 1
3. パーソナリティタイプの理論 2
4. 自らのパーソナリティタイプを見いだす(感覚-直観 1)
5. 自らのパーソナリティタイプを見いだす(感覚-直観 2)
6. 自らのパーソナリティタイプを見いだす(外向-内向 1)
7. 自らのパーソナリティタイプを見いだす(外向-内向 2)
8. 自らのパーソナリティタイプを見いだす(感情-思考 1)
9. 自らのパーソナリティタイプを見いだす(感情-思考 2)
10. 自らのパーソナリティタイプを見いだす(判断-知覚)
11. タイプダイナミクス
12. パーソナリティタイプと学習 1
13. 自らのタイプに合った学習方法を考える
14. 学習の実践と振りかえり
15. 授業全体の振りかえり

5. 成績評価方法/Evaluation method :

1. ほぼ毎回の小レポート (20%)
2. 最終レポート (40%)
3. 授業内での種々の活動 (40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

1. ほぼ毎回の小レポート
2. 最終レポート

8. その他/In addition :

- ・授業において、研究開発中のテクノロジーを使ってもらふことがある。
- ・授業で得られたデータ（授業映像など）を、後に研究目的で使う可能性がある。授業外でデータを使用されたくない場合は、事前に担当教員に連絡のこと。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/11 12:08:50

科目名/Subject : 教育心理学特論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 工藤 与志文

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

学力形成に影響する諸要因

The influences on achievement in school-aged students

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業では、教育効果に関するメタ分析を扱った Hattie の著書を参考に、学力形成に及ぼす「学習者要因」「家庭要因」「学校要因」「教師要因」「指導方法要因」の影響を検討するとともに、学力を高める指導の特徴について議論する。

This course deals with the influence of the student, home, school, teacher, and teaching strategies on achievement in school-aged students

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ① 学力形成に影響する諸要因について理解する。
- ② 学力を高める指導のあり方について、具体的なイメージを持つ。
- ③ 「メタ分析」の効用と限界について理解する。

The goals of this course are to

- (1) Understand the influences of many factors on achievement..
- (2) having an image on the successful teaching and learning.
- (3) Understand the utility and limitations of "meta-analysis".

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. メタ分析について
2. 学習者要因の影響
3. 家庭要因の影響
4. 学校要因の影響
5. 教師要因の影響
6. 指導方法要因の影響
7. 学力を高める指導の特徴

1. On the meta-analyses
2. The contributions from the student
3. The contributions from the home
4. The contributions from the school
5. The contributions from the teacher
6. The contributions from teaching approaches
7. The successful teaching and learning

5. 成績評価方法/Evaluation method :

議論への参加度 50%、期末レポート 50% で評価する。

The degree of participation in discussion (50%), final report (50%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

Hattie, J. (2008). Visible learning: A synthesis of over 800 meta-analyses relating to achievement. routledge.

(ジョン・ハッティ著 教育の効果 メタ分析による学力に影響を与える要因の効果の可視化 図書文化)

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

あらかじめ参考書および関連資料を読み、議論の準備をする。

The students are expected to read the reference books and related materials beforehand and prepare for the discussion.

8. その他/In addition :

連絡先 : kudou@sed.tohoku.ac.jp

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/18 15:38:27

科目名/Subject : 教育心理学特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 1 講時

担当教員/Instructor : 2019 深谷 優子

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

心理学研究の諸問題

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育および関連する領域の心理学研究の諸問題および世界におけるそれらの研究動向について学ぶ。本授業では、日本国内外における教育心理学研究の各部門の研究動向について、主に英語で公刊された展望論文（査読付）を用いながら検討する。

The aim of this course is to help students acquire current educational psychology research trends in Japan and other countries through intensive reading of meta-analytic papers and other narrative reviews.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・心理学研究の諸問題について学ぶ。
- ・展望論文のスタイルについて学ぶ。

At the end of the course, you should be able to describe current research trends in educational psychology.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回～第3回 : 記憶・知識・概念
- 第4回～第6回 : 思考・問題解決
- 第7回～第9回 : 言語
- 第10回～第12回 : 動機づけ
- 第13回～第15回 : 協働

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表および授業への参加・貢献（60%）、期末レポート（40%）により評価する。

Grading will be based on your presentation and a fraction of in-class contribution(60%) and term paper(40%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

Psychological Bulletin 他
その他授業中に適宜参考書を紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- ・査読付の英文の展望論文を読む。
- ・簡潔に発表できるよう、レジюме作成と発表準備を行う。

8. その他/In addition :

授業の運営については、初回に説明する。

This course is for students whose research interests in Educational Psychology. Other psychology students are also welcomed.

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/20 14:15:41

科目名/Subject : 学習心理学特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 1 講時

担当教員/Instructor : 2019 深谷 優子

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

心理学研究の動向

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育および関連する領域の心理学研究の領域において、受講生が各自テーマを設定し、実証研究論文を読み進めて展望論文を作成することを目的とする。

The aim of this course is to help students review previously published studies on their own research interests.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

各自の興味関心に基づき、日本国内外の心理学研究の実証研究論文（査読付）を30本以上読む。それらの研究論文を展望する論文を作成する。

At the end of the course, you should read more than 30 peer-reviewed papers and make a narrative review of them.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回：心理学研究の諸問題とその動向について

第2回～第3回：テーマの決定および文献リストの作成

第4回～第10回：実証研究論文の報告および討議

第11回～第15回：展望論文の目次の作成および論文の執筆

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表および授業への参加・貢献（60%）、期末レポート（40%）により評価する。

Grading will be based on your presentation and a fraction of in-class contribution(60%) and term paper(40%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業中に適宜参考書を紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

・設定したテーマと作成した文献リストに基づき、30本以上の論文を読む。

・自分の問題意識に基づき、読んだ論文を整理して展望論文を執筆する。

8. その他/In addition :

授業の運営については、初回に説明する。

This course is for students whose research interests in Educational Psychology. Other psychology students are also welcomed.

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/20 14:16:14

科目名/Subject : 発達心理学特論

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2019 神谷 哲司

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

現代日本における子育て家族の心理とその支援

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

少子化, 育児不安・ストレスに, 児童虐待・ネグレクト, 共働きに保育所待機児童問題など, 現代日本社会における子育て家族を取り巻く諸問題の現状とその歴史を概観することを通して, 家族を心理学的に支援するとはどういうことかを考える。

The aim of this course is to help students consider what family support is, through an overview of the history and current topics on Japanese contemporary society and family such as low-birth rate society, child rearing anxiety, child maltreatment, marital double-career, and childcare waiting list.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

日本の家族における現代的な論点とその支援に関する知識を得る。

Obtain basic knowledge about the contemporary psychological issues of Japanese families and the family support.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション: 家族とは何か
2. 戦後日本の社会変動と家族の変遷 (1): 世帯変動から見た戦後の日本家族
3. 戦後日本の社会変動と家族の変遷 (2): 高度経済成長と女性のライフコースの多様化
4. 戦後日本の社会変動と家族の変遷 (3): 平成期の家族の矮小化と諸問題
5. 現代家族の諸問題(1): 少子化と児童虐待
6. 現代家族の諸問題(2): 育児ストレスと三歳児神話
7. 現代家族の諸問題(3): イクメンの現状, 子どもの諸問題
8. 家族支援の視座(1): 家族システムと家族発達
9. 家族支援の視座(2): ライフキャリアと生態学的アプローチ
10. 子どもの発達プロセスと家族
11. 育児期家族への移行と親発達
12. 夫婦サブシステムとコペアレンティング
13. 子どもの成長と親子関係の変容: 児童期・思春期の家族問題
14. 子ども家庭福祉の変遷と現状
15. 子育て家庭の支援の枠組みと留意事項

(講義内容は若干, 変更の可能性あり)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業内容に対するコメント(30%)と期末レポート(70%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

本郷一夫・神谷哲司(編著) 子ども家庭支援の心理学. 建帛社. 2019年

白井利明(編著) 生涯発達の理論と支援. 金子書房. 2019年

松村和子・澤江幸則・神谷哲司(編著) 保育現場で出会う家庭支援論—家族の発達に目を向けて— 建帛社 2010年

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業時間内に指示する。

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/13 13:17:10

科目名/Subject : 発達障害学特論 I (福祉分野に関する理論と支援の展開)

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2019 野口 和人

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

福祉分野における心理社会的課題と支援

Psychosocial problems and supports in the fields of welfare

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この講義では、児童福祉分野、家庭福祉分野、高齢者福祉分野、障害者福祉分野の各福祉分野における心理社会的課題について概観し、障害児・者にも大きく関わる諸問題（虐待、学校不適応、不登校、引きこもり、就労支援、社会生活支援など）を中心に、それぞれの問題に対する心理社会的支援について議論する。

This advanced lecture outlines psychosocial problems in each welfare field such as child welfare, home welfare, elderly welfare, welfare for people with disabilities. Psychosocial support for each problem will be discussed, focusing on various problems (abuse, school maladjustment, school refusal, withdrawal, employment support, social life support, etc.) which are greatly related to children / adults with disabilities.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

①福祉分野における様々な心理社会的問題について理解する。

②それぞれの問題に対する適切な心理社会的支援について考える。

After taking this advanced lecture, you should be able to :

①Describe various psychosocial problems in the field of welfare.

②Provide appropriate psychosocial support for each problem.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション
2. 就学前の障害児における心理社会的問題と支援（家庭における生活）
3. 就学前の障害児における心理社会的問題と支援（養育施設等における生活）
4. 就学前の障害児における心理社会的問題と支援（地域社会における生活）
5. 学齢期（小学校段階）の障害児における心理社会的問題と支援（家庭における生活）
6. 学齢期（小学校段階）の障害児における心理社会的問題と支援（学校における生活）
7. 学齢期（小学校段階）の障害児における心理社会的問題と支援（地域社会における生活）
8. 学齢期（中学校以降）の障害児における心理社会的問題と支援（家庭における生活）
9. 学齢期（中学校以降）の障害児における心理社会的問題と支援（学校における生活）
10. 学齢期（中学校以降）の障害児における心理社会的問題と支援（地域社会における生活）
11. 障害児・者の就労支援における心理社会的問題①
12. 障害児・者の就労支援における心理社会的問題②
13. 障害児・者の地域社会生活における心理社会的問題と支援
14. 障害児・者の家族への支援
15. まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

平常点（70%）及びレポート（30%）により総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない。必要な資料は授業の際に配布する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

毎回の授業において指示する。

8. その他/In addition :

特になし。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/10 17:41:01

科目名/Subject : 発達障害学特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 水曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2019 川崎 聡大

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

言語・コミュニケーション障害の評価と支援

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

「読む」「書く」「聞く」「話す」といった言語モダリティーの発達やその心的プロセスについて学び、ディスレクシアをはじめとする当該領域の障害に対する教育的アセスメント方法についても併せて学びます

3. 学習の到達目標/Goal of study :

本講義の到達目標は次の通りである①「読み」「書き」「聞く」「話す」の心的プロセスについて代表的なモデルを基に習熟を深める②①を基に読み書き障害や特異的言語障害などの障害機序について知る③それぞれのアセスメント法について知る。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. イントロダクション*講義全般の内容について概説する。
2. Dyslexia と SLI とは① 定義と変遷
3. Dyslexia と SLI とは② 病理及び疫学
4. 「学業不振」と「学習障害」
5. 「読み」の認知プロセスとその障害
6. 「書き」の認知プロセスとその障害
7. 「聞く」「話す」の認知プロセスとその障害①
8. 「聞く」「話す」の認知プロセスとその障害②
9. 「読み」「書き」の認知神経心理学的評価（アセスメント）
10. 「聞く」「話す」の認知神経心理学的評価（アセスメント）
11. コミュニケーションの障害とその背景①
12. コミュニケーションの障害とその背景②
13. 学習障害と学習意欲、二次障害等について
14. 注意とその障害*学習の観点から
15. まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 40%, term-end examination 60%.

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

発達神経心理並びに心理検査法に関する項目を予習並びに復習しておくことが望ましい。

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/12 16:57:36

科目名/Subject : 発達臨床論特論

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2019 本郷 一夫

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

社会・情動の発達とその支援

/Development of Socio -emotional Ability and Developmental Support

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業では、生涯発達の観点を持ちながら、子どもの社会・情動発達に対する発達臨床的アプローチを学ぶことを目的とする。

/Study the developmental clinical approach to children's socio -emotional development and support method for them.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 社会・情動発達のプロセスについて学ぶ。 2. 社会・情動発達のアセスメントの方法について学ぶ。 3. 発達アセスメントに基づいた「支援」計画の立案と支援の進め方について学ぶ。

/1. Learn about the process of socio -emotional development. 2. Learn about the method of the assessment of socio -emotional development. 3. Learn about the planning of support based on development assessment.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. 社会・情動発達の基礎
2. 情動機能と関係性の発達
3. 気質、個性、パーソナリティの発達
4. 社会性の発達
5. 対人関係と集団の発達
6. アタッチメントの発達
7. 自己の発達
8. 社会・情動アセスメントの考え方
9. 自閉症スペクトラム障害における社会・情動支援
10. 多動・衝動性・攻撃性への社会・情動支援
11. 関係性の病理と支援
12. 事故・災害と心的外傷への支援
13. 異文化適応に対する支援
14. 支援計画の立案
15. 全体のまとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

試験 (70%) とミニ・レポート (30%) により評価する。

/The Examination(70%) and the submitted reports (30%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

近藤清美・尾崎康子編著『社会・情動の発達とその支援』(ミネルヴァ書房)

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

事前に教科書の読み、基本的な用語についての知識を持って、授業を受講すること。

/Read the textbook in advance

8. その他/In addition :

講義に加え、グループワーク、ディスカッションなどのアクティブラーニング的要素を取り入れた授業を展開する。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/05 12:05:38

科目名/Subject : 臨床心理学特論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 安保 英勇. 加藤 道代

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

臨床心理学概論

Introduction to clinical psychology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

臨床心理学および、専門家としての臨床心理士・公認心理師に求められる知識や社会的責任・役割などについて総合的に学習する。

This class comprehensively deal with clinical psychology and knowledge and social responsibility and role required of clinical psychologists / certified psychologists as experts.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 臨床心理学、心理臨床家の基本問題を総合的に捉える。
2. 心理臨床家としての社会的責任を自覚し適切な援助を行うために必要な倫理的姿勢や判断について考察する。

Participants will

- 1) be able to comprehensively grasp the basic problems of clinical psychology and psychologists.
- 2) understand social responsibility as a psychologist and deepen their consideration of the ethics necessary for proper assistance.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

前半（安保担当）では『公認心理師の職責』を元に、レポーターの報告とそこでの問いをめぐり討論を中心とする。

後半（加藤担当）では、心理臨床に携わる者の職業倫理をテーマとした模擬事例をめぐり、グループ討論と全体討論を中心として考察する。

1. オリエンテーション、公認心理師と臨床心理士

2-8 .心理専門家の職責

心理専門家の役割と法的義務・倫理

クライアント/患者らの安全の確保、情報の適切な取り扱い

保健医療分野、福祉分野における心理専門家の具体的な業務

教育分野、司法・犯罪分野における心理専門家の具体的な業務

産業・労働分野における心理専門家の具体的な業務、

支援者としての自己課題発見・解決能力、生涯学習

多職種連携・地域連携、心理専門家の今後の展開

9-15 心理臨床現場における倫理

専門性の自覚と限界の自覚

守秘義務

多重関係

治療契約

個人の尊重と自己決定権

公正と平等

インフォームド・コンセント

連携関係と職業倫理の共有 その他

In the first half, this class deals with basic matters related to clinical psychology (definition, history, qualification system, assignment and perspective).

In the second half, this class deals with clinical psychologist professional ethics.

1. orientation

2-8. Responsibilities of psychologist

9-15 .Ethics in clinical psychology

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表など授業への参加度(60%)、レポート(40%)による総合評価
Presentations an attitude in class:60%, report(40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

大塚義孝編 臨床心理学原論 誠信書房 2004
野島一彦編 公認心理師の職責 遠見書房 2019

このほか必要に応じて授業期間中に指示する

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

テキストの事前講読、発表資料作成等

Pre-subscription of text, preparation of presentation materials etc.

8. その他/In addition :

この授業は、臨床心理学コースの学生のために開設されている。

This class is set up for students in the clinical psychology course.

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/13 09:24:49

科目名/Subject : 臨床心理学特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2019 吉田 沙蘭

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

臨床心理学概論

Clinical Psychology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

グループワークなどを通して、臨床心理学の専門家として必要な知識と技能、社会的責任に関わることの統合的な見通しを得る。

The participants gain an integrated perspective on knowledge, skills and social responsibility necessary for clinical psychologist.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

臨床心理学の専門家として他職種と関わる現場で働く際に求められる、実践的な態度、知識および技能を身につけること。

The aim of this class is to acquire practical attitudes, knowledge and skills required when the participants work in a field as a clinical psychologist collaborating with other experts.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション

2. 心理士として社会・組織の中で働くということ

3-8. 心理援助の専門職として働くために

コミュニティにおける心理援助

グループを通しての心理援助

家族を通しての心理援助

人生の移行について理解する

ストレスとバーンアウト

9-13. 社会で働くのためのスキル

情報収集・情報提供

コーディネート・コンサルテーション

グループへの介入・ファシリテーション

研修企画・運営

アウトリーチ

14. 社会に出てからのスキルアップ

15. 研究者として社会・組織の中で働くということ

1. Introduction

2. The role of clinical psychologists in organization

3-8. How to work as a psychologist

9-13. The skills required to work as a psychologist in organization

14. Skill up after graduation

15. The role of researchers in organization

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表や討論を含む授業への参加度 (60%)、レポート (40%) による総合評価

Participation in group work (60%) , Term paper (40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

心理援助の専門職として働くために-臨床心理士・カウンセラー・PSW の実践テキスト (金剛出版)

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

1人あたり1回、事前に該当テーマについてまとめ、発表を担当する (#3~#8)

The participants required to be in charge of presentation once per person.

8. その他/In addition :

この授業は、臨床心理学コースの学生のために開講されている。

臨床心理学コースの学生は、必ず履修すること。

This class is provided for the students of clinical psychology course.

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/28 16:38:36

科目名/Subject : 臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践)

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2019 吉田 沙蘭. 安保 英勇. 上埜 高志. 加藤 道代. 前田 駿太

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

臨床心理面接法

Method of Clinical Counseling

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

多様な臨床心理学的理論に基づいた見立てや介入の方法について、実際の事例を用いて学び、体験的に理解することを目的とする。

In this class, the participants learn about the method of assessment and intervention based on various psychological theories, using actual cases. The aim of this class is to understand experientially how to apply psychological theories to the cases.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 多様な心理学的理論について、実際の事例と結びつけて理解すること

2. 理論に関する知識を活用し、事例の見立てや介入について考えられるようになること

3. ひとつの事例について複数の理論的背景を基にした解説を聞くことで、比較の視点を養うとともに、より柔軟かつ多角的な事例の捉え方をすることができるようになること

1. To understand various psychological theories through actual cases.

2. To consider the assessment and intervention using psychological theories.

3. To attain flexible and various perspective in dealing with clinical cases.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

毎回の授業では、学生が提示した事例を用いて、各担当教員が多様な理論的背景に基づいた解説を行う。

受講者は解説を受け、グループディスカッションおよび個人ワークを行い、各種理論および事例に対する理解を深める。

The faculty members will explain the cases presented by the participants based on various theoretical backgrounds.

The participants deepen their understanding of various theories and cases through group discussions and individual work.

5. 成績評価方法/Evaluation method :

期末レポートにより評価する

Term paper (100%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

事例に関する資料は授業週の月曜日から臨床心理相談室事務室内で閲覧できるので、事前に目を通しておくことが望ましい

Participants are expected to read the case report prior to the lecture.

8. その他/In addition :

この授業は臨床心理学コースの学生のために開講される

This class is provided for the students of clinical psychology course.

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/01 13:58:09

科目名/Subject : 臨床心理面接特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 6講時

担当教員/Instructor : 2019 吉田 沙蘭, 安保 英勇, 上埜 高志, 加藤 道代, 砂川 芽吹, 前田 駿太, 若島 孔文

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

臨床心理面接法

Method of Clinical Counseling

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

多様な臨床心理学的理論に基づいた見立てや介入の方法について、実際の事例を用いて学び、体験的に理解することを目的とする。

In this class, the participants learn about the method of assessment and intervention based on various psychological theories, using actual cases. The aim of this class is to understand experientially how to apply psychological theories to the cases.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 多様な心理学的理論について、実際の事例と結びつけて理解すること

2. 理論に関する知識を活用し、事例の見立てや介入について考えられるようになること

3. ひとつの事例について複数の理論的背景を基にした解説を聞くことで、比較の視点を養うとともに、より柔軟かつ多角的な事例の捉え方をすることができるようになること

1. To understand various psychological theories through actual cases.

2. To consider the assessment and intervention using psychological theories.

3. To attain flexible and various perspective in dealing with clinical cases.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

毎回の授業では、学生が提示した事例を用いて、各担当教員が多様な理論的背景に基づいた解説を行う。

受講者は解説を受け、グループディスカッションおよび個人ワークを行い、各種理論および事例に対する理解を深める。

The faculty members will explain the cases presented by the participants based on various theoretical backgrounds.

The participants deepen their understanding of various theories and cases through group discussions and individual work.

5. 成績評価方法/Evaluation method :

期末レポートにより評価する

Term paper (100%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

事例に関する資料は授業週の月曜日から臨床心理相談室事務室内で閲覧できるので、事前に目を通しておくことが望ましい

Participants are expected to read the case report prior to the lecture.

8. その他/In addition :

この授業は臨床心理学コースの学生のために開講される

This class is provided for the students of clinical psychology course.

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/01 13:55:03

科目名/Subject : 臨床心理研究法特論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2019 加藤 道代. 安保 英勇. 上埜 高志. 前田 駿太. 吉田 沙蘭

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

臨床心理学の研究手法 / Clinical Psychology Research

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

臨床心理学の研究手法の基礎およびその実践を学ぶ。

心理学研究の方法論、統計法などを踏まえ、調査研究、実験研究、事例研究などについて理解する。 / Learn the basics and practice of research methods of clinical psychology. Based on psychology research methodology, statistical method etc, understand survey research, experimental research, case study etc.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

臨床心理学の研究法を習得する。 / Mastering clinical psychology research methods

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

受講生は各自の研究テーマ、研究内容を計画し、発表・討論する。

1. オリエンテーション

2. ~ 14. 各受講生の研究に関する発表と討論、文献紹介

15. 総括 /

Students plan their own research, present and discuss them.

1. Orientation

2. ~14. Presentation and discussion on research, and literature introduction

15. Summary

5. 成績評価方法/Evaluation method :

研究発表およびそのレポート、授業の参加、発表時の討論への積極的参加により評価する。 / Evaluate by submitting activities and reports

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業中に適宜、提示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各自研究テーマに従い、論文を読むこと。また、研究を計画していくこと。

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/14 12:44:08

科目名/Subject : 臨床心理研究法特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 4講時

担当教員/Instructor : 2019 上埜 高志. 安保 英勇. 加藤 道代. 前田 駿太. 吉田 沙蘭

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

臨床心理学の研究手法 /
Clinical Psychology Research

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

臨床心理学の研究手法の基礎およびその実践を学ぶ。
心理学研究の方法論、統計法などを踏まえ、調査研究、実験研究、事例研究などについて理解する。 /
Learn the basics and practice of research methods of clinical psychology. Based on psychology research methodology, statistical method etc, understand survey research, experimental research, case study etc.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

臨床心理学の研究法を習得する。 / Mastering clinical psychology research methods

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

受講生は各自の研究テーマ、研究内容を計画し、発表・討論する。

1. オリエンテーション
2. ~ 14. 各受講生の研究に関する発表と討論、文献紹介
15. 総括 /

Students plan their own research, present and discuss them.

1. Orientation
2. ~14. Presentation and discussion on research, and literature introduction
15. Summary

5. 成績評価方法/Evaluation method :

研究発表およびそのレポート、授業の参加、発表時の討論への積極的参加により評価する。 /
Evaluate by submitting activities and reports

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業中に適宜、提示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. その他/In addition :

各自研究テーマに従い、論文を読むこと。また、研究を計画していくこと。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/11 15:07:43

科目名/Subject : 投影法特論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 池田 忠義

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

描画法・SCT 演習

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

心理査定的重要手段である投影法のうち、描画法およびSCT（文章完成法）を取り上げ、その特徴・実施方法・解釈の基礎について実習を通して学ぶ。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

描画法およびSCTについて、その理論的背景・特徴を把握すると同時に、実施・解釈の方法に関する基礎的な知識を身につける。また、自身が検査者・被験者の両方を体験し、自己理解を深める。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回：投影法の意義と種類
- 第2回：描画法およびSCTの理論的背景・特徴
- 第3回：描画法の実施法・被験者体験
- 第4回：描画法の事例検討(1)内容分析
- 第5回：描画法の事例検討(2)形式分析
- 第6回：描画法の事例検討(3)総合所見
- 第7回：事例と総合所見の比較・検討
- 第8回：描画法による複数事例間の比較・検討
- 第9回：SCTの実施法・被験者体験
- 第10回：SCTの事例検討(1)内容分析
- 第11回：SCTの事例検討(2)形式分析
- 第12回：SCTの事例検討(3)総合所見
- 第13回：事例と総合所見の比較・検討
- 第14回：SCTによる複数事例間の比較・検討
- 第15回：心理査定における描画法およびSCTの活用

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への積極的参加および発表（70%）、レポート（30%）による。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書は、特に指定しない。

参考書：樹木画テスト 高橋雅春・高橋依子 北大路書房

その他は、授業中に適宜紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

事例検討に際しては、事前に配付する資料を予習した上で授業に臨むことが求められる。

8. その他/In addition :

この授業は、臨床心理研究コース所属の学生のために開講される。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/18 20:27:53

科目名/Subject : 投影法特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 池田 忠義

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

TAT 演習

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

心理査定的重要手段である投影法のうち、TAT（主題統覚検査）を取り上げ、その特徴・実施方法・解釈の基礎について実習を通して学ぶ。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

TATについて、その理論的背景・特徴を把握すると同時に、実施・解釈の方法に関する基礎的な知識を身につける。また、自身が検査者・被験者の両方を体験し、自己理解を深める。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回：TATの理論的背景・特徴

第2回：TATの実施法，検査者・被験者体験

第3回：TATの各図版の特徴と解釈手続き

第4回：事例1についての検討(1)内容分析

第5回：事例1についての検討(2)形式分析

第6回：事例1についての検討(3)総合所見作成

第7回：事例1の概要を踏まえての総合所見の検討

第8回：事例2についての検討(1)内容分析

第9回：事例2についての検討(2)形式分析

第10回：事例2についての検討(3)総合所見作成

第11回：事例2の概要を踏まえての総合所見の検討

第12回：事例3についての検討(1)内容分析・形式分析

第13回：事例3についての検討(2)総合所見と事例理解

第14回：TATにおける複数事例間の比較・検討

第15回：心理査定におけるTATの活用

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への積極的参加および発表（70%）、レポート（30%）による。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書は特に指定しない。

参考書：TATアナリシスー生きた人格診断 坪内順子 垣内出版

その他は、授業中に適宜紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

参加者相互にTATを実施すること、事例検討に際しては、事前に配付する資料を予習した上で授業に臨むことが求められる。

8. その他/In addition :

この授業は、臨床心理研究コース所属の学生のために開講される。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/18 20:29:01

科目名/Subject : 家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2019 若島 孔文

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 / Psychology of Families, Groups, Organizations and Communities

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

システム理論の視点から家族、集団、組織、地域社会への心理的援助について、その歴史と理論について考え、システムの動きを活用する方法、変化を導入するための実際について検討し、理解していく。 / In this lecture, we describe families, groups, organizations and communities from the viewpoint of system theory. I will explain the understanding and psychological aid of families, groups, organizations, and local communities based on their history and theory. Participants will consider how to utilize the movement of the system and how to promote change.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

①臨床心理学における近年重要な発展領域である家族心理学の知識を得ること。

②それらの知識を集団、組織、地域社会の問題に適用し、問題解決の見通し、見立てを得られるようになること。 / ①To understand Family Psychology and Clinical Social Psychology; ②To understand how to solve problems of family, group, organization, community.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. ～ 4. 家族面接の理解 (1) ～ (4)
5. コミュニケーション理論
6. システム理論
7. ～ 10. ワークによる家族面接 (1) ～ (4)
11. ～ 12. 緊急時支援と組織・地域社会へのアプローチ (1) ～ (2)
13. ～ 15. 東北大学における家族研究と支援モデルの展開 (1) ～ (3) /

1. ～ 4. To understand Family Session (1) ～ (4)
5. Pragmatics of Human Communication
6. System theory
7. ～ 10. Practice Family Session (1) ～ (4)
11. ～ 12. Emergency support and approach to organizations and communities
13. ～ 15. Development of family research and support model at Tohoku University

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業内における活動とレポート (複数回)。 / Evaluate by submitting activities and some reports

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

野島一彦・岡村達也 2018 第3巻『臨床心理学概論』 (遠見書房)

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

予習として、代表的な個人療法 (精神分析、来談者中心療法など) に関して、読書し、理解しておくこと。復習及び課題として、授業時に配布した資料について理解を深めておくこと。

8. その他/In addition :

- ・臨床心理の実習に関連することも多いため、早い時期での履修を期待する。
- ・臨床心理学コース以外の学生も履修・聴講可能である。
- ・毎年開講の予定である。

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/13 12:37:50

科目名/Subject : 犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 1 講時. 前期 金曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2019 菅藤 健一

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

犯罪・非行心理学特論

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

少年保護法制、犯罪・非行の現況や犯罪・非行少年の心理的特徴及びその支援などについての理解を深め、犯罪・非行臨床のみならず、その他の臨床現場等において直面する問題に対応できるだけの心理学的知識を獲得する。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・少年保護法制に関する基本的事項を踏まえて、少年保護の現状について説明できる。
- ・犯罪・非行に至る少年の心理的特徴と支援の方法を説明できる。
- ・犯罪・非行臨床の現況と将来について、様々な角度から考察し、説明できる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1 オリエンテーション
- 2 少年保護法制の概説と関係機関の説明
- 3 少年事件の歴史と現況
- 4 架空事例による非行発生機序と処遇について～薬物犯
- 5 架空事例による非行発生機序と処遇について～凶悪犯
- 6 架空事例による非行発生機序と処遇について～財産犯
- 7 架空事例による非行発生機序と処遇について～女子非行
- 8 架空事例による非行発生機序と処遇について～発達障害を有する少年
- 9 少年鑑別所における鑑別システム
- 10 少年院における矯正教育
- 11 心理査定
- 12 非行少年の人格上の話題
- 13 矯正施設特有の心理
- 14 被害者対応, 裁判員制度、医療観察法他
- 15 授業の振り返り

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業時の発言内容、毎授業後の小レポートで30%、期末に実施する試験またはレポート課題で70%の割合で評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

日本犯罪心理学会編 犯罪心理学事典 丸善出版
 法務省矯正研修所編 矯正心理学 矯正協会
 生島浩・村松励編 犯罪心理臨床 金剛出版
 森 丈弓 犯罪心理学 ナカニシヤ出版

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

オリエンテーション時に説明します。

8. その他/In addition :

現場経験を交えながら、犯罪・非行臨床について解説します。討議、実習なども行いますので、より主体的に参加することを期待しています。

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/20 14:31:01

科目名/Subject : 精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 1 講時

担当教員/Instructor : 2019 上埜 高志, 藤川 真由, 前田 駿太

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

精神医学特論 Advanced Lecture on Psychiatry

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

精神医学および精神保健福祉に関する臨床的・実践的な事項について学ぶ。代表的な精神疾患等について、受講者がケーススタディとして発表し討論する。

The aim of this course is to help students acquire an understanding of clinical psychiatry and mental health.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

精神医学・精神保健および代表的な精神疾患等を理解する。

The goal of this course is to understand clinical psychiatry, mental health, and psychiatric disorders.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション Introduction
2. 精神科医療 Psychiatric Care
3. 精神保健福祉 Mental Health and Welfare
4. 精神科診断－精神症状、診断基準、臨床検査 Diagnosis of Clinical Psychiatry
5. 精神科治療－精神療法、社会療法、身体療法 Treatment of Clinical Psychiatry
6. ケーススタディ①－統合失調症 Schizophrenia
7. ケーススタディ②－うつ病 Depression
8. ケーススタディ③－神経症 Neurosis
9. ケーススタディ④－発達障害 Development Disorders
10. ケーススタディ⑤－自殺 Suicide
11. ケーススタディ⑥－災害時のメンタルヘルス Mental Health in Disaster
12. ケーススタディ⑦－最近の事件 Recent Cases
13. 精神鑑定 Psychiatric Evaluation
14. スピーカーズビューロー (当事者 [統合失調症・うつ病] による体験発表)
Speaker's Bureau (Schizophrenia, Depression)
15. 総括、筆記試験 (英語を含む) Examination

5. 成績評価方法/Evaluation method :

筆記試験 (40%)、発表・討論 (40%) および平常点 (20%) による総合的な評価。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

小此木啓吾、深津千賀子、大野 裕 (編) : 改訂 心の臨床家のための精神医学ハンドブック. 創元社、2004.
山下 格 : 精神医学ハンドブック、第7版. 日本評論社、2010.
沼 初枝 : 心理のための精神医学概論. ナカニシヤ出版、2014.
その他、授業中に紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

予習・復習については、その都度、指示する。

8. その他/In addition :

学部レベルの精神医学あるいは精神保健福祉を履修していること (本学部では「臨床心理学講義Ⅱ」が該当)。

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/18 14:59:07

科目名/Subject : 学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)

曜日・講時/Day/Period : 後期 水曜日 3講時

担当教員/Instructor : 2019 小島 奈々恵

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

学校臨床心理学特論

School Clinical Psychology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育分野における問題及びその背景, 心理社会的課題及び必要な支援について理解を深める。

Students will deepen their understanding about problems and its background, and psychosocial problems and the support needed in the field of education.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

教育分野における問題と支援について理解し, 専門家としての在り方について考えを深める。

Students will deepen their understanding about problems and support in the field of education, and the meaning of becoming a professional clinical psychologist.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. 教育分野における基本

2. 教育分野における問題と支援

3. 教育分野における実践

・問題: 不登校, いじめ, 非行・暴力行為

・発達と教育

・学習と教育

・心理学的アセスメント

・心理学的援助: SC, 連携, 情報共有

・特別支援教育

4. まとめ

1. Basics in the field of education

2. Problems and support in the field of education

3. Practice in the field of education

・Problem: school absence, bullying, misbehavior, violence

・Development and education

・Learning and education

・Psychological assessment

・Psychological support: SC, collaboration, sharing information

・Special needs education

4. Summary

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への積極的参加および発表 (60%), レポート (40%)

Positive participation and presentation (60%), Report (40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない。

Not specifically specified.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

発表準備と、ディスカッションに積極的参加できるよう準備すること。

Preparation for one's presentation, and preparation for the discussions so that one may participate positively.

8. その他/In addition :

臨床心理学コースの学生のための授業科目である。

This class is for students in the Clinical Psychology Course.

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/20 08:53:12

科目名/Subject : 産業心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 榊原 佐和子

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

産業心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

昨今の社会情勢の中、職場における心理職の果たす役割は大きくなってきている。産業・労働領域で働く心理職は、産業・労働領域に関する法令、厚生労働省の指針、働く人のストレスに関する知見等、さまざまな知識に基づいて活動する。本授業では、そういった産業・労働領域で働く心理職として知っておくべき基本的知識を紹介し、それらに基づき討論を行い、産業・労働領域で働く心理職として身に付けておくべき知識・態度の習得を目指す。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・産業・労働領域で働く心理職として身に付けておくべき知識・態度を習得する。
- ・働く人のメンタルヘルス対策について知識を深める。
- ・自らのキャリアについて考えることができるようになる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション、産業・労働分野で働く心理職
2. 産業・労働分野の法令、労働災害防止計画
3. 精神疾患の労災認定、過労死、ワークライフバランス
4. 労働者の心の健康に関する指針
5. 働く人のストレス、自殺対策基本法、
6. 働く人のストレス、職場におけるハラスメント
7. 働く人のストレス、ストレスチェック制度、ストレスマネジメント
8. 職場復帰支援
9. 産業・労働分野の社会資源
10. キャリア支援
11. キャリア支援
12. ワークモチベーション、ワークエンゲージメント
13. 障害のある人の就労、障害者雇用促進法
14. 産業・労働分野で働く心理職の実際
15. まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加度(50%)、レポート(50%)を総合して評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書：特に指定しない。

参考書：馬場昌雄・馬場房子・岡村一成(監修)(2017). 産業・組織心理学 改訂版 白桃書房

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各授業時に適宜指示する。

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/12 15:28:58

科目名/Subject : 心の健康教育に関する理論と実践

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2019 安保 英勇

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

心の健康教育に関する理論と実践

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

心の健康教育に関する理論を学び、実践（ロールプレイおよび高等学校）を行う。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

心の健康教育に関する理論を説明できる。

集団の特性に合った心の健康教育を立案・実践できる

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション

2. 心の健康教育の理論と実践例の紹介(1)

3. 心の健康教育の理論と実践例の紹介(2)

4. -15. 受講生（グループ）による心の健康教育の理論と実践例の紹介

（このうち 1-2 回高等学校に出向き、実施する）

5. 成績評価方法/Evaluation method :

プレゼンテーション（100%）

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教室内で指示する

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

プレゼンテーション作成

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/13 10:24:23

科目名/Subject : コミュニティ心理学特論

曜日・講時/Day/Period : 前期 水曜日 3講時

担当教員/Instructor : 2019 小島 奈々恵

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

コミュニティ心理学特論

Community Psychology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

コミュニティ心理学の基礎概念について学び、基本姿勢や支援方法、支援対象について理解を深める。

Students will deepen their understanding about the basics of community psychology, basic behaviors, support, and who to support.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

コミュニティ心理学の基礎概念を理解し、専門家としての在り方について考えを深める。

Students will deepen their understanding about the basics of community psychology, and the meaning of becoming a professional clinical psychologist.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. コミュニティ心理学とは

2. コミュニティ心理学の基本

3. コミュニティ心理学実践

- ・地域における支援：子育て支援，児童虐待，DV，母子支援
- ・教育における支援：いじめ，不登校，特別支援，学生相談
- ・医療における支援：自助グループ，HIV カウンセリング，緩和ケア
- ・多文化コミュニティにおける支援：海外居住とその家族，留学生支援

4. まとめ

1. What is community psychology

2. Basics of community psychology

3. Practice of community psychology

- ・Support in the community: parental support, child abuse, DV
- ・Support in education: bullying, school absence, special needs, school counseling
- ・Medical support: self-help, HIV counseling, palliative care
- ・Multicultural support: emigrating families, international student support

4. Summary

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への積極的参加および発表 (60%)，レポート (40%)

Postive participation and presentation (60%)，report (40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない。

Not specifically specified.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

発表準備と、ディスカッションに積極的に参加するための準備。

Preparation for one's presentation, and preparation for the discussions so that one may participate positively.

8. その他/In addition :

臨床心理学コースの学生のための授業科目である。

This class is for students in the Clinical Psychology Course.

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/20 08:54:00

科目名/Subject : 心理療法特論

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2019 中島 正雄

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

学生相談における心理療法的アプローチ

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

大学における学生相談活動では、特定の心理療法アプローチに固執することなく、来談者に合わせた柔軟な対応が求められる。本授業では、学生相談における多様な心理療法的アプローチの特徴や留意点について事例をもとに学習する。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

学生相談における多様な心理療法的アプローチの特徴および相違点について理解する。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション

2. 学生相談について

3. 学生相談における多様な心理療法的アプローチ:

・来談者中心療法

・コミュニティアプローチ

・認知行動療法表現療法

・箱庭療法

・リラクゼーション法

・精神分析的心理療法

・音楽療法、表現療法、コンサルテーション、他職種との連携

4. まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

ディスカッションへの参加度 (20%)、発表 (30%)、期末レポート (50%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業内で適宜紹介する

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

学生相談に関する事例論文 1 本について、心理療法的アプローチに触れながら、1 人 1 回発表する。事例論文は事前に用意するが、自分で探してきて良い。発表後は全員で事例検討を行うが、その事例検討内容も含めてレポートを書いて提出することを課題とする。

8. その他/In addition :

この授業は臨床心理学コース所属の学生のために開講されている。

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/14 16:59:30

科目名/Subject : 人間形成論研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2019 李 仁子

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

在日外国人とトランスナショナリズム

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

現代日本には多様な外国人が暮らしている。国籍も異なれば、日本に入国した時期も異なる。在留資格も、仕事も、家族構成も、母国との関係もさまざまである。在日コリアン4世もいれば、いくつもの国を経て数年前に日本にやってきたという人もいる。このように人によって国境の越え方や跨ぎ方は多様だが、確実に言えることはトランスナショナルな動きや現象が日本においても増大しつつあるということである。この演習では、そうした趨勢の中で在日外国人がどのような生活戦略（経済的・社会的・文化的）を立てているのか、またその上で自分たちの子どもに対してどのような教育戦略を編み出し実践に移しているのかを探り、彼らのトランスナショナルな生活世界の一端を理解することを目指す

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・ グローバル時代における大きな潮流となりつつあるトランスナショナルな現象や生き方に関する理解を深める。
- ・ トランスナショナルな教育戦略の現状をおさえることで、現代日本の教育を再検討するための知見と視座を得る。
- ・ 在日外国人のトランスナショナルな生活世界を知ることを通じて、自らが自明のものとして生きている生活世界や文化を相対化する文化人類学的な眼差しを身につける。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1) オリエンテーション
- 2) トランスナショナルとは何か
- 3) グローバル時代のトランスナショナル現象①
- 4) グローバル時代のトランスナショナル現象②
- 5) 過去におけるさまざまな生活戦略
- 6) 差別とヘイトスピーチ
- 7) 現代におけるさまざまな生活戦略①
- 8) マイノリティとグローバル・スタンダード
- 9) 現代におけるさまざまな生活戦略②
- 10) 血縁、IT、トランスナショナル・ネットワーク
- 11) 現代におけるさまざまな生活戦略③
- 12) 子どもの教育戦略①（教育の場）
- 13) 子どもの教育戦略②（教育の質）
- 14) 子どもの教育戦略③（教育の目標）
- 15) 日本におけるトランスナショナリズムのいま

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業での発表やディスカッション（50%）、レポート（50%）

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業の初回に紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**8. その他/In addition :**

授業においては積極的に発言し、自発的に発表するような姿勢が求められる。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/01 15:49:12

科目名/Subject : 人間形成論研究演習 II

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2019 笹田 博通

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

人間形成の現象学

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

「現象学的教育学」(die phänomenologische Pädagogik)とその基盤たる現象学に関する基本的諸文献を翻訳(原文参照)で読み、その内容に検討を加えることで、人間形成論(教育哲学)の原理的かつ方法的な基礎づけを試みるとともに、教育(人間形成)という事象を現象学的に洞察・理解する態度を涵養する。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

教育(人間形成)という事象を現象学的に捉えていくことができる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回:オリエンテーション

第2回:現象学の成立過程～ロムバッハ『哲学の現在』(第12章―第15章)～

第3回:生活世界の現象学(1)～フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』(第1節―第7節)～

第4回:生活世界の現象学(2)～フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』(第34節―第39節)～

第5回:世界内存在の問題(1)～ハイデガー『存在と時間』(第12節―第13節)～

第6回:世界内存在の問題(2)～ハイデガー『存在と時間』(第14節―第17節)～

第7回:世界内存在の問題(3)～ハイデガー『存在と時間』(第18節、第40節―第41節)～

第8回:世界開放性の問題(1)～シェーラー『宇宙における人間の地位』(邦訳11頁―45頁)～

第9回:世界開放性の問題(2)～シェーラー『宇宙における人間の地位』(邦訳46頁―85頁)～

第10回:世界開放性の問題(3)～シェーラー『宇宙における人間の地位』(邦訳86頁―110頁)～

第11回:人間科学と現象学(1)～メルロ＝ポンティ「人間の科学と現象学」(序論―第2章第2節)～

第12回:人間科学と現象学(2)～メルロ＝ポンティ「人間の科学と現象学」(第2章第3節―結論)～

第13回:教育科学と現象学(1)～ランゲフェルト「教育科学の方法論大要」(第1部第1章―第4章)～

第14回:教育科学と現象学(2)～ランゲフェルト「教育科学の方法論大要」(第1部第5章―第7章)～

第15回:教育科学と現象学(3)～ランゲフェルト「教育科学の方法論大要」(第1部第8章―第9章)～

5. 成績評価方法/Evaluation method :

担当箇所を読解(50%)および討論への参加(50%)によって評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書:フッサール 細谷恒夫・木田元訳『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』中公文庫、1995 ハイデッガー 細谷貞雄訳『存在と時間』(上・下)ちくま学芸文庫、1994 シェーラー 亀井裕・山本達訳『宇宙における人間の地位』(シェーラー著作集13)白水社、1977 メルロ＝ポンティ 滝浦静雄・木田元訳『眼と精神』白水社、1966 ロムバッハ 篠憲二訳『哲学の現在』国文社、1984 ランゲフェルト/ダンナー 山崎高哉監訳『意味への教育―学的方法論と人間学的基礎』玉川大学出版部、1989

参考書:木田 元『現象学』岩波新書、1970 和田修二『子どもの人間学』(教育学大全集22)第一法規、1982 篠 憲二『現象学の系譜』(Phaenomenologica2)世界書院、1996

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

次回の授業で扱う箇所全体に関する予習。

8. その他/In addition :

使用言語:日本語

メールアドレス:hiromichi.sasada.d2@tohoku.ac.jp

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/24 15:27:00

科目名/Subject : 人間形成史研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2019 八畝 友広

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

教育社会史演習

Seminar on the social history of education

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

日本教育史に関する文献を講読し、日本教育史に関わる事象について、広く社会的な文脈に位置づけて考察し、自らの研究を深めていくことができる能力を育成する。

This course has a seminar on the history of education in Japan. In this seminar students will have an opportunity to read the textbook on the history of education in Japan and to consider the history of education in Japan in the social context.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

教育社会史に関わる文献講読を通じて、日本の教育史を広く社会的な文脈で理解し、また各自の研究テーマとの関わりを追究する。本年は、山川出版社の新体系日本史シリーズ第 16 巻『教育社会史』を講読する。教育史学のみならず、歴史学や周辺の社会科学諸領域における研究成果にも留意しながら、教育史の研究課題について探究するものである。

The purpose of this course is to help students master the history of education in Japan and consider it in the social context by reading the textbook, "Social History of Education", edited by Masashi Tujimoto and Kouji Okita.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第 1 回 : 演習の全体計画・文献講読分担

第 2 回 : 教育社会史という視点について

第 3 回 : 大陸文化の受容から日本文化の形成へ

第 4 回 : 中世社会における教育の多面性

第 5 回 : 文字社会の成立と出版メディア

第 6 回 : 近世社会における教育の多様性

第 7 回 : 近世民衆の人間形成と文化

第 8 回 : 幕府の教育政策と民衆

第 9 回 : 立身出世主義と近代教育

第 10 回 : 移民教育と異文化理解

第 11 回 : 植民地支配と教育

第 12 回 : 近世日本における教育社会史の課題

第 13 回 : 近代日本における教育社会史の課題

第 14 回 : 戦後日本における教育社会史の課題

第 15 回 : 教育社会史に関するカンファレンス

1. Decision of schedule and assignment

2. Viewpoint of the social history of education

3. Introducing the Chinese culture and forming the Japanese culture

4. Diversity of education in medieval Japan

5. Formation of the literal culture and the publication media in Japan

6. Diversity of education in Tokugawa Japan

7. Human formation and culture of people in Tokugawa Japan

8. Educational policy of Tokugawa Government and people

9. Success in life and modern educational system in Japan

10. Education for immigration and understanding of different culture

11. Colonization and education

12. Issues of social history of education in Tokugawa Japan

13. Issues of social history of education in modern Japan

14. Issues of social history of education after the second world war in Japan

15. Conference on the social history of education

5. 成績評価方法/Evaluation method :

レポート課題 (20%)、演習における発表 (80%)

Report:20%

Presentation on conference:80%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書：辻本雅史・沖田行司編『新体系日本史 16 教育社会史』（山川出版社 2002年）

参考書：授業時間中適宜指示する

Textbook: Masashi Tsujimoto and Kouji Okita, 2002, "Social History of Education"

Yamakawa Shuppan. 辻本雅史・沖田行司編『新体系日本史 16 教育社会史』（山川出版社 2002年）

Reference books will be introduced in the course.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

教科書の講読、演習における発表の準備、レポート作成の準備等が必要となる。

Students need to read textbook and to prepare for report and presentation on conference.

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/06 09:45:32

科目名/Subject : 人間形成史研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 2講時

担当教員/Instructor : 2019 池尾 恭一

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

カント教育学講読/Reading Kant's Original Texts

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

18世紀ドイツの哲学者カントの文献(英語訳を併用)を精読し、その内容を検討することにより、哲学文献の読解を通して自律的に思考する態度を身につける。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

カントの文献を精確に読み解き、そこにあらわれた思考を追思考しながら、受講者自らが哲学的に思考することができる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1.~2 カントの「教育学」概観 3~4.『実用的見地における人間学』第二部「人間学的な性格論」E人種の性格 講読 5~6 『教育学』序論 講読 7~14.『教育学』「自然的教育」論 講読 15 カントの「教育学」総括

5. 成績評価方法/Evaluation method :

テキストの読解とそれに基づくディスカッションへの積極的な参加・取り組みを総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

Kant, Anthropologie in pragmatischer Hinsicht, 1798.

(Anthropology from a Pragmatic Point of View)

Immanuel Kant über Pädagogik, herausgegeben von Friedrich Theodor Rink, 1803.

(Kant on Education)

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. その他/In addition :

前年度からの継続授業であるが、新規の受講者に対しては十分配慮する。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/07 14:20:03

科目名/Subject : 社会教育学研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2019 石井山 竜平

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

地域生涯学習計画論の再検討

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

今日では、将来の人口減予測を受け、公共施設や事業の大幅な縮減計画が企図される一方で、地域には、①子どもの放課後の受け皿の拡充、②学校を地域が支援する関係づくり、③高齢世代の健康と命を守り合う地域包括ケアなど、従来行政が担っていた領域や、新たに発生した問題の解決を、地域の共助・互助力で担われることが期待され、そうした文脈から、社会教育には新たな期待が高まるなか、その機能が他部局の計画に絡め取られる傾向も現れている。

一方で注目すべきは、近年では、とりわけ少子高齢化や人口減少などの課題が厳しい地域において、行政計画を越えたところで、地域主導で地域の産業の担い手やコミュニティの担い手の育成を目指した計画が生み出され、地域の力で実動しているケースが目立ち始めていることである。

こうした、地域主導の人材育成計画の新たな展開を掴みながら、従来の社会教育計画論で蓄積されてきたもののなかで、今日に継承すべき内容とは何かを吟味する。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・地方創生と社会教育をめぐる今日の状況と、地域生涯学習計画論の蓄積を理解する。
- ・共同調査を行い、共著のレポートをまとめる。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1 イントロダクション
- 2 地方創生と社会教育をめぐる先行研究の検証 (1)
- 3 地方創生と社会教育をめぐる先行研究の検証 (2)
- 4 地域生涯学習計画論の検討 (1)
- 5 地域生涯学習計画論の検討 (2)
- 6 地域生涯学習計画論の検討 (3)
- 7 地域生涯学習計画論の検討 (4)
- 8 地域生涯学習計画論の検討 (5)
- 9 地域生涯学習計画論の検討 (6)
- 10 生涯学習計画化をめぐる調査 (1)
- 12 生涯学習計画化をめぐる調査 (2)
- 13 生涯学習計画化をめぐる調査 (3)
- 14 生涯学習計画化をめぐる調査 (4)
- 15 生涯学習計画化をめぐる調査 (5)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業および調査活動への参加、報告書の執筆内容に鑑みつつ、総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業中に指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

正規の授業日程以外で、週末と、冬季休業中を活用した調査実習を予定している。

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/12 12:13:28

科目名/Subject : スポーツ文化論研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 甲斐 健人

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

スポーツ・体育社会学研究の構想と展開

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業では、関連領域を含めたスポーツ社会学、体育社会学領域の文献を取り上げ、検討する。あわせて、各自の研究課題にそって、事例研究および学術論文の作成を進めていくための研究発表と討論を行う。

Those who take this advanced seminar will advance their own research through introduction of literature in relevant areas and presentation of their own research, and discussion based on them.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

研究対象についてのアプローチの方法や分析視点をみにつけ、学術論文作成の技法を学ぶ。

After taking this advanced seminar, you should be able to :

①Prepare the thesis and research presentation at academic societies.

②Describe theories and the research trends on your own research themes.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

各自の研究課題にそって、研究の構想や展開、実証的研究の進め方等について報告し、参加者で検討する。

問題意識を作る

研究課題の設定

研究計画の策定

実証的研究の方法

論文作成

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席 (50%) と報告内容 (50%) によって評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

適宜指示する

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

適宜指示する

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/08 17:27:38

科目名/Subject : スポーツ文化論研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 2講時

担当教員/Instructor : 2019 市毛 哲夫

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

スポーツ・イベントと社会

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

スポーツ・イベントのグローバル化と巨大化はわれわれの社会や生活にどのような影響を及ぼしているのかについて検討し、その光と影について討論し理解を深める。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

スポーツの産業化や商業化がそれを享受する人々や社会にどのような影響を及ぼしているかを理解する。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション

2. Sport and International Political Economy

3. Playing an Aerial Game

4. recapturing Olympic Mystique

5. Global Struggles, Local Impacts

6. The Media Sport Cultural Complex

7. Paradoxes of Material Culture

8. Selling Places

9. a public Policy, port Investments and Regional Development Initiatives in Japan

10. The 'Green' Games Sydney 2000 Played

11. The Political Economy of Sport in the Twenty-first Century

12. ~14. ディスカッション

15. まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席 50%、レポートの作成・発表等を総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

The Political Economy of Sport[2005] John Nauright & Kimberly S. Schmmel eds. Plagrave Macmillan.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

担当箇所の日本語訳やレジュメの作成、またディスカッション時の準備等授業時間議の時間が必要となる。

8. その他/In addition :

特になし。第1回目の授業時に細かな点について話すので必ず出席すること。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/18 17:23:33

科目名/Subject : 人間形成学合同演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 1 講時

担当教員/Instructor : 2019 李 仁子, 池尾 恭一, 笹田 博通, 八鍬 友広

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

人間形成学の研究方法

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

人間形成の本質およびその動的な展開過程についての洞察力を育成することを目的として、哲学・歴史学・文化人類学などの方法により、人間形成研究の事例に関する合同の演習をおこなう。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

教育および人間形成を総合的に理解することができる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1回 「ガイダンス」

第2回～4回 : 教育哲学の研究手法～教育現実の事例に即して～ (1) (担当: 笹田)

第5回～7回 : 教育思想史の研究手法～教育現実の事例に即して～ (1) (担当: 池尾)

第8回～10回 : 日本教育史の研究手法～教育現実の事例に即して～ (1) (担当: 八鍬)

第11回～14回 : 教育人類学の研究手法～教育現実の事例に即して～ (1) (担当: 李)

第15回 : 全体討議、まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

「討論への参加 (50%) およびレポートの内容 (50%) によって評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

初回の授業で提示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/14 07:53:00

科目名/Subject : 人間形成学合同演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 1 講時

担当教員/Instructor : 2019 李 仁子, 池尾 恭一, 笹田 博通, 八湊 友広

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

人間形成学の研究方法Ⅱ

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

人間形成の本質およびその動的な展開過程についての洞察力を育成することを目的として、哲学、歴史学、文化人類学などの方法により、個別の研究課題に即した人間形成に関する合同の演習をおこなう。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

教育および人間形成を総合的に理解することができる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1回 「ガイダンス」

第2回～4回 : 教育哲学の研究手法～個別の課題に即して～(1)(担当: 笹田)

第5回～7回 : 教育思想史の研究手法～個別の課題に即して～(1)(担当: 池尾)

第8回～10回 : 日本教育史の研究手法～個別の課題に即して～(1)(担当: 八湊)

第11回～14回 : 教育人類学の研究手法～個別の課題に即して～(1)(担当: 李)

第15回 : 全体討議、まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

「討論への参加(50%)およびレポートの内容(50%)によって評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

初回の授業で提示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/14 07:53:49

科目名/Subject : 生涯学習論合同演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2019 石井山 竜平, 市毛 哲夫, 甲斐 健人

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

生涯学習研究の新動向

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

生涯学習に関係する注目すべき研究成果を取り上げ、教員および大学院生全員での検討を行う。また、関連学会の年報、紀要への投稿予定者や、学会発表予定者の事前検討会も合わせて行う。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

教員も院生も共に学び合う場であるので、到達目標は特に設定しない。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- ・日本社会教育学会等の紀要論文、及び年報論文などの検討
- ・学会発表、論文投稿の事前検討

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席及びレポート、討議への参加などを総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

受講生で話し合いながら決定する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. その他/In addition :

担当教員を指導教員とする院生は、すでに受講済みの学生であっても、原則参加すること。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/12 12:08:48

科目名/Subject : 生涯学習論合同演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 5講時

担当教員/Instructor : 2019 石井山 竜平, 市毛 哲夫, 甲斐 健人

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

生涯学習研究の新動向

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

生涯学習に関係する注目すべき研究成果を取り上げ、教員および大学院生全員での検討を行う。また、関連学会の年報、紀要への投稿予定者や、学会発表予定者の事前検討会も合わせて行う。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

教員も院生も共に学び合う場であるので、到達目標は特に設定しない。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- ・日本社会教育学会等の紀要論文、及び年報論文などの検討
- ・学会発表、論文投稿の事前検討

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席及びレポート、討議への参加などを総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

受講生で話し合いながら決定する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. その他/In addition :

担当教員を指導教員とする院生は、すでに受講済みの学生であっても、原則参加すること。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/12 12:09:41

科目名/Subject : 人間形成論実習

曜日・講時/Day/Period : 通年 火曜日 1 講時

担当教員/Instructor : 2019 李 仁子

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

文化人類学的フィールドワークの実践

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

文化人類学が長年培ってきたフィールドワークによる調査法を学び、各自の調査研究にどのように活かせばよいかを模索する。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

各自のテーマに沿ってフィールドワークの具体的な計画を立て、実際に現場に入って調査を実践すると同時に、調査研究の成果発表を通じて調査をめぐる問題点や課題に関して互いに研鑽する。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

授業では、フィールドワークに関する基本文献をベースに、フィールドワーク経験者の体験談を交えながら、現地調査の全体像や倫理的問題、参与観察や聞き取りの具体的な方法、フィールドノートのとり方、調査データの整理と分析の進め方、考察のまとめ方等を演習形式で学んでいく。また、各自の調査研究に関する計画発表や成果発表を随時行い、授業参加者全員によるディスカッションを通してフィールドワークに関する実践的な理解を深める。

1 ガイダンス

2～6 現地調査と研究倫理

7～12 参与観察と聞き取り

13～16 フィールドノート

17～23 調査データの整理と分析

24～26 民族誌と記述

27～29 理論と考察

30 総括

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席およびディスカッションへの参加状況（60%）や、各自の調査研究に関する計画もしくは成果の発表（40%）を総合的に判断する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業中に適宜紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

フィールドワークの計画作りや実際の調査に相応の時間を要する。

8. その他/In addition :

特になし。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/01 15:50:35

科目名/Subject : 教育社会学研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2019 福田 亘孝

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

応用多変量解析

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

社会学で用いられる計量分析の中級以上の手法を修得する

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- (1) 社会学で用いられる計量分析の中級以上の手法を理解する
- (2) 一般化線形モデルの理論を理解し、応用した分析ができる
- (3) STATA を用いて中級以上の計量分析を行うことができる

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1 はじめに : 計量分析の可能性と限界
- 2 指数型分布族と一般化線形モデル
- 3 尤度推定と統計量
- 4 正規線形モデル
- 5 STATA 実習 (1)
- 6 二値変数の回帰分析
- 7 名義・順序変数の回帰分析
- 8 STATA 実習 (2)
- 9 ポアソン回帰
- 10 生存時間分析
- 11 STATA 実習 (3)
- 12 制限従属変数モデル
- 13 パネル・データの分析
- 14 傾向スコアと因果分析
- 15 マルチレベル分析

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加度 (20%), 発表・レポート (40%), 課題 (40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

Greene, W. (2011). *Econometric Analysis*. Pearson Education.
 Dobson, A. J. & Barnett, A. (2008). *An Introduction to Generalized Linear Models*. Chapman and Hall/CRC.
 Agresti, A. (2007). *An Introduction to Categorical Data Analysis*. Wiley-Interscience.
 Hosmer, D. W. & Lemeshow, S. (2008). *Applied Survival Analysis*. Wiley-Interscience.
 Guo, S. & Fraser, M. W. (2014). *Propensity Score Analysis*. Sage.
 Raudenbush, S. W. & Bryk, A. S. (2002). *Hierarchical Linear Models: Applications and Data Analysis Methods* (2nd ed.). Sage.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- ★教科書、参考書、配布資料を理解し、授業の予習・復習をする
- ★必要に応じて Reading Assignment と Writing Assignment を課す

8. その他/In addition :

- ★This is NOT an introductory class.
- ★A high level of proficiency in English is required for this class.
- ★Assignment は必ずやり遂げてから授業に出席すること
- ★授業はマナーを守って受講すること。授業にとって迷惑になる場合は、退室を命じる
- ★授業計画は予定であり、実際の授業では予定が変更になる場合があります
- ★成績評価方法は目安であり、変更になる場合があります
- ★本授業科目は、日本社会学会、日本教育社会学会、日本行動計量学会が共同で設立した一般社団法人社会調査協会の定める「専門社会調査士のための必修科目」のうち、「I. 多変量解析に関する演習 (実習) 科目」として認定の申請を予定している授業科目である。社会調査士資格については、<http://jasr.or.jp/>を参照のこと。

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/28 16:55:46

科目名/Subject : 教育社会学研究演習 II

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 島 一則

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

教育経済学領域における計量分析

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本演習では、教育経済学で用いられる複数の統計的手法 (DID, 固定効果モデル, 傾向スコア分析等) について、関連論文・図書の講読と議論を通じて、これらの統計手法についての理解を深める。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

受講学生は、基礎的な統計手法から重回帰分析までの知識を踏まえて、これらの統計的手法に関わる前提や限界について理解するとともに、DID, 固定効果モデル、傾向スコア分析について、その基本的コンセプトから統計的数値の算出のプロセスにおける深い理解を身に着けることが、専門的知識・技能という観点からはその到達目標となる。また、汎用的技能、態度・志向性という観点からは、コミュニケーションスキル・論理的思考力・自己管理力・批判的思考力、生涯学習力を向上させる。特に数量的スキルの向上に力点を置く。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1~3 回 : 基礎統計と重回帰分析の前提と限界

4~6 回 : DID 分析

7~10 回 : 固定効果モデル分析

11~15 回 : 傾向スコア分析

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業内容についての理解とコミットメント (50%)・最終レポート (50%) による。ただし、出席状況によっては受験資格を喪失する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書 : 特になし

授業ごとに指示する

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

予習・復習については授業内容や関連文献に基づいて具体的内容を指示する。予習・復習については授業内容や関連文献に基づいて具体的内容を指示する。

8. その他/In addition :

授業中の発言など積極的な関与を求める

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/12 16:36:17

科目名/Subject : 教育行政学研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 後期集中 その他 連講

担当教員/Instructor : 2019 その他教員

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

諮問機関と行政資料の活用ワークショップ

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育などの行政研究・政策研究を行う上で、(質的研究はもとより、量的研究でも) 政府諸機関の各種資料をなにごしか用いることが通例だろう。諮問機関の報告書・答申であれ、法令・通達類であれ、そのテキストを正確に読み解くには、(教育など) 対象に関する知識だけでなく、それが生み出された過程に関する知見や想像力がなければならない。

そこで、この演習は、これまで主に政治学や行政学の分野で蓄積されてきた知見を元に、後者の力を養うことを目的とする。実際の研究に活用していくためには、人事・組織・財政に関する基礎的なデータとつきあわせながら仮説的にあれこれ思考してみることが重要となる。したがって、この演習でも単に知識を得るというのではなく、受講生自身の研究領域に関連した諮問機関報告書を題材に実践し、担当講師と受講生全員によるワークショップ形式で検討していく形態をとる。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- 1) 必要な政府諸資料と関連データがどこにあるかわかるようになる。
- 2) 諮問機関報告書について、その審議過程も含めて位置づけられるようになる。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

事前準備 : 連続講義という限られた期間で集中的に行うことから、事前に自分自身で分析したい諮問機関報告書を選定しておいてもらう。

第1回～第5回 : 諮問機関に関する基礎的な文献や、各種資料を活用した研究文献を講読し、その可能性を探る。

第6回～第10回 : 実際に、人事・組織・財政などのデータや資料の探索を行うとともに、諮問機関の議事録の読解も行う。

第11回～第15回 : 演習の終盤では、各受講者が自分自身の分析を発表し、全員で検討する。

どの段階にどれほどの時間を割くかは、受講者数にもよるので多少前後することになる。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

演習への参加 (50%) + 自身の課題発表の内容 (50%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

用いる文献については追って指示するが、予習教材としては、

森田朗『会議の政治学』、『会議の政治学 II』、『会議の政治学 III』(慈学社)

青木栄一編『文部科学省の解剖』東信堂、2019年

をあげておく。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

事前にどの諮問機関を扱いたいのか考えておくこと。また、分析のために授業時間外に作業を行う必要がある。

8. その他/In addition :

実際に作業を行ってもらいますので、インターネットに接続できるノート PC やタブレット (キーボードはあったほうがいい) が必携です。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/11 08:50:44

科目名/Subject : 教育行政学研究演習 II

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 後藤 武俊

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

教育政策研究への政治哲学の応用 / Applying Political Philosophy on Education Policy Studies.

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

政治哲学で用いられる規範的分析の手法（功利主義、リベラリズム、共同体主義等の社会構想に基づく教育行政上の諸問題の分析）を学ぶ。

/ The course deals with the normative analysis on education policies by applying the concepts of political philosophy (Utilitarianism, Liberalism, Communitarianism and so on).

NOTICE: This course will be taught in Japanese.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・政治哲学の代表的な社会構想を理解できるようになる。
- ・政治哲学の代表的な社会構想を応用して教育行政上の諸問題を考察できるようになる。
- ・政治哲学の代表的な社会構想を駆使して適切な論証を行えるようになる。

/The goals of this course are to

1) understand typical conceptions in the field of political philosophy.

2) obtain the skill to discuss problems related to education policies by applying the knowledge of political philosophy.

3) obtain the skill to write an article by applying the knowledge of political philosophy.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

テキスト・参考書に挙げた図書を輪読するかたちで進めていく。論点・疑問点をまとめた資料（ワークシート）を毎回作成して持参することが求められる。

/ We will discuss the contents of the textbooks. Participants are required to write their impressions, thoughts and questions for the textbooks on the worksheet every week.

1. オリエンテーション / Orientation

2～8. テキスト①の購読 / Reading textbook No. 1

9～14. テキスト②の購読 / Reading textbook No. 2

15. まとめ / Final Discussion

5. 成績評価方法/Evaluation method :

ワークシートへの評価 (60%)、最終レポート (40%) /

Your overall grade in this class will be decided based on the following:

-- Quality of comments written in worksheet: 60%

-- Final report: 40%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

- ・宮寺晃夫 (2014) 『教育の正義論』 勁草書房(テキスト① / Text No. 1)。
- ・フレイザー, N/ホネット, A (2012) 『再分配か承認か? 政治・哲学論争』 法政大学出版局 (テキスト② / Text No. 2)。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

テキストの熟読およびワークシートの作成。 / Reading textbook and writing comments on worksheet.

8. その他/In addition :

E-mail: taketoshi.goto.a8@tohoku.ac.jp

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/11 15:46:28

科目名/Subject : 比較教育学研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 水曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 石井 光夫

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

OECD 諸国の教育指標

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

OECD (経済協力開発機構) は 1990 年代から教育の国際比較のための教育インディケータ事業 (INES) を行っている。本演習では事業の成果である “Education at a Glance” の最新版 (2018 年版) を読み解き、各インディケータを通して OECD 諸国の教育の現状と近年のトレンドおよびその中で我が国の位相を確認する。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

インディケータの単なる数値比較ではなく、その数値を各国の教育政策や教育制度、行財政制度等の背景との関連で解釈し、これを我が国と比較することにより、教育を巡る様々な問題を国際的な文脈の中で理解し、考えることができるようになることが目標。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

“Education at a Glance” 2018 年版は次のような構成になっている。このテキストにも若干含まれていないが、2019 年 12 月頃に公表が予定されている PISA (生徒の学習到達度調査) 2018 の結果についても取り上げる予定である。

Chapter A : The Output of educational institutions and the impact of learning
(学歴構成, 卒業率, 修了率, 教育からの収益 returns などの指標)

Chapter B : Access to Education, participation and progression
(在学率, 進学率, 海外留学, 就職率などの指標)

Chapter C : Financial and human resources invested in education
(一人当たり教育費, 教育費の規模, 負担区分, 使途構成などの指標)

Chapter D : Teachers, the learning environment and organization of schools
(授業時間, 教員, 学級規模などの指標)

各章から 2~3 のインディケータを選んで担当を決め、内容の把握 (指標の定義, 意味, 結果) と解釈 (制度を踏まえた結果の意味づけ) を報告してもらい、報告に基づいて議論する。各インディケータについて、1 回ないし 2 回分の授業時間を当てる。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

担当の報告発表 (70%) 及び議論への参加や授業態度の平常点 (30%) による。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

OECD, Education at a Glance 2018 OECD INDICATORS
(教員がテキストのコピーを用意する。)

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

担当者以外にもテキストを事前に予習し、内容を理解して授業に臨むよう求める。

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/21 10:20:03

科目名/Subject : 比較教育学研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 2講時

担当教員/Instructor : 2019 井本 佳宏

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

現代教育課題の比較教育学的考察

／Comparative Analysis of Contemporary Issues in Education

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本授業では、現代教育の諸課題に対し比較教育学の視座からアプローチした英文による論稿の講読を通じて、比較教育学の学問的性質への理解を深めるとともに、比較教育学的思考のセンスを身につけることを目指す。

／ The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of comparative education. We shall read papers on comparative education issues.

Notice: This course will be taught in Japanese, although we shall read texts written in English.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 比較教育学の学問的性質を理解する。
2. 教育に関わる具体的課題を比較の視点から考察する力を身につける。
3. 授業への参加を通じて英文読解力、討議能力および論証力を獲得する。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回 オリエンテーション

第2回 Comparative and international education

第3回 Alternative education provision -international perspectives

第4回 Pedagogical outlooks underpinning early-years education and workforce training in England and Hungary

第5回 Spiritual, moral, social and cultural education in Dutch and English primary schools

第6回 The technical and vocational provision in England: a comparative study with the Austrian secondary system

第7回 第2回から第6回までのまとめと討議

第8回 The rise of private supplementary tutoring: contemporary issues and international perspectives on shadow education in China

第9回 The impact of austerity in Further Education: cross-cultural perspectives from England and Ireland

第10回 Academic, vocational and pre-vocational education -origins and development

第11回 Comparative issues and perspectives in adult education and training

第12回 International comparisons in mathematics: perspectives on teaching and learning

第13回 Higher education -from global trends to local realities

第14回 第8回から第13回までのまとめと討議

第15回 全体のまとめと補足

5. 成績評価方法/Evaluation method :

1. 授業内での報告および議論への貢献 (50%)。
2. 期末レポート (50%)。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

・ Bartram, B. (Ed.) (2018) International and Comparative Education: Contemporary Issues and Debates. Routledge.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- ・ 検討対象の文献については授業までに必ず読み、要点をメモにまとめておくこと。
- ・ 各回の報告担当者は事前に配付用のレジюмеを作成すること。

8. その他/In addition :

オフィスアワー 火曜日 13:00～15:00

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/08 20:44:39

科目名/Subject : 教育政策科学合同演習 I

曜日・講時/Day/Period : 通年 木曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2019 島 一則. 青木 栄一. 井本 佳宏. 後藤 武俊. 福田 亘孝

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

教育政策科学研究法

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育社会学、教育行政学、比較教育学、教育経済学の観点から、修士論文作成に向けた課題設定や文献研究についての指導を行う。より具体的には、参加者が各自の研究テーマに即して報告し、論文の執筆や研究を進めるために必要な知識や手法をアドバイスするための授業である。教育政策科学コース前期課程学生の課題研究論文・修士学位請求論文のための研究指導を主たる目的とする。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

受講学生は、学術水準の高い論文を執筆するために必要な力量を形成する。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1 回 : 授業概要の説明、2 ~ 1 4 回 : 受講学生による報告と研究指導、1 5 回 : 授業の振り返りと最終成果報告

5. 成績評価方法/Evaluation method :

貢献度による平常点

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特になし

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

予習・復習については各回の指導内容に基づく研究の授業内容や関連文献に基づいて具体的内容を指示する。

8. その他/In addition :

「課題研究」としての単位認定は、提出された「課題研究論文」を別途審査して行なわれるので注意されたい。

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/27 12:53:11

科目名/Subject : 教育政策科学合同演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 通年 木曜日 5講時

担当教員/Instructor : 2019 島 一則. 青木 栄一. 井本 佳宏. 後藤 武俊. 福田 亘孝

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

教育政策科学研究法

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育社会学、教育行政学、比較教育学、教育経済学の観点から、修士論文作成に向けた課題設定や文献研究についての指導を行う。より具体的には、参加者が各自の研究テーマに即して報告し、論文の執筆や研究を進めるために必要な知識や手法をアドバイスするための授業である。教育政策科学コース前期課程学生の課題研究論文・修士学位請求論文のための研究指導を主たる目的とする。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

受講学生は、学術水準の高い論文を執筆するために必要な力量を形成する。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1回：授業概要の説明、2～14回：受講学生による報告と研究指導、15回：授業の振り返りと最終成果報告

5. 成績評価方法/Evaluation method :

貢献度による平常点

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特になし

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

予習・復習については各回の指導内容に基づく研究の授業内容や関連文献に基づいて具体的内容を指示する。

8. その他/In addition :

「課題研究」としての単位認定は、提出された「課題研究論文」を別途審査して行なわれるので注意されたい。

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/27 12:59:52

科目名/Subject : 成人教育研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2019 高橋 満

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

成人教育の理論と実践研究 (1)

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業では、内外の成人教育理論および実践分析の方法についての文献を読みつつ、現代的課題と理論を学ぶ。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

自ら課題を設定し、理論と実践分析の手法を使い論文を書くことのできる力を養うことを目標とする。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

15回の授業について、各自取り上げるべき論文を検索し、報告をして、それにもとづき議論を深める。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席を重視する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

各回の文献を各自検索、用意する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/12 13:01:56

科目名/Subject : 成人教育研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 3講時

担当教員/Instructor : 2019 高橋 満

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

成人教育の理論と実践研究 (2)

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業では、内外の成人教育理論および実践分析の方法についての文献を読みつつ、現代的課題と理論を学ぶ。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

自ら課題を設定し、理論と実践分析の手法を使い論文を書くことのできる力を養うことを目標とする。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

15回の授業について、各自取り上げるべき論文を検索し、報告をして、それにもとづき議論を深める。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席を重視する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

各回の文献を各自検索、用意する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/12 13:03:06

科目名/Subject : 学校教育論研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期集中 その他 連講

担当教員/Instructor : 2019 その他教員

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

主権者教育について考える

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

近代社会において義務教育が誕生した背景には様々あるが、地域共同体や国家を民主的・平和的、そして時に批判的に支える主権者を育成するという理由もその一つであり、かつ最大の理由と言ってよい。しかし国家が自らの政策や行為を批判的に捉えるような人間をつくっていくための教育をするというのは、当初から自己矛盾であった。そのような中、学校の教師や教育研究者たちは、主権者を作るために、まず授業で何をしなければならないのか、そしてどのような教育体制が必要になるのかについて、真剣に検討してきた。本講義では、実際に主権者教育として行われてきた様々な授業実践を見ていく中で、主権者教育として必要となる授業の条件を学生一人一人が考察できるようになるように支援していくことを目指す。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- (1) 主権者教育として主に現場で行われている授業の大まかな特徴を知る。
- (2) 民主主義社会の形成者（主権者）を育成するという観点からそれぞれの授業の意義と課題について考察できるようにする。
- (3) 義務教育と主権者教育の関係について知る。
- (4) 学習指導要領の存在意義と課題について、そして教師のゲートキーピングの重要性について理解する。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- (1) 近代社会と義務教育（教育史）
- (2) 我が国の主権者教育：社会科の目標とその誕生の背景
- (3) 授業を見る上での2つの視点：「どうやって教えると伝わるのか」問題と「何を、いかに、なぜ教えるのか」問題
- (4) 主権者を育てるには何が必要となるのか：総論
- (5) 理解主義の授業理論とその実際（DVD視聴）
- (6) 主権者教育として理解主義の授業を考える
- (7) 学習指導要領と理解主義
- (8) 教師のゲートキーピングの重要性
- (9) 放任主義の授業理論とその実際（DVD視聴）
- (10) 問題解決主義の授業理論とその実際（DVD視聴）
- (11) 主権者教育として放任主義と問題解決主義の授業を考える
- (12) 科学的探究主義の授業理論とその実際（DVD視聴）
- (13) 主権者教育として科学的探究主義の授業を考える
- (14) 網羅主義の何が問題なのか考える
- (15) 主権者教育を組み立てていく上で大切なこと

5. 成績評価方法/Evaluation method :

初日にレポート課題を示し、最終日の最終時間にレポートを作成して提出してもらおう。そのレポートの内容と出席状況を総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/06/25 11:29

科目名/Subject : 学校教育論研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 その他教員

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

Global Education Reform Movement & The Future of Education in Asian-Pacific Region
グローバル教育改革運動とアジア太平洋地域における教育の未来

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

In the past decades, there is a rapid rise of global education reform movement (GERM) recognized as education policy borrowing for education improvement around the world. As a result, schools got fever, teachers and school leaders coughed heavily, parents got headache, and students lost their appetite to go to schools. This course aims to enable students to deepen their understanding of the ongoing global education reform movement at global and Asia-Pacific region levels. Also, it gives students a platform to explore alternative approaches for education change in Asia-Pacific region. Last but not the least, it is designed to enable students to reconsider the future of education in Japan and Asia-Pacific region by applying the alternative approaches.

The course has three parts. In the 1st part, students review theories and paradigm shifts of global education change in the past decades and common ways of the movement in the global education reform. In the 2nd part, students are invited to share their understanding and insights of the global education reform movements and alternative approaches in Asia-Pacific region by group presentations. In the last part, students are encouraged to explore the achievements and challenges of Japan's education reform and discuss about alternative approaches which can be applied to the future of Japan's education reform.

過去数十年間で、グローバル教育改革運動（GERM）は、教育改善を目指す教育政策のモデルとして世界諸国の教育システムに急速に普及されつつある。しかしながら、その結果、世界諸国の学校教育には様々な問題が生じている。本授業では、学習者がグローバル社会及びアジア太平洋地域におけるグローバル教育改革運動への理解を深め、アジア太平洋地域における教育改善のための新たなアプローチを探求することを通して、アジア太平洋地域（特に日本）における教育の将来を再考する能力を身につけることを目的とする。

本授業は3部で構成されている。第1部では、学習者は過去数十年間における世界の教育変遷に関する理論とパラダイムシフト、そしてグローバル教育改革における動きを理解する。第2部では、学習者はグローバル社会における教育改革の動きと、アジア太平洋地域における新たな教育改善アプローチについての理解と洞察をグループプレゼンテーションにより共有する。最後に、学習者は日本の教育改革の成果と課題を探求し、日本の教育の将来に適用できる代替アプローチについて議論する。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

Goals of study are to enable students to: (1) have a in-depth understanding of the paradigm shifts of global education change and the global education reform movement (GERM), particularly in the Asia-Pacific region, (2) to obtain knowledge and skills of critical thinking for analyzing and interpreting educational issues, (3) to provide relevant and constructive recommendations for the future of education in Japan and the Asia-Pacific region.

本授業で学習者は、(1)グローバル教育変遷のパラダイムシフトとグローバル教育改革運動（GERM）への理解を深め、(2)教育課題に関する分析と解釈に必要な知識と批判的な思考のスキルを習得し、(3)日本を含むアジア太平洋地域における教育の将来に向けた適切かつ建設的な提言ができるようになる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

Week 1 Introduction オリエンテーション

Week 2 Global Education Change グローバル教育の変遷

-the 1st way 第一の道

-the 2nd way 第二の道

-the 3rd way 第三の道

-the 4th way 第四の道

Week 3 Global Education Reform Movement (GERM) 1

グローバル教育改革運動 1

-Competition 競争

Week 4 Global Education Reform Movement (GERM) 2

グローバル教育改革運動 2

-School choice 学校選択

Week 5 Global Education Reform Movement (GERM) 3

グローバル教育改革運動 3

-Accountability & Standardization of Testing

アカウンタビリティと標準化試験

Week 6 Global Education Reform Movement in Asia-Pacific Region 1

アジア太平洋地域におけるグローバル教育改革運動 1

-Presentation session 発表

Week 7 Global Education Reform Movement in Asia-Pacific Region 2

アジア太平洋地域におけるグローバル教育改革運動 2

-Presentation session 発表

Week 8 Global Education Reform Movement in Asia-Pacific Region 3

アジア太平洋地域におけるグローバル教育改革運動 3

-Presentation session 発表

Week 9 The Fourth Way of Global Education Change in Asia-Pacific Region 1

アジア太平洋地域におけるグローバル教育変遷の第四の道 1

-Presentation session 発表

Week 10 The Fourth Way of Global Education Change in Asia-Pacific Region 2

アジア太平洋地域におけるグローバル教育変遷の第四の道 2

-Presentation session 発表

Week 11 The Fourth Way of Global Education Change in Asia-Pacific Region 3

アジア太平洋地域におけるグローバル教育変遷の第四の道 3

-Presentation session 発表

Week 12 Exploring the Fourth Way of Japan's Education Reform 1

日本における教育改革の第四の道を探る 1

Week 13 Exploring the Fourth Way of Japan's Education Reform 2

日本における教育改革の第四の道を探る 2

Week 14 Exploring the Fourth Way of Japan's Education Reform 3

日本における教育改革の第四の道を探る 3

Week 15 Future of Japan's Education

日本の教育の未来

-Presentation session 発表

5. 成績評価方法/Evaluation method:

Class participation (25%) 授業参加 (25%)

Group preparation (35%) グループワーク (35%)

Final group report (40%) 最終報告書 (40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references:

References and reading materials will be distributed at class. 授業内で文献などを配布する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review:

1. Students are highly encouraged to collect information on relevant alternative approaches for educational change and reform in the Asia-Pacific region and actively share the information at class. 学生には、アジア太平洋地域における教育の変遷と改革に向ける新たなアプローチに関する情報を収集し、クラスで情報を共有することを強く推奨する。

2. There are group works for preparing group presentations. グループプレゼンテーションを準備するためのグループワークが時間外学習となる。

8. その他/In addition:

1. Both English and Japanese will be used in this course. Students are highly encouraged to take part in

discussion and make presentations in English. この授業は日本語と英語で行われる。学生には英語で議論および発表に参加することを強く推奨する。

2. Office hour: Friday 2nd period

オフィスアワー：金曜日 2限

9. **更新日付/Last Update :**

2019/03/25 09:35:35

科目名/Subject : 多文化教育論研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2019 末松 和子

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

多文化教育論研究演習 I

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

高等教育におけるカリキュラムの国際化、多文化教育、国際共修、留学生教育等の分野において、先行研究のレビューを中心に現状と課題を整理する。リサーチクエスチョンを設定し、研究の内容に沿った検証方法を検討し、研究計画を立てるための準備を行う。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・ 関心のある研究分野の文献に精通する
- ・ 先行研究レビューをもとに検証すべき課題を設定する
- ・ 定性的研究を中心に調査方法を学ぶ

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第 1 : 授業の概要説明、ディスカッション

第 2~6 回 : 先行研究レビュー

第 7~8 回 : リサーチクエスチョン設定

第 9 回~11 回 : 研究方法

第 12 回~14 回 : パイロット研究

第 15 回 : 授業の振り返りと最終発表

5. 成績評価方法/Evaluation method :

課題 (レポート) 40%、ディスカッションへの貢献 30%、最終プレゼンテーション 30%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない。授業内で文献等を教材として配布する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業に貢献できるよう予習すること

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/22 08:41:41

科目名/Subject : 多文化教育論研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2019 渡部 由紀

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

文献調査研究 I

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

多文化教育論研究演習 I・II は、グローバル共生教育論・多文化教育論コースを専攻する前期課程学生の課題研究論文・修士請求論文のための研究指導を主たる目的としたゼミである。演習 I では、多文化・国際教育研究の領域において、受講生が各自研究テーマを設定し、研究論文を批判的かつ建設的に読み、文献レビューを書く力を身につける。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- 1) 多文化・国際教育研究領域の研究論文を批判的かつ建設的に評価分析ができる。
- 2) 主要調査文献リストを作成する (20 件以上)。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- | | |
|------------|------------------|
| 第 1 回 | 授業概要の説明 |
| 第 2 回～3 回 | 研究テーマおよび文献リストの作成 |
| 第 4 回～14 回 | 受講学生による報告と討議 |
| 第 15 回 | 授業の振り返りと最終成果報告 |

5. 成績評価方法/Evaluation method :

- | | |
|-----------|-----|
| 授業への参加・貢献 | 30% |
| 発表 | 30% |
| 文献調査分析報告書 | 40% |

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書は特に定めないが、授業に沿った参考図書を適宜紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

学習目標の到達に必要な学習

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/14 22:01:17

科目名/Subject : 多文化教育論研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 高橋 美能

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

多文化共生と教育

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本授業は、クラスという1つのコミュニティに参加する一人ひとりの間に「多文化共生」の関係性を構築するため、いかなる教育実践が効果的であるのかを考えることを目的としている。具体的には、学習環境、教育方法、学習テーマの3つの観点から、多文化共生実現に向けた教育実践を検討する。

授業では教育現場における実践に興味のある学生、および自身の研究テーマと関連のある学生を対象に、まずは多文化共生とは何かを考え議論する。そして、自身の研究テーマと多文化共生の関係性を考察する。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 多文化共生社会の構築に必要な教育のあり方を考える。
2. 多文化共生と自身の研究の関係性を考え、文献収集、および分析、発表を通じて自身の研究を深める。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

初回の授業はオリエンテーションで授業概要の説明、および自身の研究分野等の自己紹介を行ってもらう。2回目の授業以降は、議論や文献収集を行いつつ、定期的に自身の研究発表を行ってもらう。最後には自身の研究成果をレポートにまとめ、提出を求める。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席および議論への参加度 (30%)、発表 (30%)、レポート (40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

発表の準備、およびレポート作成にかかる時間

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/13 09:43:22

科目名/Subject : 多文化教育論研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 5講時

担当教員/Instructor : 2019 末松 和子

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

多文化教育論研究演習Ⅱ

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

高等教育におけるカリキュラムの国際化、多文化教育、国際共修、留学生教育等の分野において先行研究レビューをもとに、リサーチクエスチョンを設定し、定性的研究アプローチを用いた研究（パイロット）を実施する。研究の進捗状況を発表しあい相互研鑽を図る。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・先行研究レビューをもとに検証すべき課題を設定する
- ・定性的研究方法を学ぶ
- ・パイロット研究を実施する

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回： 授業の概要説明、ディスカッション

第2～6回： 先行研究レビュー

第7～8回： リサーチクエスチョン設定

第9回～11回： 研究方法

第12回～14回： パイロット研究

第15回： 授業の振り返りと最終発表

5. 成績評価方法/Evaluation method :

- ・発表 30%、レポート 50%、ディスカッション 20%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業内で配布する

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

発表の準備、およびレポート作成にかかる時間

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/22 08:43:04

科目名/Subject : 多文化教育論研究演習 II

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2019 渡部 由紀

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

文献調査研究 II

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

多文化教育論研究演習 I・II は、グローバル共生教育論・多文化教育論コースを専攻する前期課程学生の課題研究論文・修士学士請求論文作成のための研究指導を主たる目的としたゼミである。演習 II では、演習 I で受講生が各自の研究テーマに即して進めてきた文献レビューを基礎に、研究論文の序章をドラフトする。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- 1) 研究課題および研究課題に対する具体的な問いを立てることができる。
- 2) 研究論文の序章(ドラフト)を完成させる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- | | |
|------------|----------------------------------|
| 第 1 回 | 授業概要の説明 |
| 第 2 回 | 研究科題名 (仮でもよい) と研究の概要と計画 (A4-1 枚) |
| 第 3 回～14 回 | 受講学生による報告と討議 |
| 第 15 回 | 授業の振り返りと最終成果報告 |

5. 成績評価方法/Evaluation method :

- | | |
|---------------|-----|
| 授業への参加・貢献 | 30% |
| 発表 | 30% |
| 研究論文の序章(ドラフト) | 40% |

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書は特に定めないが、授業に沿った参考図書を適宜紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

学習目標の到達に必要な学習

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/14 22:03:12

科目名/Subject : 多文化教育論研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 高橋 美能

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

多文化共生と教育

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本授業は、クラスという1つのコミュニティに参加する一人ひとりの間に「多文化共生」の関係性を構築するため、いかなる教育実践が効果的であるのかを考えることを目的としている。具体的には、学習環境、教育方法、学習テーマの3つの観点から、多文化共生実現に向けた教育実践を検討する。

授業では教育現場における実践に興味のある学生、および自身の研究テーマと関連のある学生を対象に、まずは多文化共生とは何かを考え議論する。そして、自身の研究テーマと多文化共生の関係性を考察し、クラス内での発表を通じて自身の研究を深め、論文執筆に向けた準備を行う。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 多文化共生社会の構築に必要な教育のあり方を考える。
2. 多文化共生と自身の研究の関係性を考え、発表や論文執筆を通じて自身の研究を深める。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

初回の授業はオリエンテーションで授業概要の説明、および自身の研究分野等の自己紹介を行ってもらう。2回目の授業以降は、定期的に自身の研究発表を行ってもらい、クラス内で参加者と共に議論する。最後はレポートの提出を求める。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席および議論への参加度 (30%)、発表 (30%)、レポート (40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

発表の準備、およびレポート作成にかかる時間

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/13 09:44:40

科目名/Subject : グローバル共生教育論合同演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2019 高橋 満, 末松 和子, 高橋 美能

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

グローバル共生教育論の検討

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業では、各指導教育の指導のもとにグローバル共生教育に関連する基本文献を収集し、これをもとに参加者が報告・議論する。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

グローバル化がすすむなか、教育にどのような課題が投げかけられているのか。労働、生活、教育の領域における変容と、それへの対応に関する議論の到達点についての先端的教育学の議論を理解することを目標にする。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

基本的に、各参加者の報告にもとづいて、これを検討するように進める予定である。適宜、各指導教員ごとにすすめることがある。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席 (40%) と報告および討議への参加をもとに評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

なし

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/12 13:05:11

科目名/Subject : グローバル共生教育論合同演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2019 末松 和子. 高橋 満. 高橋 美能. 渡部 由紀

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :
2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :
追って、掲示にて周知する。
3. 学習の到達目標/Goal of study :
4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :
5. 成績評価方法/Evaluation method :
6. 教科書および参考書/Textbook and references :
7. 授業時間外学習/Preparation and Review :
8. その他/In addition :
9. 更新日付/Last Update :
2019/03/19 16:32:17

科目名/Subject : 教育アセスメント研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2019 有本 昌弘

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

21 世紀型学習環境としてのアセスメントとリーダーシップ

Assessment and Leadership as a 21st Century Learning Environment

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

アセスメントとエヴァリュエーションのシナジー効果という政策と実践を通底する概念枠組みが、21 世紀型学習環境とそのイノベーションに結実している海外の動向を把握し、国内でもアクセスできる方法と受け入れられるアプローチや方向について検討する。その際、ゆとり教育から、教育の来し方を振り返るとともに、学際分野を切り拓くシステム思考とデザイン思考を核に、世界を見るグローバルコンピテンシーなどを、21 世紀型のコンピテンシーを取り上げる。ルーブリックをもとに、論文やプレゼンについて、国際バカロレアのディプロマ・プログラム (IBDP)、知識の理論 (TOK) の日本国内での展開も参考にする。

To grasp a conceptual framework based on the policy and practice of synergy between assessment and evaluation, and the trends of the 21st century learning environment and the overseas trends resulting in its innovation, accessible methods and acceptable approaches. And look at 21st century competencies, such as global competencies that look at the world, centering on system thinking and design thinking that opens up interdisciplinary fields, as well as looking back on how education was. Referred to the development of the International Baccalaureate Diploma Program (IBDP) and the theory of knowledge (TOK) based on rubrics for papers and presentations.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

新聞や論文、雑誌の記事やニュースにアンテナを広げているという証拠を示すような深い課題をワークシートやカード配布により進めます。MIT で開発されたシミュレーションゲームを仲間と試みるとともに、パフォーマンス課題のうち 2 回は、読み物を通じて、手書きないし無償ソフトウェア利用による成果物提示を求めます。

Worksheets and card distribution are used to carry out a deep task, such as showing evidence that the antenna has been extended to newspapers, articles, magazine articles and news. As well as trying out a simulation game developed at MIT, two of the performance tasks require handwriting through reading.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第 1 回 スクール・ベースト・アプローチによる開発と OECD シナリオ手法
- 第 2 回 日本の歴史的経緯の検討と実践の吟味および分析枠組みの探索
- 第 3 回 カリキュラム評価とアセスメントに関する課題とその枠組み
- 第 4 回 学びを創り出すアセスメントによるカリキュラム評価の再考
- 第 5 回 イノベティブな学習環境のための学習リーダーシップ
- 第 6 回 教育組織において授業を維持向上させる実践
- 第 7 回 変革の時代において学習をリードすること
- 第 8 回 PISA にみる課題 (リテラシー、コンピテンシー) のレビュー
- 第 9 回 日本イノベーションスクールプロジェクト (NPO、企業との連携を含む)
- 第 10 回 OECD 2030 に向けたカリキュラムのリデザイン 海外の優れた実践との連携・高校との比較
- 第 11 回 4 つの側面 (知識、スキル、人間性、メタ学習) による 21 世紀コンピテンシー
- 第 12 回 システム思考のアセスメントタスクとシステムダイナミックス
- 第 13 回 システム思考のアセスメントタスクとシステムダイナミックス
- 第 14 回 システム思考のアセスメントタスクとシステムダイナミックス
- 第 15 回 まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

基本的にはレポート (40%)、出席点 (40%) で総合的に判断する。用意したいいくつかの問いを含むアサインメントに対する何らかのアセスメントによる加点方式をとる (20%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

Creswell, J. (2010) 『人間科学のための混合研究法—質的・量的アプローチをつなぐ研究デザイン』 北大路書房
Richards, L. et al (2008) 『はじめて学ぶ質的研究』 医歯薬出版

OECD (2008) 『学びのイノベーション— 21世紀型学習の創発モデル』 (有本監訳 2016) 明石書店

OECD-CERI (2013) Innovative Learning Environments, OECD

OECD-CERI (2013) Leadership for 21st Century Learning, OECD

Parsons, Jim. (2012) From knowledge to action: shaping the future of curriculum development in Alberta. Alberta Education.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/09 16:04:28

科目名/Subject : 教育アセスメント研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 3講時

担当教員/Instructor : 2019 松林 優一郎

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

自然言語処理学の最前線

Cutting-edge research on natural language processing

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

大規模データを使った様々なテキスト解析技術について、特に基盤技術や汎用技術を中心に最前線の研究成果を学ぶ。演習は主要な論文の精読を中心とした輪講形式で進める。

This course offers an opportunity to learn recent research topics in the field of natural language processing (NLP) by collaboratively reading and discussing about important papers, particularly focusing on the ones about fundamental and general-purpose NLP technologies.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 自然言語処理に関する最新の研究成果に関する知見を深める

2. 学術論文を調査し、読み解く能力を得る

3. 論文読解を通して、問題の提起から解決手法の提案、結論までの論理的な考えの筋道をトレースできるようになる

The goals of this course are to:

1. widely understand the recent research in NLP,

2. improve the skills in surveying and reading academic papers, and

3. acquire an ability to trace the logical paths presented in papers.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回 オリエンテーション

第2回 単語ベクトルと分布意味論 (1)

第3回 単語ベクトルと分布意味論 (2)

第4回 ニューラル言語モデル (1)

第5回 ニューラル言語モデル (2)

第6回 構文解析 (1)

第7回 構文解析 (1)

第8回 意味解析 (1)

第9回 意味解析 (2)

第10回 敵対的学習

第11回 強化学習

第12回 クラウドアノテーション

第13回 ニューラル機械翻訳

第14回 質問応答 (1)

第15回 質問応答 (2)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業での発表と議論への参加度 (100%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

講義毎に適宜資料を配布する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. その他/In addition :

本研究演習履修のためには「教育アセスメント特論Ⅱ 前期 月曜日 3講時」を履修済みのこと。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/15 08:51:35

科目名/Subject : 教育アセスメント研究演習Ⅲ

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 熊谷 龍一. 有本 昌弘. 佐藤 智子. 柴山 直. 松林 優一郎

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

教育評価・測定論研究の実際 (2)

Research of Educational Assessment and Measurement II

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

各自の関心に基づいた研究を遂行し、その発表と共同討議を通じて、教育評価・教育測定論に関する高度な知見を確立することを目的とする。

The aim of this course is to acquire the comprehensive knowledge about educational assessment and measurement. Students tackle some research topics based on individual interests, make oral presentation and discuss collaboratively.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 各自の研究テーマに沿った研究を遂行できる。
2. 発表と共同討議を通じて、教育評価・教育測定論分野の幅広い知見を獲得する。
3. 発表と共同討議を通じて、研究者に求められる討議能力を獲得する。

The goals of this course are to

1. Tackle some research topics based on individual interests,
2. Obtain comprehensive knowledge about educational assessment and measurement, through oral presentations and joint discussions,
3. Obtain the discussion ability as researchers, through presentations and joint discussions.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション (1 回)
2. 各自の研究発表と共同討議 (14 回)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表・レビュー (70%), 討議への参加 (30%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

講義中に適宜指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

先行研究の探索・整理, レビューの執筆, 発表資料の作成

8. その他/In addition :

教育情報アセスメントコースの教育評価測定論領域に所属する院生は、すでに受講済みの学生であっても、各自の研究を相対化し知見を広げる機会となるので、原則参加すること。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/06 14:35:20

科目名/Subject : 教育測定学研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2019 柴山 直

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

CBT による自動スコアリングの基礎

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

CBT(Computer-Based Testing)を利用したエッセイタイプテストのプロダクトの自動採点 (AI 採点) や問題項目の自動生成 (Automated Item Development) のアルゴリズムを理解するのに必要な統計的機械学習理論の基礎を学ぶことを目的とする。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

統計的機械学習技術を教育に応用できる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

授業方法 : 輪講方式にもとづくソクラテスマETHOD

進行予定 :

- 第1回 教師あり学習の概要
- 第2回 回帰のための線形手法
- 第3回 分類のための線形手法
- 第4回 基底展開と正則化
- 第5回 カーネル平滑化法
- 第6回 モデルの評価と選択
- 第7回 加法的モデル, 木, および関連手法
- 第8回 ブースティングと加法的木
- 第9回 ニューラルネットワーク
- 第10回 サポートベクトルマシンと適応型判別
- 第11回 プロトタイプ法と最近傍探索
- 第12回 教師なし学習
- 第13回 ランダムフォレスト
- 第14回 アンサンブル学習と無向グラフィカルモデル
- 第15回 高次元の問題: $p \gg N$

5. 成績評価方法/Evaluation method :

毎回課す報告に対する評価の合計点

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書 :

Trevor Hastie ほか (著), 杉山 将ほか (翻訳)
「統計的学習の基礎 —データマイニング・推論・予測—」
共立出版

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. その他/In addition :

積み上げ型の演習のため聴講制限有り : 教育測定特論 I を既修済みであること

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/12 17:17:54

科目名/Subject : 教育測定学研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 2講時

担当教員/Instructor : 2019 熊谷 龍一

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

項目反応理論に基づくテストの分析手法

Test data analysis using item response theory

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

昨今、多くのテスト分析で用いられている項目反応理論 (Item Response Theory: 以下 IRT) について、その基本概念から発展モデルの理解、および実際のテストデータ分析手法を習得する。

This course deals with basic concepts and advanced model of item response theory. It also enhances the development of student's skill in test data analysis using item response theory.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. IRT の基本概念を理解し、テストデータ分析結果を正しく読み取ることができる。
2. 実際のテストデータに対して、IRT 分析を行うことができる。
3. IRT の発展モデル (多値型モデル, 多次元モデル) について、その概要を説明できる。

The goals of this course are to

1. be able to understand the basic concept of IRT, read the result of test data analysis,
2. be able to analyse the real test data using IRT,
3. be able to describe and explain advanced model of IRT.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回: オリエンテーション: 授業全体の概要把握

第2回: IRT 理解に必要となる数学的知識 (1) 統計学の基礎

第3回: IRT 理解に必要となる数学的知識 (2) 基礎解析 (微分, 積分, 指数関数)

第4回: Concepts, Models, and Features

第5回: Ability and Item Parameter Estimation (1)

第6回: Ability and Item Parameter Estimation (2)

第7回: Assessment of Model-Data Fit

第8回: The Ability Scale

第9回: Item and Test Information and Efficiency Functions

第10回: Test Construction

第11回: Identification of Potentially Biased Test Items

第12回: Test Score Equating

第13回: Computerized Adaptive Testing

第14回: Future Directions of Item Response Theory

第15回: Conclusion

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加度 (発言, 質問等, 50%), 適宜行う小レポート+最終レポート (50%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

Hambleton, R. K., Swaminathan, H., and Rogers, H. J. (1991) Fundamentals of Item Response Theory. Sage Publications, Inc.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/14 16:19:07

科目名/Subject : 教育情報学基礎論研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2019 渡部 信一

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

これまでの ICT を活用した教育に関する研究成果を理解する。

「学び」の認知科学を応用した学習指導ができるようになる。

映像撮影・編集手法、プログラミング教育に関する基礎知識・実践力を身に着ける。

超デジタル時代における学びの問題に関する教育・研究の計画・実施する能力の獲得を目指す。

近年は教育の様々な場面で映像が用いられることが増えている、またプログラミング教育の必要性がうたわれている。そのため今後は、映像を自らの手で教材化し、授業に活用する能力、またプログラミングに関する知識とそれを教育に生かす能力が求められる。しかしながら単に映像を用いればよい授業になる、プログラムを書けばよいわけではない。そこで演習前半では番組製作を通して、その映像撮影・編集の技術を習得するとともに、教材を作る際に考慮すべき点を、「学び」の認知科学を背景にしながら学ぶ。後半ではプログラミング教材を活用しながらプログラムの知識を得るとともに、その教育手法、プログラミング教育で得られる能力、さらにはプログラム（ロボット）と人の違いとは何かについて考察していく。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

超デジタル時代における「学び」に関する教育・研究の計画・実施する能力の獲得する。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1 オリエンテーション

2 超デジタル時代の学び ICT を活用した教育(1) e-ラーニングの実践

3 超デジタル時代の学び ICT を活用した教育(2) モーションプロジェクト

4 協同的な学びと認知科学

5 グループによる映像製作活動-(1) 撮影・編集手法の習得

6 グループによる映像製作活動-(2) シナリオと教授デザイン・認知科学

7 グループによる映像製作活動-(3) シナリオとコンテ作製と指導案

8 グループによる映像製作活動-(4) 番組制作

9 グループによる映像製作活動-(5) 番組の評価

10 プログラミング教育実習-(1) プログラミング教育の背景

11 プログラミング教育実習-(2) 学習アプリのデザイン

12 プログラミング教育実習-(3) 学習アプリの作製・評価

13 プログラミング教育実習-(4) 人の学びとコンピュータの学習「フレーム問題」

14 プログラミング教育実習-(5) プログラミング学習と論理的思考

15 まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

ミニットペーパーと発言、レポートおよび、演習で作製された成果物から総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書： 渡部信一著 『AI に負けない「教育」』(大修館書店 2018)

(教科書は図書館等で借りるか、購入することが望ましい。)

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

講義の中で指示する書籍を学習する。

8. その他/In addition :**9. 更新日付/Last Update :**

2019/03/11 11:02:14

科目名/Subject : 教育情報学基礎論研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 熊井 正之

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

アクセシビリティとユーザビリティ

Accessibility and Usability

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業では、学習コンテンツや学習システムのアクセシビリティとユーザビリティについて学ぶ。また、教育情報学の研究に必要な知識と技能の習得も目指す。

This course deals with accessibility and usability of e-learning contents and platforms. It also helps students acquire the skills and knowledge necessary for conducting educational informatics research.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

この授業の目標は、(1)学習コンテンツや学習システムのアクセシビリティ・ユーザビリティを理解し、説明できるようになること、(2)教育情報学の研究に必要な知識と技能を習得することである。

The goals of this course are to

(1) be able to explain accessibility and usability of e-learning contents and platforms,

(2) acquire the skills and knowledge necessary for conducting educational informatics research.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. イントロダクション

2. アクセシビリティとユーザビリティ

3-4. アクセシビリティの問題

5-6. Usability methods

7-8. ユーザビリティテスト

9-14. 発表と討論

15. 総括

1. Introduction

2. Definition of accessibility and usability

3-4. Accessibility issues

5-6. Usability methods

7-8. Usability testing

9-14. Presentation and discussion

15. Review

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表・授業への取り組み (約 80%)、学期末課題 (約 20%)

Presentations and class participation (about 80%), final paper (about 20%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

各回に配付する資料を教科書・参考書として用いる。

No textbooks will be used. References are handed out at every class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

課題に取り組むことを中心に、各回の配付資料を用いて復習すること。

Students are required to make a thorough review each class using handouts, mainly by completing assignments.

8. その他/In addition :

1) 欠席する場合には事前に申し出てください。

2) オフィスアワーは月曜 13時から 14時 30分です。事前に eメール等でアポイントメントをとってください。

1) If you have to absent from class, you must notify the lecturer in advance.

2) Office hours are from 13:00 to 14:30 on Mondays. Make an appointment in advance via e-mail or other means.

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/12 18:50:47

科目名/Subject : 教育情報学基礎論研究演習Ⅲ

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 佐藤 克美

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

ICT教材の作製・ICTを用いた学びの体験

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

ICTを効果的に教育に活用するためには、単にそれを使うだけでなく教育者がICTの基礎を理解し、それを用いた教材を作製したり評価したりできること、さらにはICTを学習者に使用させることができることが重要である。またICT活用が学習者に与える影響を理解しなければならない。そこで本演習ではICTを用いた教育の例としてCGを用いた教材を取り上げ、それを実際にデザイン、プログラムし作製する。さらにはICTを用いた学びを受講生自らが実際に体験することで、ICTを活用した教育手法の基本について体得する。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・ICTが人と社会にどのような影響を及ぼすかを理解する。
- ・ICTを活用した教材の作製ができる。(特にCGを用いた教材の作製)
- ・自らICTを積極的に活用し学ぶことができる。
- ・ICTを教育・学習に活用しようとする人に対して、適切な支援・助言ができる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション ～概要、評価方法の説明～
2. 人間とICTとの関わり
3. ICTによる社会と文化の変化
4. コミュニティの活用と新しい文化
5. CG教材を用いた教育(1) CG教材のデザイン
6. CG教材を用いた教育(2) CG教材の作り方
7. CG教材を用いた教育(3) CG教材の作製①
8. CG教材を用いた教育(4) CG教材の作製②
5. CG教材を用いた教育(5) CG教材の受講と評価
10. モノづくりによる学習(1) 外部情報の取得(センサーの活用)
11. モノづくりによる学習(2) プログラムによる動作制御(ロボット)
12. モノづくりによる学習(3) 簡単な教育ロボットのデザイン
13. モノづくりによる学習(4) 簡単な教育ロボットの製作
14. モノづくりによる学習(5) ロボットを活用した学びの体験
15. まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業毎に行うミニットペーパーの内容、授業内の発言とレポート課題、及び演習中作製した成果物により評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

必要に応じて配布

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

教材作製などの活動は授業時間外にも相当な時間行う必要があります。

8. その他/In addition :

ICTについてポジティブに活用し、それらを生かした新しい使い方について模索する意欲が必要です。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/11 11:53:01

科目名/Subject : 教育情報学応用論研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 1 講時

担当教員/Instructor : 2019 倉元 直樹

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

Advanced Seminar on Application Theories of Educational Informatics I

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

指導と評価は一体である。各教科の指導法の成果を評価するためのテスト法の専門的な知識について習得するとともに、授業の進捗状況によっては ICT を活用したテスト法である e テスティングの基礎となる理論についても触れる。まず、テスト作成の基本、試験問題の開発、実施といった側面について我が国のテストの品質基準である「テスト・スタンダード」を参考とする。授業の後半には、テスト作成実習とデータ収集の演習も取り入れたい。教育情報学応用論特論 I、II の履修を前提とする。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・教育評価・測定の方法に関する実践的な基礎を学ぶ。
- ・テスト法の実践について、我が国の実践に沿った方法論について学ぶ。
- ・将来、教育評価のための大規模テストの開発、実施に責任ある立場となるための基礎を学ぶ。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

授業計画

第1回：オリエンテーション

第2回：テスト・スタンダード1：テスト・スタンダードの構成、基本条項

第3回：テスト・スタンダード2：テストの定義

第4回：テスト・スタンダード3：開発と頒布

第5回：テスト・スタンダード4：実施と採点

第6回：テスト・スタンダード5：結果の利用、記録と保管

第7回：テスト・スタンダード6：コンピュータを利用したテスト

第8回：テスト・スタンダード7：テスト関係者の責任と倫理

第9回：e テスティングの基礎理論1：項目反応理論のモデル

第10回：e テスティングの基礎理論2：テスト情報量とテストの精度

第11回：テスト開発演習1：客観式テストの開発：テスト問題の作成と集計、分析

第12回：テスト開発演習2：記述式テストの開発（1）：テスト問題の作成

第13回：テスト開発演習3：記述式テストの開発（2）：ルーブリックの構成

第14回：テスト開発演習4：e テスティングの開発：項目プールの考え方

第15回：まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席状況（ミニットペーパーと授業内の発言）とレポート課題、及びディスカッションでの発言内容・態度等を総合的に判断して評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

テキスト： 日本テスト学会編（2007）『テスト・スタンダード』、金子書房

参考書： 荒井克弘・倉元直樹編著（2008）『全国学力調査——日米比較研究——』、金子書房

戸瀬信之・西村和雄編（2011）『教育における評価とモラル』、東信堂

その他、必要に応じて配付

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業時間内に指示する。

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/13 11:44:52

科目名/Subject : 教育情報学応用論研究演習Ⅲ

曜日・講時/Day/Period : 後期 水曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 佐藤 智子

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

社会構成主義の学習方法と評価

Learning methods and evaluation of socio-constructivism

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本演習では、社会構成主義の概念や方法が、教育制度や教育カリキュラムの中でどのように具体的にデザインされ、実践されているのかを明らかにし、その在り方について熟議・考察する。

受講生がその具体的な実践方法や評価について調査・考察し、報告する。この報告に基づいて授業の場で対話と議論を図り、アイデアの創発と深化を目指す。

The object of this class is to clarify how the concepts and methods of socio-constructivism are specifically designed and practiced in the educational system and educational curriculum.

We aim at dialogue and discussion for emergence and deepening of each ideas.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1) 社会構成主義の学習理論が、現代教育の中でどのように具体化・制度化されているかを理解する。

2) 社会構成主義の考え方を踏まえて、その過程や成果を評価する方法論について自らの考えをまとめ深化させる。

3) 授業への積極的な参加を通して、学習に関する多様な考えや価値観を理解・受容したり、討議や対話に参画するために必要な能力を醸成・向上させる。

1) Understand how the learning concepts of socio-constructivism is realized and institutionalized in modern education practices.

2) Based on the concepts, to summarize and deepen your thoughts and ideas about process and the methodology to evaluate its outcome.

3) Understand and accept diverse ideas and values of learning through your active participation in classes, then to foster and improve each generic ability to facilitate your academic discussion and dialogue.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

この授業では、社会構成主義の考え方・理論的基礎を踏まえた上で、その考え方がどのように制度化され、カリキュラムの中でデザインされ、あるいは実践の中に導入されているのかを明らかにし、その方法と評価のあり方について考察する。

授業は、一方向的な講義ではなく、共創と対話を基本とするワークショップ形式とし、受講者には積極的な参加（発言と傾聴）を期待する。毎回の課題として、各自が授業の記録（議論の要約など）を作成し、ふり返り（リフレクティブ・ジャーナルの作成など）を行うことを基本とする。

予定の詳細は、状況に合わせて、受講生と相談の上で決定・調整する。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への積極的な参加（20%）、担当回の報告（30%）

毎回の小レポート（授業記録とリフレクティブ・ジャーナル）（50%）

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

〈参考書〉OECD 教育研究革新センター『学習の本質—研究の活用から実践へ—』明石書店、2013 年

その他、必要に応じて授業内で紹介する。また各自で関連文献を探索して予習・復習することを期待する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

担当テーマについて各自（各グループ）で調査し、論点をまとめてくる。

毎回の授業について、授業記録（授業内容の要約）とふり返り（リフレクティブ・ジャーナル）を課す。

8. その他/In addition :

教育情報学応用論特論Ⅲの履修を前提とする。

問い合わせ・相談がある場合には、下記まで連絡してください。

メールアドレス : sato-t@tohoku.ac.jp

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/07 19:12:06

科目名/Subject : 教育情報学実践論研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 小嶋 秀樹

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

人間と情報テクノロジーの融和による新しい「学び」の実践的構築

Designing innovative "learning" based on the interaction of humans and information technologies

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

テクノロジーを活用した新しい「学び」を構想し、システムとして実装し、実験や実用に供するまでの一連のプロセスを修得する。個人またはグループで「学び」の形を構想し、教育情報学実践論特論1で学んだメディア技術（組込みコンピュータ）やセンシング技術（視線計測・身体動作計測など）を活用した具体的なシステムを構築することで、新しい「学び」のシステム開発プロセスを修得していく。

In this course of lectures, students design new styles of "learning" that utilize information technologies and learn how to put the design in practice for experiments and social implementations. Students are encouraged to utilize the fundamental knowledge and skills of ICT (especially, gaze analysis and bodily motion analysis) that had been covered in the corresponding "Advanced Lecture". Through these activities, students learn the process of system development for innovative learning.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

・「学び」を支援・拡張するためのシステム構築に必要な、基礎的なプログラミング技術・実装技術を理解・説明できる。

・自分がデザインした新しい「学び」をシステムとして構築し、評価実験などに活用するまでの一連のプロセスを理解・実践・発表することができる。

・新しい「学び」に対する構想力とシステム構築力を接続し、今後の研究の進め方を具体的に考察・説明することができる。

To be able to understand and explain the information technology for supporting and expanding the learning.

To be able to understand and practice the way to design and implement innovative learning.

To be able to envision further study and research on this field by connecting the theory and practice on innovative learning.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回：イントロダクション

第2回：教育メディア演習：組込みコンピュータ製作

第3回：教育メディア演習：電子工学入門（1）

第4回：教育メディア演習：電子工学入門（2）

第5回：教育メディア演習：センサの接続と活用

第6回：教育メディア演習：アクチュエータの接続と活用

第7回：教育メディア演習：メディア制作演習（1）

第8回：教育メディア演習：メディア制作演習（2）

第9回：行動センシング演習：視線計測の方法と事例

第10回：行動センシング演習：視線計測の研究構想

第11回：行動センシング演習：視線計測実験（1）

第12回：行動センシング演習：視線計測実験（2）

第13回：行動センシング演習：視線計測分析

第14回：行動センシング演習：視線計測のまとめ・発表

第15回：まとめ・講評

5. 成績評価方法/Evaluation method :

3つの小課題（各20%）と最終課題（40%）に対する取り組み、システムの完成度、そのプレゼンテーションなどを総合して評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

田所淳「Beyond Interaction: クリエイティブ・コーディングのための openFrameworks 実践ガイド」ビー・エヌ・エヌ新社

小嶋秀樹・鈴木優「Miyagino ではじめる電子工作」工学社

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

演習室あるいは学外でのプログラミング等の取組に期待する。

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/13 14:19:00

科目名/Subject : 教育情報学実践論研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 2講時

担当教員/Instructor : 2019 中島 平

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

教育情報学実践論研究演習Ⅱ

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教えること、あるいは学ぶことを、テクノロジーによってより効果的にするための方法を実践を通して学ぶ。

例えばショーンの省察的実践を学習者が身につけるのを支援するために、どのような学習プログラムとテクノロジーを提供できるかを学ぶ。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・あなた自身の興味や経験から、テクノロジーを活用してより効果的にしたい教育・学習のテーマを選ぶことができる。
- ・選んだテーマの学習プロセスを記述し、テクノロジーによって改善・置き換えができる部分を見いだすことができる。
- ・上記のテーマに関して、テクノロジーによってより効果的に支援するための方法を提案できる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション
2. テクノロジーによる教育・学習の支援
3. 事例紹介 1
4. 事例紹介 2
5. テーマを選ぶ
6. 学習プロセスを記述する
7. 学習プロセスの課題を探る
8. 課題に対する解決法を学ぶ 1
9. 課題に対する解決法を学ぶ 2
10. 課題に対する解決法を学ぶ 3
11. テクノロジーの導入 1
12. テクノロジーの導入 2
13. 学習プログラムの設計 1
14. 学習プログラムの設計 2
15. 全体の振りかえり

5. 成績評価方法/Evaluation method :

1. 授業内での種々の活動への取り組み (20%)
2. 授業内での発表 (30%)
3. 最終レポート (50%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

1. 毎回の復習
2. 発表準備
3. 最終レポート

8. その他/In addition :

- ・授業において、研究開発中のテクノロジーを使ってもらうことがある。
- ・授業で得られたデータ（授業映像など）を、後に研究目的で使う可能性がある。授業外でデータを使用されたくない場合は、事前に担当教員に連絡のこと。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/12 09:58:51

科目名/Subject : 教育情報学実践論研究演習Ⅲ

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 山下 祐一郎

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

情報セキュリティに関する授業を実施するための知識・技能を獲得する

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本授業では、ICT (Information and Communication Technology) 活用教育において必要不可欠な情報リテラシーと授業設計について学ぶ。特に、情報セキュリティを中心に授業を展開する。情報セキュリティとは何であるか？一般的なイメージは、「情報を守る」ことである。しかし、現実には、情報を大切に保管するだけでなく、使いたいときにアクセスできなければならない。情報を守るだけであれば、だれにも利用できないように隠しておくことが最も安全である（実際にそのように保管されている情報もある）。ところで、情報セキュリティ教育（学習者の情報セキュリティを向上させるための教育）は、大学などの高等教育だけでなく、現在は小学校から実施されている。そのため、様々な教育的な取り組みが行われている。以上を踏まえて、本授業では、情報セキュリティに関する知識・技能の獲得だけでなく、情報セキュリティ教育を実施するための知識・技能の獲得も目的としている。なお、本授業では、演習を中心にこの授業目的を実現する。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・ICT 社会に必要な情報リテラシー（「情報セキュリティ」を中心とする）に関する知識について説明できる
- ・情報リテラシー（「情報セキュリティ」を中心とする）を獲得する授業を実施することができる
- ・学習用プログラミング言語 Scratch を用いてプログラムとは何かを説明することができる（情報セキュリティの理解には、プログラムの知識が重要である）

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション

情報セキュリティチェックシートを実施し、自分自身の情報セキュリティのレベルについて確認する

2. 情報セキュリティとは

機密性、可用性、完全性など情報セキュリティの基礎を概観する。また、情報セキュリティの一番の弱点はユーザであることを確認し、情報セキュリティ教育の必要性に気付く。

3. パスワードを破るとは

カード当てゲームを例にして、パスワードの破る理屈を考える。力任せ検索（ブルートフォースアタック）の有効性と防御方法について理解をする。

4. 人はどうして情報を流出させるのか

情報セキュリティの大きな脅威となっている「標的型攻撃」と「ソーシャルエンジニアリング」について概観する。また、オレオレ詐欺の仕組みについても考えてみる。

5. 偽 Web サイトを作ってみよう

標的型攻撃の利用する重要なツールが偽 Web サイトである。HTML の基礎を学びつつ、偽 Web サイトの作成が簡単であることを実感する。

6. 偽 Web サイトへどうやって誘導するか？

偽 Web サイトを作っただけでは意味がない。そのサイトへ導く必要がある。そのために、悪意ある人はメールや SMS の文面を工夫している。悪意ある人の気持ちになって、思わずクリックしたくなる文面を作ってみる。

7. 情報活用能力（「情報モラル」を含む。）について

小学校から高等学校では、情報モラルの向上で情報セキュリティリテラシーの育成を図っている。

8. Scratch の準備とサンプルプログラムの作成

Scratch を利用するための準備である。練習として三角形を描画するプログラムを作成する。

9. Scratch で多角形を描画するプログラムの作成

10. 多角形を描画するプログラムの発表会

11. Scratch でパスワードの重要性を学ぶプログラムを設計する

設計段階。パスワード・パスフレーズの重要点を議論する。その中で、自分が教育したい事項を考え、プログラムの設計に盛り込む。

12. Scratch でパスワードの重要性を学ぶプログラムを作成する①

13. Scratch でパスワードの重要性を学ぶプログラムを作成する②

14. Scratch でパスワードの重要性を学ぶプログラムの発表会

15. まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

成績は以下を総合的に判断する。

1. 授業内の活動（例えば、ディスカッション、リフレクションシートなどの）: 30%

2. Scratch によるプログラム : 約 40%

3. レポート (2 回を予定) : 約 30%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

必要な資料は講義の中で配布もしくは紹介する

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業に関して予習と復習を行うこと。予習については講義で課題を課すが、その課題を授業時間外に行ってきたことを前提に講義をする。

8. その他/In addition :

特に無し

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/20 14:33:32

科目名/Subject : オープンエデュケーション論合同演習

曜日・講時/Day/Period : 通年 水曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2019 小嶋 秀樹, 尹 得霞, 大河 雄一, 熊井 正之, 佐藤 克美, 爲川 雄二, 中島 平, 渡部 信一

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

教育情報デザイン論領域における研究方法の修得
Designing research on educational informatics

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育情報デザイン論に関する研究を進める上で求められる基礎的な能力について学ぶ。研究の在り方や意義についての理解、研究方法に関する基礎的な理解、研究論文の書き方や研究発表の方法についての基礎といった多様な視点から、教育情報デザイン論の研究を進める上で修得が強く望まれる事項について学ぶ。

In this course of seminars, students acquire the basic capabilities on designing and proceeding your own research for Master thesis. Topics include, but not limited to, the significance of research activities, how to proceed with your research, how to write reports and thesis, and how to present your work.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

・教育情報デザイン論に関連する研究手法に関する基本的な知識を学び、研究事例から学ぶことや、研究事例を批評することができる。

・自身の研究を進める上で必要な基礎的な研究方法論（研究の進め方、論文の書き方、発表の仕方など）や事例を学び、その後の学修・研究に向けた動機づけや、実践的な教育方法・教材等の開発に向けた見通しを持つことができる。

To be able to learn the fundamental methods in the research on educational informatics, and to learn and critically evaluate the existing research cases in this field.

To be able to learn the fundamental skills for conducting and presenting your research, and to motivate yourself for further study and research in this field.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回：イントロダクション－趣旨説明・ISTUの活用（小嶋・佐藤）・留学生へのアドバイス（尹）

第2回：研究方法論（1）－研究方法入門（小嶋）

第3回：研究方法論（2）－認知科学の研究手法（渡部）

第4回：研究方法論（3）－コミュニケーション研究の方法（熊井）

第5回：研究方法論（4）－研究方法の展開（中島）

第6回：研究方法論（5）－教育現場での研究（佐藤）

第7回：研究発表の作法（1）－研究発表の基礎（佐藤）

第8回：合同セミナー（1）－修士論文中間発表会（参加・聴講）

第9回：研究発表の作法（2）－統計の基礎（小嶋ほか）

第10回：研究発表の作法（3）－続・統計の基礎（小嶋ほか）

第11回：合同セミナー（2）－課題研究構想発表会（参加・発表）

第12回：論文の書き方（1）－論理的な文章の書き方（小嶋）

第13回：論文の書き方（2）－論文執筆の理論と実際（小嶋）

第14回：合同セミナー（3）－課題研究発表会（参加・発表）

第15回：合同セミナー（4）－修士論文発表会（参加・聴講）

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業時間内で随時行うミニットペーパー（計40%）と複数回の実践演習（論理的な作文、プレゼンテーション等）の出来（計40%）、合同セミナーへの参加態度（計20%）などを総合して評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特になし（授業内で資料を適宜配布する）

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. その他/In addition :

本演習には、教育情報デザイン論分野の専任教員で共担する。

本演習は通年科目であるが、毎月2回（水曜2限）を原則として隔週開講する。初回は4/10水曜の予定。詳細は年度初めのオリエンテーションなどで周知する。

4回ある「合同セミナー」では、研究発表会等への参加聴講または参加発表を行う。これらの回については当該研究発表会への参加をもって出席とみなす。

研究発表会等にスケジュール等に合わせて、上記の授業内容について一部テーマや実施順序の変更がありうる。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/13 13:15:02

科目名/Subject : 教育心理学研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2019 深谷 優子, 工藤 与志文

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

教育心理学研究の構想と展開 1

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業は、大学院生各自の研究について、それぞれの構想ないしデータ収集中の研究の途中経過を報告し、参加者全員で検討することを通して、研究の構想とその具体化、研究結果の記述などについて相互に学習する機会を提供することを目的とする。

The aim of this course is to help students acquire necessary skills and knowledge that needed to conduct psychological research in education.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ① 研究計画の立案方法について知識を得る。
- ② 自身の研究構想を実現するための具体的なデータ収集計画を立案できる。
- ③ 教育心理学研究におけるデータ分析の手法について理解を深める。
- ④ 自身の研究のデータ分析を的確に行うことができる。
- ⑤ 研究結果や考察の記述・呈示の方法について知識を得る。
- ⑥ 自身の研究結果について、適切な考察を記述できる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第 1 回 ~ 第 15 回 学生各自が自身の研究構想ないし途中経過について報告し、自由討議を行う。さらに、討議の結果、構想ないし研究計画にどのような変更が加えられたかについて報告する。研究で得られたデータおよびその分析についても報告対象とし、これらについて議論を行う。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表および授業への参加・貢献 (50%), 期末レポート (50%) により評価する。

Grading will be based on your presentation and a fraction of in-class contribution(50%) and term paper(50%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に用いない。参考書については授業内で適宜紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- ・ 研究構想 (途中経過も含む) を立案する。
- ・ データおよびその分析を遂行する。
- ・ 討議の準備 (報告者によるレジュメ作成, 受講者による質問準備等) を行う。
- ・ 討議の結果を研究構想・計画, 論文等に反映させる。

8. その他/In addition :

この講義は教育心理学を研究テーマとした学生を対象としているが、他の心理学分野を研究テーマとする学生の参加も妨げない。

This course is for students whose research interests in Educational Psychology. Other psychology students are also welcomed.

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/20 14:12:26

科目名/Subject : 教育心理学研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 5講時

担当教員/Instructor : 2019 深谷 優子・工藤 与志文

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

教育心理学研究の構想と展開 2

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業は、教育心理学研究演習Ⅰを踏まえて、大学院生各自の研究について、それぞれの構想ないしデータ収集中の研究の途中経過を報告し、参加者全員で検討することを通して、研究の構想とその具体化、研究結果の記述などについて相互に学習する機会を提供することを目的とする。

The aim of this course is to help students acquire necessary skills and knowledge that needed to conduct psychological research in education.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ①研究計画の立案方法について知識を得る。
- ②自身の研究構想を実現するための具体的なデータ収集計画を立案できる。
- ③教育心理学研究におけるデータ分析の手法について理解を深める。
- ④自身の研究のデータ分析を的確に行うことができる。
- ⑤研究結果や考察の記述・呈示の方法について知識を得る。
- ⑥自身の研究結果について、適切な考察を記述できる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回～第15回 学生各自が自身の研究構想ないし途中経過について報告し、自由討議を行う。さらに、討議の結果、構想ないし研究計画にどのような変更が加えられたかについて報告する。研究で得られたデータおよびその分析についても報告対象とし、これらについて議論を行う。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表および授業への参加・貢献(50%)、期末レポート(50%)により評価する。

Grading will be based on your presentation and a fraction of in-class contribution(50%) and term paper(50%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に用いない。参考書については授業内で適宜紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- ・研究構想(途中経過も含む)を立案する。
- ・データおよびその分析を遂行する。
- ・討議の準備(報告者によるレジュメ作成、受講者による質問準備等)を行う。
- ・討議の結果を研究構想・計画、論文等に反映させる。

8. その他/In addition :

この講義は教育心理学を研究テーマとした学生を対象としているが、他の心理学分野を研究テーマとする学生の参加も妨げない。

This course is for students whose research interests in Educational Psychology. Other psychology students are also welcomed.

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/20 14:14:10

科目名/Subject : 学習心理学研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2019 工藤 与志文

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

教授法と学習に関する研究の動向

Research trends on instruction

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

近刊のハンドブック掲載論文を講読し、教授法と学習に関する研究の動向について検討する。

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the research trends on instruction..

3. 学習の到達目標/Goal of study :

①教授法と学習に関する研究動向について知る。

②研究動向と自身の研究テーマとの関連について理解する。

By the end of the course, students should be able to do the following:

- Obtain basic knowledge about the research trends on instruction.
- Understand the relationship between current trends and their research subjects.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

以下のトピックに関する研究動向について検討する。

- フィードバック情報
- 事例
- 自己説明
- 仲間との相互作用
- 協同学習
- 探究活動
- 討論
- 個人指導
- 映像化
- コンピュータシミュレーション

This course deals with the following topics.

- Instruction Based on Feedback
- Instruction Based on Examples
- Instruction Based on Self - explanation
- Instruction Based on Peer Interaction
- Instruction Based on Cooperative Learning
- Instruction Based on Inquiry
- Instruction Based on Discussion
- Instruction Based on Tutoring
- Instruction Based on Visualizations
- Instruction Based on Computer Simulations

5. 成績評価方法/Evaluation method :

討議への参加度 50%、期末レポート 50%

Class attendance and attitude in class: 50% - Report: 50%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

Mayer, R. E., & Alexander, P. A. (Eds.). (2011). Handbook of research on learning and instruction. Taylor & Francis.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

あらかじめ指定された文献を読み、内容を理解しておくとともに、必要に応じて事前学習や資料調べを行う。

The students are recommended to prepare each lecture by reading the corresponding chapter in the textbook.

8. その他/In addition :

連絡先: :kudou@sed.tohoku.ac.jp

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/28 17:00:29

科目名/Subject : 発達心理学研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2019 神谷 哲司, 本郷 一夫

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

発達心理学研究の方法と分析 I

Methods and Analyses of Developmental Psychology Research I

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業では、大学院生各自の研究について、それぞれの構想と内容（目的・方法・結果等）を発表し、参加者全員で検討することを通して、研究の進め方、研究結果の記述、提示の方法について学ぶことを目的とする。

This course deals with the basic psychological research skills through discussion about participants' research design and report.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 研究計画の立案方法について学ぶ。
2. 発達心理学研究におけるデータ分析の手法について学ぶ。
3. 研究の結果と研究目的、考察との関連性の記述方法について学ぶ。

The goals of this course are to learn

1. the way to make a research design
2. methods of data analysis on developmental psychological research.
3. how to describe connected thesis through purpose, results, and discussion.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション：発達心理学的アプローチ
2. 研究結果の発表と討論①：博士前期 1 年生による発表(1)
3. 研究結果の発表と討論②：博士前期 2 年生による発表(1)
4. 研究結果の発表と討論③：博士前期 1 年生による発表(2)
5. 研究結果の発表と討論④：博士前期 2 年生による発表(2)
6. 研究構想の発表と討論①：博士前期 1 年生による発表(1)
7. 研究構想の発表と討論②：博士前期 2 年生による発表(1)
8. 研究構想の発表と討論③：博士前期 1 年生による発表(2)
9. 研究構想の発表と討論④：博士前期 2 年生による発表(2)
10. 先行研究のレビューの方法について
11. 「問題と目的」の構成について
12. 「方法」及び方法論について
13. 統計的検定について
14. 分析結果と「結果」の記述方法について
15. 「考察」の進め方と「討論」「課題」について

5. 成績評価方法/Evaluation method :

レポート (50%) と授業への参加度 (50%) により評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業時間内に指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

事前に配布されたプリントを読み、授業を受講すること。

8. その他/In addition :

授業中の質疑応答、議論に積極的に参加することを要望する。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/13 13:17:10

科目名/Subject : 発達心理学研究演習 II

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2019 神谷 哲司

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

発達心理学研究の方法と分析 2

Methods and Analyses of Developmental Psychology Research II

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業では、大学院生各自の研究について、それぞれの構想と内容（目的・方法・結果等）を発表し、参加者全員で検討することを通して、研究の進め方、研究結果の記述、提示の方法について学ぶことを目的とする。

This course deals with the basic psychological research skills through discussion about participants' research design and report.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 研究計画の立案方法について学ぶ。
2. 発達心理学研究におけるデータ分析の手法について学ぶ。
3. 研究の結果と研究目的、考察との関連性の記述方法について学ぶ。

The goals of this course are to learn

1. the way to make a research design
2. methods of data analysis on developmental psychological research.
3. how to describe connected thesis through purpose, results, and discussion.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション：発達心理学的アプローチ
2. 研究結果の発表と討論①：博士前期 1 年生による発表 (1)
3. 研究結果の発表と討論②：博士前期 2 年生による発表 (1)
4. 研究結果の発表と討論③：博士前期 1 年生による発表 (2)
5. 研究結果の発表と討論④：博士前期 2 年生による発表 (2)
6. 研究構想の発表と討論①：博士前期 1 年生による発表 (1)
7. 研究構想の発表と討論②：博士前期 2 年生による発表 (1)
8. 研究構想の発表と討論③：博士前期 1 年生による発表 (2)
9. 研究構想の発表と討論④：博士前期 2 年生による発表 (2)
10. 先行研究のレビューの方法について
11. 「問題と目的」の構成について
12. 「方法」及び方法論について
13. 統計的検定について
14. 分析結果と「結果」の記述方法について
15. 「考察」の進め方と「討論」「課題」について

5. 成績評価方法/Evaluation method :

レポート (50%) と授業への参加度 (50%) により評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業時間内に指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

事前に配布されたプリントを読み、授業を受講すること。

8. その他/In addition :

授業中の質疑応答、議論に積極的に参加することを要望する。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/13 13:17:10

科目名/Subject : 発達臨床論研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2019 本郷 一夫

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

縦断的研究から示唆される子どもの発達過程
/Child's development process suggested from longitudinal study

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

イギリスで行われた縦断調査の資料を読むことを通して、子どもの発達過程について学ぶことを目的とする。
/ Learn about a child's development process by reading the data of the longitudinal study in Britain.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 子どもの発達過程について学ぶ 2. 初期の発達と後の発達との関係について知る 3. 発達研究の方法について学ぶ
/1. Learn about a child's development process, 2. Learn about the relation between the early development and later development. 3. Learn about the method of development research

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. ダグラス・ベビー
2. 生まれながらの落伍者?
3. 病めるときも健やかなるときも
4. 生き残る
5. 年を重ねて賢くなる
6. 開かれる
7. 新世紀の子どもたち
8. 溝を埋める
9. 彼らはどこに
10. 様々な縦断研究
11. コホート研究と縦断研究
12. 縦断研究の長所と短所
13. 子どもの発達を理解する方法
14. 実践研究の重要性
15. 全体のまとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

レポート (30%) と授業への参加度 (70%) により評価する。
/The degree of participation to a class(70%) and the submitted report (30%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

ヘレン・ピアソン著 (太田直子訳) 『ライフ・プロジェクト 7万人の一生からわかったこと』(みすず書房)

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

事前に教科書を読み、授業を受講すること。
/Read the textbook in advance

8. その他/In addition :

講義に加え、グループワーク、ディスカッションなどのアクティブラーニング的要素を取り入れた授業を展開する。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/05 12:32:05

科目名/Subject : 発達臨床論研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 3講時

担当教員/Instructor : 2019 神谷 哲司

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

夫と妻の生涯発達心理学

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

夫婦の発達段階における現代的な夫婦関係の多様性に着目し、最近の研究動向を概観する。

This course deals with the contemporary diversity of marital couples on their developmental stages.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・各発達段階における、夫婦関係の重要な用語と概念について説明できる。
- ・現代社会における夫婦研究の主なトピックについて理解する。

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Recognize and recall major terms and concepts in marital relationships on each developmental stage.
- ・ Understand general topics of marital couple studies on the contemporary society.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション
2. 社会変動と夫婦関係をめぐる発達の課題
3. 夫婦関係に関する生涯発達の研究の動向
4. 恋愛から婚約、新婚期の夫婦関係
5. 結婚生活の破綻
6. 妊娠・出産過程における夫婦関係
7. 不妊治療とペリネイタルロス
8. 乳幼児期から児童期にかけての子どもの成長と夫婦関係
9. 子どもの青年期への移行、巣立ちと夫婦関係
10. 子どもの発達障害と夫婦関係
11. 家族の個人化と夫婦関係
12. 中年期の危機とアサーション
13. 老年期のソーシャルネットワークと夫婦関係
14. 夫婦間介護—被介護関係への移行
15. 配偶者喪失への心理的支援

5. 成績評価方法/Evaluation method :

レポート (50%) と授業への参加度 (50%) により評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

宇都宮博・神谷哲司(編著). 『夫と妻の生涯発達心理学』福村出版 2016年

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業時間内に指示する。

8. その他/In addition :

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/13 13:17:10

科目名/Subject : 発達障害学研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2019 野口 和人

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

発達障害学研究法 (1)

Research methods of developmental disabilities (1)

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

課題論文・修士論文, 学会発表論文, 学術論文などの作成に向け, 文献紹介・研究発表とそれらに基づく議論を通じて受講者各自の研究内容を深めることを目的とする。

Those who take this advanced seminar will advance their own research through introduction of literature in relevant areas and presentation of their own research, and discussion based on them.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

①論文作成及びプレゼンテーションのスキルを習得する。

②受講者各自の研究テーマに関する国内外の研究動向, 理論を把握する。

After taking this advanced seminar, you should be able to :

①Prepare the thesis and research presentation at academic societies.

②Describe theories and the research trends on your own research themes.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1～5. 各自の研究テーマに関する諸文献のクリティカル・レビュー

6～10. 各自の研究テーマに応じた研究デザインの検討

11～15. 各自の研究テーマに応じたデータ収集・分析の方法の習得

5. 成績評価方法/Evaluation method :

平常点(50%), 討論への参加(25%), 研究発表内容(25%)により, 総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない。必要な資料は授業の際に配布する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

文献紹介・レビュー・論文等作成に向け, 毎週複数の国内外の研究論文を読み進める。

8. その他/In addition :

この授業は, 発達障害学を専攻する学生を対象とする。また, 発達障害学研究演習Ⅲと連続して行うので, 受講者はⅠ・Ⅲの両方を履修すること。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/10 17:15:47

科目名/Subject : 発達障害学研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2019 川崎 聡大

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

発達障害学研究法

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

研究計画法を中心に、課題研究、修士論文の作成に向けた研究指導を行う。受講者は自分の研究に関する先行研究のレビューならびに研究状況の発表を行い、質疑や討論を通して研究を深める。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

先行研究の検索ならびにレビュー（プレゼンテーション）の方法について習熟し、研究方法や最新の研究知見について理解を深める。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

本演習は修士論文作成に向けた演習であり、以下の通り各自の研究テーマに沿った発表から15回を構成する。1. 先行研究のレビュー, 2. 各自の研究に関する構想発表, 3. 各自の研究計画に該当する必要な研究法（統計解析等）の習熟。これらについて受講生相互の討論により理解を深める。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業（ディスカッション）への参加（70%）、レポート（30%）

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Class attendance and attitude in class: 70%

- Short reports: 30%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各自の発表内容並びに関連領域について適宜習熟を深める。

8. その他/In addition :

この授業は1・2学期を通して行われるので、受講者は連続して履修すること。

本演習は発達障害に関する研究を修論のテーマとする学生を対照とし、演習の中で研究データを深めうるものを対象とする。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/12 16:30:06

科目名/Subject : 発達障害学研究演習Ⅲ

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2019 野口 和人

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

発達障害学研究法 (2)

Research methods of developmental disabilities (2)

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

課題論文・修士論文, 学会発表論文, 学術論文などの作成に向け, 文献紹介・研究発表とそれらに基づく議論を通じて受講者各自の研究内容を深めることを目的とする。

Those who take this advanced seminar will advance their own research through introduction of literature in relevant areas and presentation of their own research, and discussion based on them.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

①論文作成及びプレゼンテーションのスキルを習得する。

②受講者各自の研究テーマに関する国内外の研究動向, 理論を把握する。

③受講者各自の研究を纏める。

After taking this advanced seminar, you should be able to :

①Prepare the thesis and research presentation at academic societies.

②Describe theories and the research trends on your own research themes.

③Make your own research thesis.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1～5. 各自が研究テーマに沿って収集したデータの分析結果の検討

6～10. 各自の研究テーマに関し, 得られた知見と従来の知見との比較検討

11～15. 各自の研究のまとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

平常点(50%), 討論への参加(25%), 研究発表内容(25%)により, 総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない。必要な資料は授業の際に配布する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

研究発表・論文作成に向け, 国内外の研究論文の知見の整理, 収集したデータの分析を進める。

8. その他/In addition :

この授業は, 発達障害学を専攻する学生を対象とする。また, 発達障害学研究演習Ⅰと連続して行うので, 受講者はⅠ・Ⅲの両方を履修すること。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/10 17:18:34

科目名/Subject : 発達障害学研究演習Ⅳ

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2019 川崎 聡大

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

発達障害学研究法

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

研究計画法を中心に、課題研究、修士論文の作成に向けた研究指導を行う。受講者は自分の研究に関する先行研究のレビューならびに研究状況の発表を行い、質疑や討論を通して研究を深める。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

先行研究の検索ならびにレビュー（プレゼンテーション）の方法について習熟し、研究方法や最新の研究知見について理解を深める。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

本演習は修士論文作成に向けた演習であり、以下の通り各自の研究テーマに沿った発表から 15 回を構成する。1. 先行研究のレビュー, 2. 各自の研究に関する構想発表, 3. 各自の研究計画に該当する必要な研究法（統計解析等）の習熟。これらについて受講生相互の討論により理解を深める。

*本演習は前期のⅡを引き継ぐものであり継続した履修がのぞまれる

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業（ディスカッション）への参加（70%）、レポート（30%）

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Class attendance and attitude in class: 70%

- Short reports: 30%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各自の発表内容並びに関連領域について適宜習熟を深める。

8. その他/In addition :

この授業は 1・2 学期を通して行われるので、受講者は連続して履修すること。

本演習は発達障害に関する研究を修論のテーマとする学生を対照とし、演習の中で研究データを深めうるものを対象とする。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/12 16:32:13

科目名/Subject : 臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践)

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2019 安保 英勇

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

心理アセスメント演習

psychological assesment

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

質問紙法によるパーソナリティと症状の査定、及び知能の査定を扱う。講義と共に実際のツールに触れ、体験的な理解も目指す。

This class deals with personality and symptom assessment by questionnaire method and assessment of intelligence.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

心理アセスメント技法の基礎を習得する。諸検査の特徴を理解し、必要に応じ適切な検査を選択し、実施できるようになる。

Learn the basics of psychological assessment techniques.

Understand the characteristics of various tests.

Participants will be able to select and conduct appropriate inspections as necessary.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. 性格の類型論
- 2.-3. 性格の特性論
- 4-10 パートナリティテスト
- 11-12 精神症状の査定
- 13-15 知能テスト

1. Typology of personality

2.-3. Trait theory

4-10 Personality tests

11-12 Assessment of mental states

13-15 Intelligence test

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加状況 30%、学期末のレポート 70%

attitude in class:30%, final report:70%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

参考書 : 下仲順子編、臨床心理査定技法 1、誠信書房、2004。このほか適宜教室で指示。

Some handouts will be distributed in the class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

テキスト講読、質問票への回答等

Text reading, answering questionnaire etc.

8. その他/In addition :

この授業は、臨床心理研究コースの学生のために開設されている。

This class is set up for students of the clinical psychology research course.

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/13 08:55:49

科目名/Subject : 臨床心理査定演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 2講時

担当教員/Instructor : 2019 加藤 道代

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

心理アセスメント演習 / Psychological Assessment

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

ロールシャッハ・テスト包括システムを紹介し、実施方法と結果の整理および解釈の基本を学習する。 / This course is designed to enable participants to understand the Exner's Comprehensive System as one of the psychological assessment methods.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

ロールシャッハ・テストにおけるコーディングの基本を学ぶ。アセスメント技術としての施行法の習得および検査データの統合の仕方を学ぶ。 / At the end of the course, participants are expected to develop coding skills and integrate assessment findings with the Exner's Comprehensive System.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. はじめに / Theoretical background, norms
2. ロールシャッハ・テストとは / Rorschach test and the Exner's Comprehensive System
3. 実施手順 / Administration
4. 反応領域 / Location and Space Codes
5. 発達水準と組織化活動 / Development Quality and Z-scores
6. 決定因1 / Determinants1
7. 決定因2 / Determinants2
8. 決定因3 / Determinants3
9. 反応内容と平凡反応 / Contents, Popular Codes
10. 特殊スコア / Cognitive Codes and Other Special Scores
11. 構造一覧表の作成 / Scoring a full protocol
12. クラスタ分析の原則と解釈戦略 / Interpretive principles and procedures
13. 構造分析1 / Structural summary 1
14. 構造分析2 / Structural summary 2
15. ケースのまとめ / Case Illustration

5. 成績評価方法/Evaluation method :

- 授業への取り組み (30%) / Participasion (30%)
 小テスト (30%) / Quizzes (30%)
 ケースレポート (40%) / Final case report (40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書: なし。資料を配布する。
 参考書: ジョン・E・エクスナー著 中村紀子・野田昌道監訳 ロールシャッハ・テストー包括システムの基礎と解釈の原理— 2014 金剛出版 / Reference: John E Exner Jr. The Rorschach A Comprehensive System Vol.1-Basic Foundations and Principles of Interpretation (4th Edition). 2003.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

上記テキスト(臨床心理相談室に備付)により、各自、事前事後学習を行うこと / Reference books kept in the counseling office are available for participants' preparation and review.

8. その他/In addition :

この授業は、臨床心理学コースの学生のために開設されている。 / This course is provided for master's students in clinical psychology.

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/13 10:49:02

科目名/Subject : 臨床心理基礎実習

曜日・講時/Day/Period : 通年 火曜日 1 講時. 通年 火曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2019 安保 英勇. 加藤 道代

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

カウンセリングの体験的学習

Experiential learning of counseling

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

臨床心理学に必要な基礎的な面接技法を修得する。

Learning basic counseling techniques necessary for clinical psychology

3. 学習の到達目標/Goal of study :

カウンセリング場面で必要とされる基本的な技法を修得し、実践的に活用できるようになる。技法修得を通じてのクライアント理解への姿勢をより深める。

Participants will

- 1)acquire the basic techniques required in the counseling
- 2)be able to use counseling skills practically.
- 3)deepen their understanding of clients.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

カウンセリングのトレーニングプログラムであるマイクロカウンセリングに基づいて、カウンセリングの諸技法を体系的に学ぶ。前期は基本的かかわり技法を中心に、各技法の解説、映像教材による技法の観察、小グループでのロールプレイによる練習、振り返り、といった段階により修得した後、試行カウンセリングを行い、より具体的な理解を図る。これを受けて後期は、試行カウンセリングを連続的に行い、そのプロセスを含めて詳細に検討し、より実践場面にむけた技法の修得とクライアントへの傾聴と共感についての体験的理解を深める。

1-4 オリエンテーション、グループエンカウンター

5-16 基本的かかわり技法：かかわり行動、質問技法、はげまし技法、いいかえ技法、感情の反映技法、要約技法、5段階の面接。

17-30 試行カウンセリング(1)：基本的関わり技法を用いた試行カウンセリングの実施、逐語録の作成、スーパービジョン、カウンセリングプロセスの検討など。

31-60 試行カウンセリング(2)：試行カウンセリングの実施、逐語録の作成、スーパービジョン、カウンセリングプロセスの検討を通じて、基本的かかわり技法を基礎とした技法の統合を体験する。

Participants systematically learn counseling techniques based on counseling training program, micro counseling. In the first semester, after acquiring the basic engagement technique, trial counseling is performed using counseling techniques.

In the second semester, trial counseling will be conducted continuously and the process will be examined in detail. Participants will acquire hands-on techniques and deepen their experiential understanding of listening to clients and empathy.

1-4 Orientation, group encounter

5-16 Basic attending skills

17-30 trial counseling 1

31-60 trial counseling 2

5. 成績評価方法/Evaluation method :

討議への参加状況 (60%)、発表とレポート (40%) による。

attitude in class:60%, presentations and final report:40%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

アイヴィら (福原真知子訳) 1999、マイクロカウンセリング基本的かかわり技法、丸善

Ivey A.E., Gluckstern N. B., Ivey M. B., Basic attending skills 3rd edition.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

テキストの事前講読、修得技法の練習、試行カウンセリングの実施と逐語録の作成

Preliminary reading of text, practice of acquired technique, implementation of trial counseling and creation of serialization

8. その他/In addition :

この授業は、臨床心理学コースの学生のために開設されている。

This class is set up for students in the clinical psychology course.

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/13 10:25:39

科目名/Subject : 臨床心理実習 I (心理実践実習 I)

曜日・講時/Day/Period : 通年集中 その他 連講

担当教員/Instructor : 2019 上埜 高志, 安保 英勇, 加藤 道代, 砂川 芽吹, 前田 駿太, 吉田 沙蘭, 若島 孔文

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

臨床心理演習/

Clinical Psychology (Practice)

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

心理臨床の専門性を有した援助と連携について、実習を通じて学習する。/

In this subject, students will learn about specialized support methods and cooperation in clinical psychology.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

実際の心理面接を遂行できること、また、他機関との連携ができること。/

The goal is to allow students to conduct actual psychological interviews and to be able to collaborate with other organizations.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

実習講義事前指導、大学病院実習、学外実習施設（保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野）、学内相談施設（臨床心理相談室における心理面接、ケース検討（第1学期）、スーパービジョン）での実習を軸に進める。

心理に関する支援を要する者等に関する知識および技能（コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等）、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握および支援計画の作成、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携および地域連携、職業倫理および法的義務等の内容について、実習を通じて学習する。/

This subject is practical training in the Clinical Counseling Room in Tohoku University and the outside institute (health and medical field, welfare field, education field, legal field, and industry field).

Through practical training, learn about specialized knowledge and skills (communication, psychological assessment, psychotherapy, regional support, etc.) professional understanding needs, preparing support plans, professional team approach, multi-occupation collaboration and regional collaboration, professional ethics and legal obligations.

5. 成績評価方法/Evaluation method :

学内・学外両実習の活動状況（70%）およびレポート（30%）で総合的に判断する。/

Evaluate by activities and submission of several reports

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

実習先等に関する資料を随時、提示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各実習先の概要および関連する法律の調査、実習記録の作成。/

Preparation of practical training and preparation of report

8. その他/In addition :

この授業は、臨床心理学コースの学生のために開講されている。

実習先に関する詳細は別紙にて配布する。

9. 更新日付/Last Update :

2019/03/11 14:52:46

科目名/Subject : 臨床心理実習 II

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2019 加藤 道代, 安保 英勇, 上埜 高志, 砂川 芽吹, 前田 駿太, 吉田 沙蘭, 若島 孔文

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

心理臨床ケースカンファレンス / Case Studies in Clinical Psychology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

心理面接に関する基本的な事項について、事例を通して学び、心理臨床の理論と方法を理解する。 / This course deals with case studies to help participants learn basic concepts and principles of clinical psychology. It also provides an overview of therapeutic approach and practical skills for psychological counseling.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

グループ討論や全体討論を通して、カウンセラーがどのように相談者の状況や感情を理解し、問題解決のために動くことができるのかを理解すること。面接の枠組み、見立て、諸技法による対応を現実の事例対応に活かせるようになること。 / Through class work and group discussion, participants should be able to do the following:

- ・ Understand how counselors work to identify issues, explore clients' feelings, and resolve their concerns.
- ・ Apply therapeutic structure, approach and skills to actual psychological counseling situations.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

授業では各回 1 事例の検討を行う。面接担当者による事例報告、簡単な質疑応答後、グループワークによる事例検討を行う。受講者は、事例について意見、疑問等を積極的に発言し、グループおよび全体で議論し、事例の理解を深める。 / Psychological case studies based on presentation of counseling cases and group discussions.

5. 成績評価方法/Evaluation method :

グループワークへの参加状況 (40%) / Participation in group discussion (40%)

事例に関する各回レポート (60%) / Brief report each week (60%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書は特に定めない。テキストは適宜紹介する。 / Reference will be introduced in the class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

予習・・・資料は授業終の月曜日から臨床心理相談室事務室内で閲覧できるので、事前に目を通しておくとよい。 / Participants are expected to prepare each discussion by reading the case materials prior to the class.

復習・課題・・・授業を通じて事例から学んだことはレポートにまとめて翌週提出する。 / Participants should turn in brief report each week.

8. その他/In addition :

・この授業は臨床心理学コースの学生のために開設される。 / This course is provided for master's students in clinical psychology.

・来談者の人権を尊重し、個人、家族等、関係者の情報保護に十分な配慮をすること。 / Respect the human rights and protect personal privacy for clients and the people concerned.

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/13 10:29:10

科目名/Subject : 臨床心理実習Ⅲ (心理実践実習Ⅱ)

曜日・講時/Day/Period : 通年集中 その他 連講

担当教員/Instructor : 2019 若島 孔文. 安保 英勇. 上埜 高志. 加藤 道代. 砂川 芽吹. 前田 駿太. 吉田 沙蘭

単位数/Credit(s) : 2

科目ナンバリング/Course Numbering :

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

臨床心理実習 / Clinical Psychology (Practice)Ⅲ

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

心理臨床の専門性を有した援助と連携について、実習を通じて学習する。 / In this subject, students will learn about specialized support methods and cooperation in clinical psychology.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

実際の心理面接を遂行できること、また、他機関との連携ができること。 / The goal is to allow students to conduct actual psychological interviews and to be able to collaborate with other organizations.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

実習講義事前指導、学外実習施設（保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野）、学内相談施設（臨床心理相談室における心理面接、ケース検討、スーパービジョン）での実習を軸に進める。

1. ～30. を通じて、以下の内容について実習を通じて学習する。

心理に関する支援を要する者等に関する知識および技能（コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等）、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握および支援計画の作成、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携および地域連携、職業倫理および法的義務 /

This subject is practical training in the Clinical Psychology Counseling Room in Tohoku University and the outside institution (health and medical field, welfare field, education field, legal field, industry field).

Through practical training, learn about specialized knowledge and skills (communication, psychological assessment, psychotherapy, regional support, etc.), professional understanding needs, preparing support plans, professional team approach, multi-occupation collaboration and regional collaboration, professional ethics and legal obligations.

5. 成績評価方法/Evaluation method :

学内・学外両実習の活動状況（70%）および期末レポート（30%）で総合的に判断する。 / Evaluate by activities and submission of several reports

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

実習先等に関する資料を随時、提示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各実習先の概要および関連する法律の調査、実習記録の作成。 / Preparation of practical training and preparation of report

8. その他/In addition :

この授業は臨床心理学コースの学生のために開講されている。

実習先に関する詳細は別紙にて配布する。

9. 更新日付/Last Update :

2019/02/13 12:33:11

